



地域との協働による高等学校教育改革推進事業
〔 地域魅力化型 〕

研究開発実施報告書（第1年次）



令和3年3月
兵庫県立村岡高等学校

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

但馬地域が輩出した日本のペスタロッチと言われた東井義雄。彼の「村を育てる学力」の理念は、現在の教育に通じる。本プロジェクトは、生徒が地域での学びを通して、「村(地域)を育てる学力」等を身につけるとともに、どの地域で暮らしてもふるさとを愛する、未来型人材の育成を行う。

村岡高校のある香美町の魅力

- 山・川・海の豊かな自然環境
- 但馬牛・マツバガニなど豊富なブランド食材
- スキー・登山など多様なアウトドアスポーツ施設

香美町の課題

- 若い世代の流出による人口減少の加速化と少子高齢化の進展
- 地域を支える担い手の高齢化による観光産業等の後継者問題
- 雪不足など気象変化の影響によるスキー以外の魅力づくり

村岡高校の目指す姿

地域を愛し、地域課題の解決に寄与する「人づくり」「地域づくり」

＜研究開発の目標＞ 地域と連携、協働した実践的、体験的な取組が郷土愛を育むとともに、「人づくりネットワーク」を構築し、未来型人材を育成する「村岡メソッド」を開発する。

【村岡メソッドのイメージ図】

地域を知る

- ・コミュニケーション能力
- ・課題発見能力
- ・自ら学びに向かう力
- ・探究活動の手法

地域を深める

- ・新たな価値を創造する能力
- ・自己表現能力
- ・議論する力

地域を創る

- ・課題解決能力
- ・プレゼンテーション能力
- ・コーディネート能力
- ・郷土愛

- ・観光施設経営者等による講義
- ・地域での調査実習
- ・地域関係者への提案

- ・地域での探究活動
- ・全国の地域づくりを学ぶ合宿研修
- ・スポーツツーリズムの企画、提案

- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成・発表
- ・スポーツに関する資格取得
- ・HP・インスタグラムを活用した地域の魅力発信
- ・クラウドファンディングを活用した地域活性化プランの実現
- ・町長と将来の町について語り合う

＜村高発 地域元気化プロジェクト（全校生）＞

残酷マラソン大会等の企画運営スタッフ、5グループ（地域福祉・民芸・食文化・環境・吹奏楽団）の地域協働活動、村高フォーラム（探究活動の成果発表・パネルディスカッション）

地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人材の育成

事業対象学科の生徒数

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	57	62	50	169

学校全体の生徒数

学科	1年	2年	3年	合計
普通科	57	62	50	169



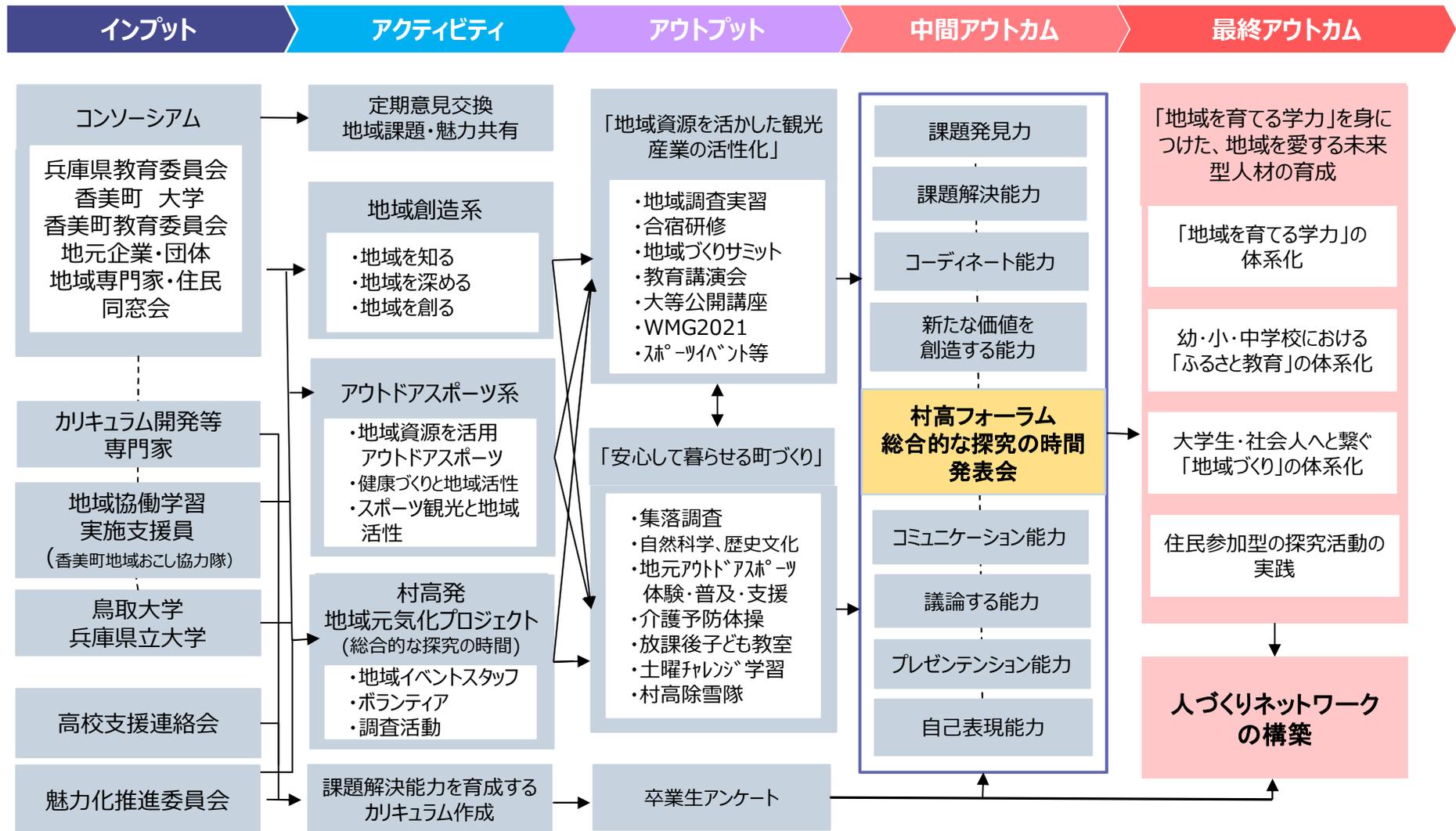
目指す生徒像

地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒。

身につけたい力

具体的取組

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の研究開発



ビジュアルシート(取組みの様子)



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域学入門



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I



地域創造系 地域探求 I

ビジュアルシート(取組みの様子)



地域創造系 地域探求Ⅱ



地域創造系 地域探求Ⅱ



地域創造系 地域探求Ⅱ



地域創造系 地域探求Ⅱ



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門



アウトドアスポーツ系 地域学入門

ビジュアルシート(取組みの様子)



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ I



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II



アウトドアスポーツ系 地域スポーツ II

ビジュアルシート(取組みの様子)



総合的な探究の時間 民芸班



総合的な探究の時間 民芸班



総合的な探究の時間 紙漉き班



総合的な探究の時間 紙漉き班



総合的な探究の時間 吹奏楽団



総合的な探究の時間 吹奏楽団



総合的な探究の時間 食文化班



総合的な探究の時間 食文化班

ビジュアルシート(取組みの様子)



総合的な探究の時間 環境A班



総合的な探究の時間 環境A班



総合的な探究の時間 環境B班



総合的な探究の時間 環境B班



総合的な探究の時間 地域福祉班



総合的な探究の時間 地域福祉班



総合的な探究の時間 集落調査班



総合的な探究の時間 集落調査班

ビジュアルシート(取組みの様子)



村高フォーラム2020



村高フォーラム2020



香美町長講演会



合宿研修 オンライン



ビジョン若者出前講座



マイプロジェクトアワード 2020



総合的な探究の時間 発表会



総合的な探究の時間 発表会

ビジュアルシート(取組みの様子)



スピーチ (生徒意見発表)



スピーチ (講師による講評)

本校マスコット



おーたん むーたん



おーたん むーたん



教育指針 「人みな使命あり」



好きをかたちに
—挑戦する力をつける—
▶ アウトドアスポーツ系



地域の力になる。
自分のチカラにする。
▶ 地域創造系



兵庫県立
村岡高等学校



全国からの入学可能
あなたのチャレンジ
お待ちしております！

兵庫県美方郡香美町より
下宿補助制度
4万円/月 補助あり



巻 頭 言

兵庫県立村岡高等学校長 大垣 喜代和

「若者が地域を創る」のか「若者と地域を創る」のか。

村高フォーラム2020で投げかけられた言葉です。

地域は、若者だけで創るものではありません。若者には負担が大きすぎるのではないか。若者と地域と一緒に創っていくものではないのか。

しかし、あえて「若者が」としましょう。なぜなら生徒が主体性をもって地域の皆さんと関わり、そのうえでともに創っていきたいと考えるからです。

村岡高校は、最大1学年5クラスあった時代から、急激な少子高齢化により1学年1クラスにまでなった時期もありました。

「地域の高校をなくしてはならない」という地元の熱い思いとともに、2005年に地域の声を聞き議論する場として、初めて村高フォーラムを開催、「農山部に高校を根付かせ、自分の将来の夢を育て、その夢に向かって進んでいく道筋を自分で探る能力をつくること」が高校教育の原点であるということが確認されました。

そして、2011年には「地域創造類型」を設置、「高校が地域に働きかけて地域づくりを進めるという学び」が始まり、2014年には「地域アウトドアスポーツ類型」に改編して「地域創造系」「アウトドアスポーツ系」を設置し、同時に全国募集を開始しました。

その一環として学校設定科目「地域探求」による地域づくりの学び、総合的な探究の時間を活用した「村高発 地域元気化プロジェクト」による地域との協働活動、村高フォーラム、教育講演会などの活動を通して地域に根差した教育活動を行う形となり現在に至っています。

これらは豊かな自然環境、豊富なブランド食材、スキー、登山などの多様なアウトドアスポーツといった地域のポテンシャルを最大限に見出し、地域活性化に協働、参画する資質・能力として具現化される「地域を育てる学力」を身につけることを目的としています。

これらの学びは、高校卒業後、大学・専門学校等でさらに学びを深め、卒業して地元へ戻り、役場・学校・民間企業等で働くといった「Uターン」を生み、あるいはUターンがかなわない卒業生においても香美町・村岡高校のために支援を行うという「関係人口」の増加を生みだしつつあります。

令和2年度より、文部科学省の「地域との協働による高校教育改革推進事業地域魅力化型」の指定を受け、これまで取り組んできた地域との学びを「村岡メソッド」としてまとめ、地域を育てる学力をもった生徒を育成し、地域課題の解決に貢献する「地域づくり」「人づくり」を目指しています。

しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校や地域との活動の制限のため、地域との協働活動を中止せざるを得ない状況となりました。そのような中でできることを模索し、休校中にもオンラインを活用した授業、生徒各自でのフィールドワークを行いました。そして学校が再開された後も、可能な範囲での地域との協働活動や探究活動を行い、今回のまとめとなりました。

村岡高校の学びは、香美町、香美町教育委員会、鳥取大学、同窓会、地元企業・団体、地元研究者、幼・小・中学校等の皆様との連携、協力の支えがあって実現しています。この場を借りまして、厚くお礼申し上げます。そして、今後の村岡高校の発展のためにも、様々なご意見をいただければと思います。どうかよろしく願いいたします。

目 次

ビジュアルシート

巻頭言

目次

1 研究開発の概要	1
(1) 学校の概要	2
(2) 研究開発の概要（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）	5
(3) 3年間の授業の流れ（村岡高校文科省指定事業）	7
2 研究開発実施状況報告	8
(1) 研究開発実施状況報告書	9
(2) 目標設定シート	18
3 研究開発の内容	
(1) 各授業の実践	19
(ア) 地域アウトドア類型 地域創造系	20
a 地域探求 地域学入門	
b 地域探求 地域探求Ⅰ	
c 地域探求 地域探求Ⅱ	
(イ) 地域アウトドアスポーツ類型 アウトドアスポーツ系	26
a 地域探求 地域学入門	
b 地域探求 地域スポーツⅠ	
c 地域探求 地域スポーツⅡ	
(ウ) 「村高発 地域元気化プロジェクト」	32
協働のまちづくり（1年）、総合的な探究の時間（2年）、 総合的な学習の時間（3年）	
a 民芸班（演舞グループ、紙漉きグループ）	
b 吹奏楽団	
c 食文化班	
d 環境班（A班：棚田グループ、B班：森の健康診断グループ）	
e 地域福祉班（地域福祉グループ、集落調査グループ）	
(エ) 表現「スピーチ」	48
(2) 成果の普及・広報	49
・村高フォーラム、総合的な学習の時間発表会	
・成果物	
・新聞報道	
・生徒の受賞・全国規模の大会	
・他校フォーラム等参加	
・地域みらい留学	
(3) 運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告	62
4 評価・分析	81
(1) つきたい能力・生徒アンケート	
(2) 生徒アンケート集計結果	
(3) 評価・分析	
5 その他 関係資料	92
・高校魅力評価システム 組織診断ポートフォリオ	
・令和2年度実施教育課程表	98

1 研究開発の概要

(1) 学校の概要

(2) 研究開発の概要

(地域との協働による高等学校教育改革推進事業)

(3) 3年間の授業の流れ(村岡高校文科省指定事業)

1 研究開発の概要

(1) 学校の概要

ア 学校名・校長名

- 1) 学校名 兵庫県立村岡高等学校
- 2) 校長名 大垣 喜代和

イ 所在地

- 1) 所在地 〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡 2931
- 2) 電話番号 0796-94-0201
- 3) FAX 番号 0796-94-0203
- 4) URL <http://www.hyogo-c.ed.jp/~muraoka-hs/>

ウ 学校の基本理念

(ア) 校訓 英知 自律 友愛

(イ) 教育方針

- a 地域に学び、知識と知恵を身につけ、地域と協働する創造的な人材を育てる。
- b 学校と地域の活動の中で、自律の精神を養い、規範意識と自己統制力を育てる。
- c 学校と地域の活動の中で、豊かな心を培い、敬愛と協調の態度を育てる。

エ 目指す学校像と重点目標

目指す学校像	重点目標
地域の学校	地域での学びをさらに充実させ、地域を支え元気にする人材を育成する。
自ら学ぶ学校	自ら進んで学び、議論・提案できる力を育成する。
心豊かな学校	協働的な学びの中で豊かな人間性を育てる。

オ 本校の研究テーマ

(ア) 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」(地域魅力化型)

『ちいき大好きプロジェクト』 ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

(イ) 高校生ふるさと貢献・活性化事業

a 活動のねらい

- ・地域協働活動を通じて、「地域を愛し、地域に愛される学校づくり」を推進する。
- ・地域の人々や近隣の中学校、小学校との交流の場を作り、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- ・「総合的な学習(探究)の時間」「ボランティアサークル」を中心に福祉施設等を訪問し、高齢化の著しい地域でのボランティア活動を行い地域社会に貢献する。また、地域の清掃活動に積極的に取り組み、地域協働活動の機運と意欲を高める。

b 内容

- ・村高発 地域元気化プロジェクト(総合的な学習(探究)の時間)
- ・あいさつ運動
- ・海の日親子ボランティア
- ・ボランティアー村高
- ・オープンスクール

(ウ) 高校生就業体験事業

a 活動のねらい

- ・志望理由書、自己推薦書を通して自分を見つめ、進路決定を確かなものとする。

- ・就職希望者の地域企業でのインターンシップを実施し、勤労観を醸成する。
- ・専門学校講師による職業分野別体験を行い、職業についての知識と理解を深め、就業意識を高める。
- ・大学・短大・専門学校・企業の見学会や授業体験会を実施し、高等教育機関と職業について体験的に学ぶ。

b 内容

- ・総合型・学校推薦型入試対策講座
- ・ハローワーク講師による面接指導
- ・大学・専門学校・公務員講師による分野別職業体験
- ・インターンシップ
- ・ふれあい看護体験、ふれあい育児体験
- ・但馬地区事業所見学会、但馬地区高校内企業説明会参加

(エ) 高校生特色づくり推進事業

a 活動のねらい

- ・地域と連携し、本校の活性化・特色化を推進すると同時に地域の活性化について調査研究を行う。
- ・小、中学校との連携を密にし、地域に開かれた特色ある学校づくりを推進する。

b 内容

(a) 学校運営連携協議会の開催（年2回）

- ・地域の有識者で構成した「学校運営連携協議会」を開催し、本校の課題並びに活性化策について協議する。また、学校運営連携協議会を受けて、「連絡調整会（高校支援連絡会）」（毎月1回）を開催し、取り組みの具体化を図る。

(b) 公開講座の開催

- ・公開講座（地域探求等）を開催し、地元講師、大学講師を招いて、地域を知り、地域を研究し、地域へ提言する探求活動を行う。

(c) 「教育講演会・高校生による地域づくりサミット」の実施

- ・本校生、地域住民、但馬内高校生が広く参加できる教育講演会・高校生による地域づくりサミットを実施し、地域団体・但馬地区高校等と協働した地域活性化活動の実践交流会を行う。

(d) 「地域探求・総合的な探究の時間発表会、村高フォーラム」の開催

- ・地域の方々の意見を幅広く聞く場を設け、村岡高校はもとより、地域も活性化する方策についての討論会を行う。また地域探求・村高発地域元気化プロジェクト実践発表会を行う。

(e) 小・中学校や地域との連携事業の推進

- ・地元関係団体や大学と連携して、地域調査および地域活性化の取り組みを積極的に推進する。
- ・国際的・芸術的・文化的アプローチをキーワードに、地域の文化財を地域・大学と協働して「石碑を巡る香美の旅」について探究活動を展開していく。
- ・ふるさと教育に関する教材の開発
香美町教育委員会・近隣小中学校と連携して、小中学校におけるふるさと教育に関する教材の開発および企画・運営について探究する。
- ・「ワールドマスターズゲームズ2021関西」を舞台に「地域づくりの視点」「スポーツ観光の視点」「健康づくりの視点」から探究活動を展開する。
- ・「健康づくりと地域活性」をテーマに介護予防体操の普及・改善について香美町福祉課と連携して探究・実践する。
- ・射添紙復活に向けて、和紙デザイナー・地域住民とともに新商品の開発等に取り

組む。

・森の健康診断の実施

香美町農林水産課・北但西部森林組合と連携して、人工林調査と間伐材などの森林資源の有効利用について調査・研究を行う。

・集落の魅力発信プロジェクトの実施

香美町内の小規模集落を中心に、調査活動を行い、高校生の視点で集落の魅力を発見し、発信していく。

・合同芸術祭・湯舟川コンサートの実施

本校及び中学校の吹奏楽部の演奏、地域の伝統芸能の披露、本校文化部の活動内容を発表する総合文化祭を開催し、地域、生徒の文化活動の向上を図る。

・部活動連携の実施

近隣の中学校と本校で合同部活動練習会を実施する。また、専門指導者を招いて技術指導を受ける機会を設ける。

・あいさつ運動の実施

香美町教育委員会が提唱する3つの町民運動の中の「あいさつ運動」を、小中学校PTAや香美町教育委員会と連携し、生徒会を中心に毎月1回実施する。

(オ) 高等学校における通級による指導

・全生徒に対応した全教員によるICT等を活用した、わかりやすいユニバーサルな授業の実施とその研修を積極的に推進する。

・学習サポート(授業における配慮・支援、個別の補充等)、面談による困り感への支援による生徒一人ひとりへの配慮を充実させる。

・通級による認知特性に応じたソーシャルスキル、ライフスキル等の指導を充実させる。

・普通校における「高等学校の通級による指導」を普及させるための教育課程等の整備を行う。

(カ) オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業

・オリンピック・パラリンピックについて学ぶ中で、スポーツの価値や精神を理解させる。

・スポーツ講演会や事前学習・振り返りを通じて共生社会を理解する能力と態度を養う。

(2) 研究開発の概要 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつむらおかこうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
令和2～最大3年間	① 学校名	兵庫県立村岡高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年2クラス 合計6クラス	
普通科	57	62	50		169		
⑥研究開発構想名	ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発						
⑦研究開発の概要	地域活性の核としての高校の拠点機能化を推進し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>開発する「村岡メソッド」の「地域を育てる学力」とは、科学的概念と生活的概念が統一された、「生活の中で生きて働く学力」、「主体性や生きる意欲をともなった学力」のことを指す。したがって、地域住民とともに地域課題を実践的に解決するプロセス（地域づくりの過程）を通して「地域を育てる学力」は育まれると考える。</p> <p>本研究は、生徒自らが発見した魅力を活用した地域課題の解決策を考案し、実践することにより、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来を創出する基礎力である「地域を育てる学力」を育むことを目的とする。また、それらに寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を持つ生徒を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>【現状の分析】</p> <p>本校は、兵庫県の北西部の中山間地域に位置し、県下でも有数の豪雪地域である香美町に設置されている。この地域には、スキー場などのアウトドアスポーツを楽しめる設備が多く、かつては、多くのスキー客が訪れ、町内は活気に満ちていた。しかし、スキー客の減少、高齢化や町内人口の減少により、町の活力が課題となっている。</p> <p>そのため本校では、高校生の視点で地域の課題を発見し、地域課題の解消を目指す取組を2011年度より推進してきた。また、2013年度からは、全校生による「村高発地域元気化プロジェクト」を立ち上げ、翌年度には「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」の2系列を設置することで、地域に学び、地域と協働する学校づくりを進めてきた。しかし、より実践的に課題解決能力を培うためには、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を活用して新たなコンソーシアムを設置し、組織的、継続的に地域と一体となった「地域づくり」と「人づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>【研究開発の仮説】</p> <p>本研究は、地域に学び地域との協働活動を実践する学校として、探究活動、課題研究を自治体や地域住民と進めていく。その活動の中で、地域の現状を理解し、地域課題発見・解決に寄与する学びから「新たな地域資源を創造する」意欲を醸成させることで、自律的な態度で社会と関わり続け、既存の知識を状況に応じて再構成しながら、よりよい未来の創出することができる「地域を育てる学力」を獲得できる。</p> <p>「地域を育てる学力」は、生徒の将来に渡って、主体的に地域のポテンシャルを見いだし、地域活性化に協働、参画する資質・能力として具現化され、当該資質・能力をさらに培うことで、それぞれの「ちいき」を愛し、地域を育てる学力を身につけた、地域を愛する未来型人間の育成につながる。</p>					

<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画 地域課題の解決につながる探究活動を、多くの地域住民と協働して取り組むためには、地域が抱える課題を正確に捉えるとともに、その課題が香美町の考える課題、地域住民が考えている課題と共通するものであることを見極める必要がある。 そのため本校では、多くの地域住民が参加可能な「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」の2つを探究テーマとして設定している。以下の2点を実施する。</p> <p>①「ふるさと教育」と「地域を育てる学力」の体系化 香美町内の幼・小・中学校で行われている「ふるさと教育」を、高校で実施する「地域を育てる学力」として体系化し、さらに大学生段階・社会人段階へと繋ぎ、地域づくりの循環経路をつくる。</p> <p>②新たな「人づくりネットワーク」を目指した住民参加型の探究活動の実践 学校で得られる科学知を、地域の生活知と関連づけて理解するとともに、地域に存在する生活知や生徒自身も持っている生活知を、科学の知識体系の中で理解する学習が必要となる。そのため、地域における人との関わりを豊かにする活動が不可欠であり、多くの地域住民が参加可能な探究テーマを設定することが重要である。これらを実現すべく以下のような地域課題に取り組み、官民学協働での「人づくりネットワーク」を構築しつつ、「地域を育てる学力」の形成を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 カリキュラム・マネジメントの推進にあたっては、校長のリーダーシップのもと、各関係機関との連携・協力を得て、校内ビジョン統括会議メンバーが、以下のようなPDCAサイクルのもと、評価・検証し教育内容の質の向上ために見直し、改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>P（計画）</u>：校内ビジョン統括メンバーを中心として、育成する資質・能力を学校全体で明確化し、カリキュラム開発専門家の助言を受け、教育内容の組織化を図る。上記の教育目標・内容は、学校運営連携協議会、高校支援会議等を通じて、地域社会との共有化を図る。 ・ <u>D（実施）</u>：担当教員が連絡・調整を図りながら、教育課程全体の有機的つながりを意識した教育実践を展開する。その際、地域協働学習実施支援員（教育コーディネータ：香美町地域おこし協力隊）を中心として、地域の人的・物的資源の活用を推進する。 ・ <u>C（評価）</u>：生徒のパフォーマンスの総合的な評価活動、地域住民の意識調査（アンケート、ヒアリング等）を実施する。評価活動と調査の結果に基づき、目標とした資質・能力育成の達成状況を、教育方法論を専門とする大学教員等を交えて検証する。 ・ <u>A（改善）</u>：校内ビジョン統括会議メンバーを中心としつつ、全教員（ビジョン委員会）で生徒と地域の実態を踏まえた教育実践の改善・充実を図る。上記の取組は、コンソーシアムや高校支援会議、地域政策学や地域教育学を専門とする大学教員等との意見交換を反映させつつ、随時弾力的に実施していく。また、研究成果報告会を開催し、検証を行い、全国サミットへも積極的に参加し、次年度に向けての改善・充実につなげていく。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>事業後にも持続性するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業後も講師、スタッフとして授業に参画しネットワークの一員になる。 ② 「村高フォーラム」を通して活動成果や「地域を育てる学力」の普及を小中学校、但馬地域の高校にも継続して行う。 ③ 町と連携し、提案した方策を町の事業として継続できるレベルとすることを目指す。 ④ 「人づくりネットワーク」を発展させ、地域人材の育成、強化を図る。

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

(3)3年間の授業の流れ (村岡高等学校文科省指定事業)

ちいき大好きプロジェクト ～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

村岡高校のある香美町の魅力

- ・豊かな自然環境
- ・豊富なブランド食材
- ・多様なアウトドアスポーツ施設



村岡高校のある香美町の課題

- ・人口減少と少子高齢化
- ・観光産業等の後継者問題
- ・新たな魅力づくり



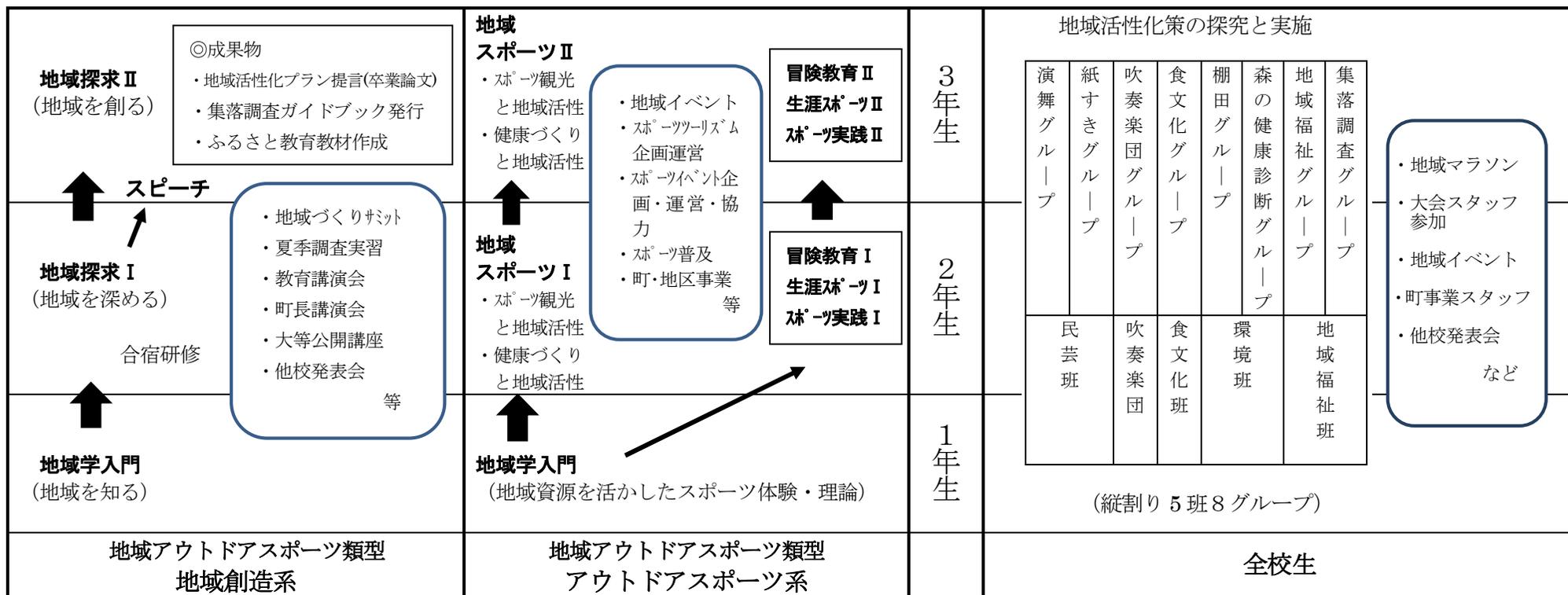
村岡高校の目指す姿

「地域づくり」・「人づくり」

- ・地域を育てる学力を身に付けた、地域を愛する未来型人材の育成
- ・新たな地域資源を創造する意欲を持つ生徒の育成

学校設定教科・科目

総合的な探究の時間



成果の発表・地域への発信

村高フォーラム (プレゼンテーション・ポスターセッション・パネルディスカッション等) 10月
総合的な探究の時間発表会 (プレゼンテーション) 3月

2 研究開発実施状況報告

(1)研究開発実施状況報告書

(2)目標設定シート

2 研究開発実施状況報告

(1)研究開発実施状況報告書

住所 神戸市中央区下山手通 5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 西上 三鶴 印

- 1 事業の実施期間
契約締結日 ～ 令和4年3月31日
- 2 指定校名・類型
学校名 兵庫県立村岡高等学校
学校長名 大垣 喜代和
類型 地域魅力化型
- 3 研究開発名 ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～
- 4 研究開発概要
地域活性の核として、高校の拠点機能を強化し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み、「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。
- 5 教育課程の特例の活用の有無 無し
- 6 管理機関の取組・支援実績
(1) コンソーシアムについて
①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 川戸 英明
兵庫県立村岡高等学校	校長 大垣 喜代和
兵庫県立村岡高等学校同窓会	会長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教授 筒井 一伸
NPO 法人 TUKULU	代表 松岡 大悟
うづかの森（民間企業）	代表 西村 昌樹
やまもり村岡（民間団体）	代表 上田 治

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年4月16日	コンソーシアムを組織
令和2年6月30日	第1回会議 ・申請の経緯、事業方針を説明し、今後の事業内容に対し指導助言をいただく。 ・会議日程について協議する。

令和2年10月10日	<p>村岡高等学校体育館にて開催した「総合的な探究(学習)の時間、地域探求発表会」での本校生徒のプレゼンテーション、ポスターセッションを見学。</p> <p>第2回会議(ランチミーティング)</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会の内容や活動について意見交換を行い、発表内容や生徒の取組み、アンケートについても指導助言をいただく。 <p>村高フォーラム2020での基調講演「地域人材を活用した教育教材開発の試み」とパネルディスカッション「地域と学校(「教育のまち」を創る)」を自由参観していただく。</p>
令和3年3月9日	<p>「総合的な探究(学習)の時間」発表会を開催し、発表会を見学していただく。</p> <p>第3回会議(オンライン実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組みについて成果・評価・課題を総括し、指導助言をいただく。 来年度の取組みについて概要を説明し、協力体制について打合せを行う。

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

- ①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて
鳥取大学 地域学部教授 筒井一伸氏(都度依頼し謝礼支払い)
- ②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
随時	メール、電話、オンライン会議システム等により「地域探求」「総合的な探究(学習)の時間」についての取組み、進行状況、来年度のカリキュラムについて打合せを行う。
令和2年10月10日	<p>コンソーシアム委員として「総合的な探究(学習)の時間、地域探求発表会」、「村高フォーラム2020」でのパネルディスカッションの進行をしていただく。</p> <p>第2回会議(ランチミーティング)での打合せ、また終了後、今後の活動について打合せ。</p>
令和2年12月14日	<p>職員研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 「普通科再編と地域探求のためのリテラシー」についてグループワーク 高校魅力化評価の活用と今後の取組みについて打合せ。
令和3年3月10日	<p>職員研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域探求とカリキュラムづくり」について本校の取組みの経緯、他校の取組みから、ロジックの育成による「プロポーザルをつくる」カリキュラム開発についての研修をおこなう。

(3) 地域協働学習実施支援員について

- ①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて
香美町地域おこし協力隊 房安晋也氏(香美町企画課会計年度任用職員)

②実施日程・実施内容

香美町の派遣により、村岡高校にて勤務し、以下のような活動により本校の地域協働活動の支援を行っている

<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定教科「地域探求」や「総合的な探究（学習）の時間」に関する準備と担当教諭と連携した運営。 ・特別非常勤講師との連絡・調整。 ・カリキュラム開発等専門家と随時連絡を取り、カリキュラム運営についての打合せ。 ・フィールドワークや校外研修（研修合宿等）における対象地域や対象住民との連絡調整。 ・地域探求発表会や村高フォーラム2020等発表会やイベントの企画・運営補助。 ・「地域探求」での教育教材ゲームの製品化への企画・制作支援、制作企業との連絡調整。 ・「地域探求」「総合的な探究（学習）の時間」の成果物やガイドブックの企画・制作支援、印刷会社との連絡調整。 ・生徒の活動まとめ、プレゼンテーション等の原稿作成指導 ・高校支援会議（香美町・月1回）、魅力化推進委員会（校内・週1回）への参加による情報共有、協議

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
川井 史彦	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関
西田 利也	兵庫県教育委員会高校教育課長	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
水垣 清和	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学地域学部学部長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者
西村 功	村岡区自治会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和2年4月16日	運営指導委員会を組織
令和2年7月27日	第1回会議 ・申請の経緯、事業方針を説明し、今後の事業内容に対し指導助言をいただく。 ・会議日程について協議する。
令和2年10月10日	村岡高等学校体育館にて開催した「総合的な探究（学習）の時間、地域探求発表会」での本校生徒のプレゼンテーション、ポスターセッションを見学。 第2回会議（ランチミーティング） ・発表会の内容や活動について意見交換を行い、発表内容や生徒の取組みについてアンケートにおいても指導助言をいただく。 村高フォーラム2020での基調講演「地域人材を活用した教育教材開発の試み」とパネルディスカッション「地域と学校（「教育のまち」を創る）」を自由参観していただく。
令和3年3月9日	「総合的な探究（学習）の時間」発表会を開催し、発表会を見学していただく。 第3回会議（オンライン実施） ・今年度の取組みについて成果・評価・課題を総括し、指導助言

	をいただく。 ・来年度の取組みについて概要を説明し、指導助言をいただく。
--	-----------------------------------------

(5) 管理機関における取組について

- ①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について
- ②事業終了後の自走を見据えた取組について
- ③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校設定科目 地域創造系の 探究活動		オンライン	—————▶									
学校設定科目 アウトドアスポーツ系の 探究活動			—————▶									
総合的な探究（学 習）の時間「村高 発地域元気化プ ロジェクト」		オンライン	—————▶									

(2) 実績の説明 以下の項目について記載してください。

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

ア 地域創造系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、
「安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、香美町の実情を把握し、高校生の視
点で新たな価値観を見だし、課題解決する学びを通して「地域を育てる学力」
を系統的に高める。

(ア) 地域学入門（1学年）テーマ「地域を知る」

- ・オンラインによるオリエンテーション、導入(zoom)
- ・水生昆虫調査（講義、実習）地元講師 西田昭夫氏 7月～8月
- ・海洋生物、地層調査（講義、スノーケリング、シーカヤック実習）8月
地元講師 本庄四郎氏
- ・獣被害について（講義）兵庫県立大学 教授 横山真弓氏 8月
- ・但馬の植生調査（講義、調査）地元講師 菅村定昌氏 9月
- ・但馬の地質調査（講義、実習）地元講師 三木武夫氏 11月
- ・村岡の歴史調査（講義、実習）地元講師 石松 崇氏 11月
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポス
ターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・マーケティングを活用した地域づくり（講義、プレゼンテーション）12～3月
鳥取大学地域学部 講師 白石秀壽氏

(イ) 地域探求 I（2学年）テーマ「地域を深める」

- ・オンラインによるプレゼンテーション、授業(zoom)5～6月
- ・国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性「石碑を巡る香美の旅」（仮称）
鳥取大学地域学部 助教授 ギンナン・アレクサンダー氏

- ・合宿研修にかわりオンラインによる研修（奈良県明日香村）8月
文化財を活用した地域活性、地域づくりを学び、国際的・芸術的・文化的観点から香美町の文化財（特に石碑）を活用した地域づくりの方策を考える。
 - ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- (ウ) 地域探求Ⅱ（3学年）テーマ「地域を創る」
- a ふるさと教育の教材開発 「ものしり博士を活用した教材ゲーム」（3種類）
講師 鳥取大学地域学部准教授 武田信吾氏
 - ・オンラインによるプレゼンテーション、グループワーク、授業(zoom)5月～6月
 - ・構想の後、試作し校内において試行2回 7～8月
 - ・学童保育の小学生を対象にゲーム実施 9～12月
 - ・課題を確認し調整（町教育委員会指導主事、小学校職員、ものしり博士）11月
 - ・ものしり博士を交えて学童保育の小学生を対象にゲーム実施 12月
 - ・まとめ授業、製品化に向けて仕上げ 12～1月
 - b 「ものしり博士ガイドブック」作成
講師 鳥取大学地域学部准教授 武田信吾氏
 - ・ものしり博士へ聞き取り調査、原稿作成 7月～10月
 - ・ものしり博士を交えてガイドブックに調整、校正 11月
 - ・製品化に向けて仕上げ 12月
 - c 卒業論文「私の地域活性化プラン」原稿作成、校正（生徒に担当教員が指導）
7月～12月
 - ・香美町長を訪問し、活性化プランについて提案（3月4日）
- (エ) 地域創造系全体の取組み
- a 地域創造系夏季調査実習（総合的な探究の時間とリンク）8月～9月
ステキな”人”と出会うための香美町ガイドブック「かみあう vol12～小代区の若者編～」におけるインタビュー調査
*従来は地域の高齢者を対象としていたがコロナ禍において対象を若者に変更して実施
講師 鳥取大学地域学部教授 筒井一伸氏
(協力アドバイザー)
香美町役場小代地域局長 井口晃氏
スミノヤゲストハウス（元香美町地域おこし協力隊）田尻茜氏
カリキュラム開発専門家：鳥取大学地域学部教授 筒井一伸氏
地域協働学習実施支援員：本校教育コーディネーター 房安晋也氏
 - b 地域探求講演会（町長講演会）7月
香美町（地域）の代表者に現状と課題を講演していただき「地域に学び地域に協働する学校づくり」についてグループ討議を行う。
講師 浜上 勇人氏 香美町長
助言者 塩沢 健一氏 鳥取大学地域学部准教授
 - c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月
 - d 「ビジョン若者出前講座」（1, 3年生）12月
2050年の兵庫の姿について講義を受け、兵庫の未来について考え、但馬（村岡）の未来を創造する参考とし、グループワークにより地域づくりの学びを深める。
講師 大町 充弘氏 県企画県民部ビジョン課班長
- イ アウトドアスポーツ系の探究活動
「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」

を目指し、地域固有のレクリエーション資源（自然）を学び、アウトドアスポーツの魅力が伝えられるリーダー育成に必要な知識・技術を身に付けるとともに、アウトドアスポーツイベントの運営に必要な知識・手法を学び、香美町教育委員会・民間企業等と連携した企画を立案、実施するなど、より実践的な学びを行う。

(ア) 地域学入門（1 学年）

テーマ「地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験」「スポーツ基礎理論と実践」

- a アウトドアスポーツ体験 地元講師 西垣幸造氏 9 月
- b スポーツと身体機能について（柔道整復学、理学療法学、鍼灸学、スポーツ外国語） 9 月 講師 履正社医療スポーツ専門学校職員
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9 月～10 月
- d 栄養学 講師 飯田みつ子氏 12 月

(イ) 地域スポーツ I（2 学年）

テーマ「健康づくりと地域活性（介護予防体操による身体機能改善）」

- a フィットネスレッスン体験 講師 京都医療健康専門学校 9 月
- b 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9 月～10 月
- c 介護予防体操による身体機能改善の進め方 11 月
講師 鳥取大学地域学部准教授 関 耕二氏

(ウ) 地域スポーツ II（3 学年）

テーマ「オリエンテーリングの普及および教育的効果」

- a オリエンテーリングコース設計、リハーサル 9 月
町教育委員会 田中寿彦氏 南垣 強氏
- b 土曜チャレンジ学習事業に参加児童を対象にオリエンテーリング体験 9 月
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9 月～10 月
- d 「ワールドマスターズゲームス 2021 関西」オリエンテーリングプレ大会参加及びアンケート調査 11 月
- e 地元小中学生へオリエンテーリングの普及活動 11 月
- f 報告書作成 12 月

(エ) アウトドアスポーツ系全体の取組み（総合スポーツ学）

- a 冒険教育 テーマ「地域の自然を活かしたスポーツインストラクター資格取得」
 - ・ツリーイング、キャンプ、レクリエーション、クライミング、ラペリング等の体験、指導実習
- b 地域スポーツ テーマ「地域の自然環境を活かしたスポーツの技術習得」
 - ・ゴルフ、スキー、スノーボード、スノーシュー、クロスカントリースキー
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10 月
- d 土曜チャレンジ学習事業（香美町教育委員会事業）指導補助 7 月～12 月
シャワークライミング、オリエンテーリング、ボルダリング

ウ 総合的な探究（学習）の時間「村高発地域元気化プロジェクト」の探究活動

生徒同志が議論して改善・充実を図っていきけるよう、学年を越えた全校生徒を、興味・関心にもとづいて 5 班 8 グループに分け、「自然と暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとして、班毎に課題解決に向けた地域協働活動に取り組む。

- a 民芸班

演舞グループ：「南中ソーラン」の介護予防体操版の作成、映像化する。
紙漉グループ：「射添紙でつなごう村岡から世界へ」紙漉き体験を通じて地域の魅力を発信し、地域の認知度を上げ地域魅力化につなげる。

b 吹奏楽団班

吹奏楽グループ：音楽を通して地域との交流を深め、地域になくてはならない吹奏楽団を目指す。

c 食文化班

食文化グループ：「村岡米」など地元食材を活用した高校目線でのレシピを提案し、情報発信することにより地域経済を盛り上げ活性化につなげる。

d 環境班

棚田グループ：うへ山棚田の保全及び観光資源としての研究と棚田米の広報

森健グループ：地域の環境保全に繋がる取組みを行う。間伐材の有効活用（木の駅プロジェクト）及び冬期の独居老人宅や公共道路の除雪活動

e 地域福祉班

地域福祉グループ：高齢化、子育て支援についての調査を行い、世代を超えた交流を目指す

小規模集落調査グループ：小規模集落の魅力を再発見する調査、魅力発信（コロナ禍により対象を変更し若者への聞き取りを行う）

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

・地域創造系 学校設定教科 地域探求

学校設定科目 地域学入門（1年） 地域探求Ⅰ（2年）

地域探求Ⅱ（3年）

・アウトドアスポーツ系 学校設定教科 地域探求

学校設定科目 地域学入門（1年） 地域スポーツⅠ（2年）

地域スポーツⅡ（3年）

学校設定教科 総合スポーツ学

学校設定科目 冒険教育 生涯スポーツ スポーツ実践

・学校設定教科 協働のまちづくり（1年） 総合的な探究の時間（2, 3年）

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

ア 協働のまちづくり（1年 総合的な探究の時間） 総合的な探究の時間（2, 3年）

名称「村高発 地域元気化プロジェクト」 全校生 1単位

・学校設定教科「地域探求」での地域との協働による探究的な学びと「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）を密接に連携させ教科横断的に展開することにより、さらに効果的なものとする。

・地域課題の解決に向けた探究活動を効果的に進めていくためには、各教科で学習する知識を身に付け、活用することが求められるが、教科の学びを単独ではなく、互いに関連付け、総合的に活用する力を育成する。

・各教科・学校設定教科「地域探求」での活動を「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）により計画・実行・検証することにより探究活動を多面的に捉え、分析する学びに発展させることつなげる。

イ 学校設定教科「表現」 学校設定科目「スピーチ」3年生選択教科 2単位

・高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えると共に、自分の言葉で表現できるようにする。

・Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。

④類型毎の趣旨に応じた取組について

ア 地域住民への広報

- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」でのプレゼンテーション、ポスターセッション
- ・土曜チャレンジ学習事業でのオリエンテーリング、クライミング、ボルダリング等の普及

イ 他校生徒、地域住民、学識経験者等との交流、地域の魅力を再認識、資質向上

- ・「村高フォーラム2020」での講演会、パネルディスカッション
- ・地域探求講演会（町長講演会）
- ・研修宿泊（奈良県明日香村）にかえてオンラインによる地域活性化について研修

ウ その他

- ・全卒業生への本校の事業の認知、協力に関するアンケート調査

⑤成果の普及方法・実績について

- ・教育教材「ものしり博士ガイドブック」「ものしり博士を活用した教材ゲーム」（3種類）の作成、配布
- ・集落の魅力発信プロジェクトによる「むらの風景 vol14～小代区の若者の魅力発見～」（仮称）の発行
- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成、町への提言・発信

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

- ・カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施指導員、本校の担当者が随時に電話やメール、オンライン会議システムを活用して打ち合わせを行い、活動に反映させる。
- ・高校支援会議（町企画課、町教育委員会、地域協働学習実施指導員、本校担当者）を月1回開催し本事業の町との調整を図る。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

- ・全職員において「学校設定教科」「総合的な探究の時間」の総括、渉外、系責任者、担当責任者として組織的運営を図る。
- ・高校魅力化推進委員会（教頭、類型責任者、スポーツ系責任者、地域創造系責任者、各学年1名、地域協働学習実施指導員）を週1回開催し、本事業のための開発、実施、推進の共通理解、調整を図る。

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施指導員、本校担当者との協議・情報共有により課題を確認し、高校魅力化推進委員会において計画・方法を協議し改善する。
- ・高校魅力化推進委員会の毎週の報告をもとに各グループ会議により事業の検討・改善を行う。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

- ・事業計画で2回予定していたコンソーシアム会議を3回に増やし、特に生徒の活動・発表の内容や様子に対して指導助言をいただいた。その意見を全職員で共有し事業に活かし、全体評価・来年度の活動計画と共に最終のコンソーシアム会議において報告する。

8 目標の進捗状況、成果、評価

① 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ・地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合
1年目目標値 60% 1年目実績 75.0%
- ・高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合
1年目目標値 50% 1年目実績 56.1%

- ・高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合
1年目目標値 60% 1年目実績 76.8%
- ② 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）
 - ・外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数
1年目目標値 60回 1年目実績 111回
 - ・地域課題について研究の取り組みを発表する機会
1年目目標値 5回 1年目実績 3回
- ③ 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）
 - ・コンソーシアムの構成団体数 1年目目標値 6団体 1年目実績 8団体

コロナ禍において社会動向や規制に応じて、生徒・職員の安全を確保しながら取り組んだ。1学期は臨時休業中にオンラインでの双方向授業を実施した。10日短縮した夏季休業中には1学期に実施出来なかった授業を実施、また夏季休業中の地域創造系の合宿研修、集落調査もオンラインや対象を高齢者から若者に変更することで実施した。2学期より本格的に授業、事業を展開し、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施指導員、外部講師と本校の担当者が常に連携を取りながらやや過密スケジュールの中、実施することができた。その状況で上記①～③に示したとおり概ね目標を上回る成果を上げることができた。3学期の「総合的な探究の時間発表会」を校内のまとめまで探究を行い、コンソーシアム団体とカリキュラム開発等専門家と連携し来年度のカリキュラムを開発する。

9 次年度以降の課題及び改善点

① 課題

- ・コロナ禍の状況において、地域への発信や発表会、他校や先進校との交流が難しく実施出来なかった。
- ・地域との協働や活性化する活動を探究し実践する「総合的な探究の時間」が校内活動に終始せざるを得ず、計画していた探究活動が不十分な活動となった。
- ・本校の既存の活動から更に活動を発展させ、コンソーシアム・外部指導者の拡大、カリキュラムの開発に取り組むことが難しい状況であった。

② 改善点

- ・今後のコロナ禍も想定し、今年度蓄積したICT等の活用による実施方法を含め、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施指導員と連携を強化して、新たなアプローチ等による「人づくりネットワーク」の構築を進める。
- ・年度当初より、育てたい生徒像・資質能力を明確にして、活動を発展させるコンソーシアムの拡大を目指した人・団体との開発・連携を図り、カリキュラムの開発に取り組む。
- ・仮説・計画・実施・評価・改善のサイクルを目指した「総合的な探究の時間」を実践し、地域との探究活動を進める。

【【担当者】】

担当課	兵庫県教育委員会高校教育課	TEL	078-362-3817
氏名	堂阪 博文	FAX	078-362-4288
職名	指導主事	e-mail	Hirofumi Dousaka@prif.hyogo.lg.jp

(2)目標設定シート（地域との協働による高等学校教育改革推進事業）

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合						単位：%
a	本事業対象生徒：		60	70	80	80(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：生徒の地域に対する主体性が養われたかどうかをはかる。						
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合						単位：%
b	本事業対象生徒：		50	60	70	70(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：地元就職への思いについて分析する。						
(その他本構想における取組の達成目標) 高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合						単位：%
c	本事業対象生徒：		60	70	80	80(2022)
	本事業対象生徒以外：					
目標設定の考え方：生徒のふるさとへの愛着をはかる。						

2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値(年度)
(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数						単位：回
a		60	60	70	80	80(2022)
目標設定の考え方：外部講師の活用による生徒の課題解決能力の育成をはかる。						
(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域課題について研究の取り組みを発表する機会						単位：回
b		5	5	7	10	10(2022)
目標設定の考え方：成果発表の機会を適切に設定する。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位：
c						
目標設定の考え方：						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値(年度)
(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) コンソーシアムの構成団体数						単位：団体
a		6	6	8	10	10(2022)
目標設定の考え方：学校と連携、協力、支援するコンソーシアムが増え、人づくりネットワークができる。						
(その他本構想における取組の具体的指標)						単位：
d						
目標設定の考え方：						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
全校生徒数（人）	185	173	169	179	177
本事業対象生徒数			169	179	177
本事業対象外生徒数			0	0	0

3 研究開発の内容

(1)各授業の実践

(ア) 地域アウトドアスポーツ類型 地域創造系

- a 地域探求 地域学入門
- b 地域探求 地域探求Ⅰ
- c 地域探求 地域探求Ⅱ

(イ) 地域アウトドアスポーツ類型 アウトドアスポーツ系

- a 地域探求 地域学入門
- b 地域探求 地域スポーツⅠ
- c 地域探求 地域スポーツⅡ

(ウ) 名称「村高発 地域元気化プロジェクト」

協働の町づくり(1年)、総合的な探究の時間(2年)、
総合的な学習の時間(3年)

- a 民芸班(演舞グループ、紙漉きグループ)
- b 吹奏楽団
- c 食文化班
- d 環境班(棚田グループ、森の健康診断グループ)
- e 地域福祉班(地域福祉グループ、集落調査グループ)

(エ) 表現「スピーチ」

3 研究開発の内容

(1)各授業の実践

教科名	地域探求	科目名	地域学入門	単位数	1 単位				
対象・学年	1 年地域創造系 15 名			必修修の別	必修修				
1 仮説・ねらい	①地域の調査(自然・歴史)や専門家からの講義により、探究活動の手法を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や課題発見能力を養い、自ら学びに向かう姿勢を身に付ける。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	○	○	◎	○	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1 学期	オリエンテーション			概要説明・プレゼンテーション(春季課題)				
		地域の自然を知る			地質調査・植生調査・獣被害 水生昆虫調査 海洋生物調査				
		地域の歴史・文化を知る			現地調査(村岡商店街) プレゼンテーション(現地調査報告)				
	2 学期	地域を知る(まとめ)			プレゼンテーション(まとめ)				
		探究テーマ検討			地域の課題を見つける 探究テーマ検討				
	3 学期								
3 実施内容	(1)オリエンテーション[オンライン授業] ①概要説明 ②プレゼンテーション テーマ「私のむらの魅力発見」 (2)地域の自然を知る ①地質調査 講師：三木武行 氏(兵庫県豊岡市ジオパーク普及啓発専門員) ・日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土とくらし/岡見公園の地質調査 ②植生調査 講師：菅村定昌 氏(兵庫県生物学会但馬支部) ・但馬の植生/ハチ北高原大沼の植生 ③獣被害について 講師：横山真弓 教授(兵庫県立大学自然・環境科学研究所) ・ツキノワグマの出没要因と獣害防止対策 ④水生昆虫調査 講師：西田昭夫 氏(地元講師) ・昆陽川の水生昆虫調査/香美町土曜学習チャレンジ事業として実施 ⑤海洋生物調査 講師：本庄四郎 氏(NPO法人 但馬自然史研究所) ・スノーケリング・シーカヤック実習 (3)地域の歴史・文化を知る ①現地調査 講師：石松崇 氏(香美町教育委員会) ・村岡商店街を散策し、歴史・文化を学ぶ。 ②プレゼンテーション(現地調査報告) ・村岡商店街散策の報告を行う。 (4)地域を知る(まとめ) 講師：白石秀壽 講師(鳥取大学地域学部) ①プレゼンテーション ・自然分野、歴史文化分野に分かれて発表/グループワーク (5)その他 ①夏季集落調査実習 7月9日(木)～ ・事前授業/講師：房安晋也 氏(教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊) ・夏季調査実習(小代の若者インタビュー調査) ・調査結果まとめ/講師：房安晋也 氏(教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊) ・集落調査の意義/講師：筒井一伸 教授(鳥取大学地域学部教授) ②町長講演会 7月29日(水) 講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授(鳥取大学地域学部) ・講演 ・グループ討論①コロナ禍から観光・産業を立て直す方策 ②少子高齢化・人口減少に打ち勝つ方策 ③兵庫県ビジョン若者出前講座 12月9日(木) 講師：大町充弘 氏(兵庫県企画県民部ビジョン局ビジョン課) ・講演「兵庫から新たな未来を創る」 ・グループ討論 「2050年 未来の但馬(村岡)を創ろう!」								
4 生徒感想	地域学入門の学習を通して、私は多くの学びを得た。様々な活動を通して感じたのは、地域を盛り上げる資源(魅力)は無限に存在しているということだ。植生の学習ではハチ北の山に群生する「ウリハダカエダ」を見た。この木からメイプルシロップが採取できると教わり、これを新しい地域の名産として活用できる可能性について学んだ。これまで地域の山にそんな可能性があると考えたことはなかった。山だけではなく川や海、そしてそうした自然だけではない、歴史や文化にも人を惹きつける魅力が備わっていることが分かった。こうした魅力はこれまでの私たちのように、広く地域の人たちに自覚されていないことも分かった。その結果、こうした魅力が現在進行形で失われている。豊かな植生は私達の増加や、新しい観光資源として輸入された植生によって絶滅の危機に瀕している。地域の商店街にあるお寺や通りの配置に、先人のどんな思いが込められていたのかを知らない人が多くいる。何の石碑か分からないものもある。こうした地域の魅力をしっかり和捉え、守っていくことの必要性を深く感じた。								
5 評価	生徒評価(5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		4.4	4.3	4.0	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1
6 成果と課題	地域学入門では、「地域を知る」をテーマに、地域の専門家から地域の魅力となりうる資源を教わったり、その資源を活用するための探究活動の手法を学んだりして、2・3年次における地域探求の学習に向けてその準備をしている。地質や植生などから地域の自然を、集落調査や町長講演会を通して地域の社会を、そして地域の歴史を学ぶことで、地域を学び、地域に存在する魅力を知る。この学習が土台となって2・3年次には深みのある探究活動が可能となっている。これまで行われてきた探究活動は、その成果物や報告を見るに非常に面白いものばかりである。課題としてあがるのは、地域学入門での学びから生徒自身が強く興味関心をもったものが2・3年次の探求の題材となるべきであるが、やはり一人ひとりの興味関心のベクトルは異なること、また担当していただく先生の専門分野との関係もあるので、探求の題材が参加生徒全員の総意のもと設定されることが難しいことである。地域創造系の生徒は卒業論文の作成があり、このなかで「私の地域活性化プラン」を作成し香美町への提唱を行っていることもあるので、地域探求の取り組みがプランの設定と検証になるべきだと考える。課題克服のためには、生徒が設定した探求課題に対して、それに応えられる専門家につなぐことであると考える。そのためには更なる地域人材の発掘、連携をすることであると考える。								

地域学入門

1. 地域学入門とは



地域の自然と社会と歴史について学ぶ。「地域を知る」をスローガンに、各分野の専門家から「郷土」を知るための視点と探究方法を学ぶ。そして2年次以降の「地域探求」学習の探求テーマとなる資源を見つけ出す！

2. これまでの主な活動と今後の日程

学 習 内 容	講 師	実 施 日
私の村の魅力発見・発表		5月18・19・25日、6月3日
水生昆虫	西田昭夫氏	講義：7月28日、実習：8月1日
町長講演会	浜上勇人氏	7月29日
スノーケリング・シーカヤック体験	本庄四郎氏	8月4日
夏季調査実習	小代の若者の皆さん	ガイダンス：7月9日 インタビュー：8月1・2日 原稿作成：8月17日
獣被害対策	横山真弓氏	講義：8月19日
但馬の植生	菅村定昌氏	講義：9月14日、実習：9月29日
但馬の地質	三木武之氏	実施予定
但馬の歴史	石松崇氏	実施予定

(1) 水生昆虫

＜活動内容＞

- 水生昆虫の講義
- 水生昆虫の採集
- 採集した昆虫の標本制作

＜学んだこと＞

- 水生昆虫の種類や量から、川の水質を分析できること
- 昆陽川の豊かな生物多様性
- 川は森の栄養分を海へと運ぶ役割をもっていること

＜採集生物とスコア値＞



(2) スノーケリング・シーカヤック体験

＜活動内容＞

- スノーケリング 海中生物の観察
- シーカヤック 海岸周辺の地形の観察

＜学んだこと＞

- 川がもたらした森の栄養が海中生物の豊かさを生み出していること
- 長い年月が作りだした地形や景観の魅力
- 様々なごみが海流によりもたらされ、海中生物に危険をもたらすこと



(3) 獣被害対策

＜活動内容＞

- クマの生態と獣被害対策の方法

＜学んだこと＞

- ツキノワグマが身近な存在であること
- クマは体が大きい、視力が悪い
- 円山川と由良川が生み出す閑静な性格が但馬地域のツキノワグマの特異性を生んでいること
- クマが集落に出没する最大の原因が柿であること
- 森の木の実の量が少ないと獣被害が拡大すること



(4) 但馬の植生

＜活動内容＞

- 但馬の植生についての講義
- ハチ北での植生調査

＜学んだこと＞

- 但馬の植生の豊かさ
- シカにより絶滅危機にある植物があること
- 他のところの植物を採ってきて植えるのではなく、地元の植物を守っていくことが大切
- 自然と動物が関わりあって豊かな生態系を保っている



3. 学習の成果

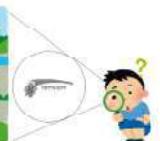
(1) 何が資源（魅力）になるかはわからないということ



左の「ウリハダカエデ」はハチ北の山に群生する。この木からメイプルが採取できることが近年注目されている。新しい地域の名産として活用できる魅力秘めた植物だ。



(2) ざっくり見るのではなく「何か」を通して見るとということ



「川」というものを見ようと思ってもつかみどころがない。その良しあしもざっくりと見ては分からない。しかし「水生昆虫」を通して見れば、水質や生態系の豊かさを分析することができる。

(3) 山・川・海は繋がっているということ

山の植物は山の動物の命を育んでいるのはもちろんだが、それだけではない。葉が腐り、土を豊かにする。土に雨が染み込み、川へとその恵みを伝える。



その恵みが川の、そして川を伝って海の豊かさを育んでいる。但馬の海が豊かなのは、山が豊かだからである。

(4) この地域本来の自然を守っていく必要があるということ

地域の新しい資源（魅力）を見つけることが「地域学入門」の目的の一つだ。しかしそれは、「今ここにあるもの」であるべきだ。そしてそれらはとてもセンシティブで壊れやすい。これらを見つけて活用するだけでなく、守る活動も並行して行う必要があると感じた。



4. 今後の展望

- これからの活動で歴史分野の学習に取り組み、資源となるものを発掘していきたい。
- 学習から見つけた資源（魅力）の中から、地域探求のテーマとなるものを選び、追究していきたい。

教科名	地域探求	科目名	地域探求 I	単位数	1 単位				
対象・学年	2年地域創造系生徒15名			必修の別	必修				
1 仮説・ねらい	<p>①地域との連携を深め、これまでの学習から地域課題の解決策をまとめるために、新たな価値を創造する能力や議論する力を養うとともに、自己表現力を身に着ける。</p> <p>②国際的・芸術的・文化的観点から香美町の文化財（特に石造物）を活用した地域づくりの方策を考える。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	◎	◎	○	○	○	
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	奈良県明日香村の石碑（石造物）探し		インターネットを活用した調査／プレゼンテーション					
		香美町の石碑（石造物）探し		現地調査／プレゼンテーション					
	2学期	奈良県明日香村研修		文化財（石造物）を活用した地域づくり／地域資源を活用した体験型教育施設					
香美町内の現地調査		専門家に同行していただき現地調査							
3学期	石碑を巡る香美の旅		ガイドマップ作成 ナビゲーションシステムの検討						
3 実施内容	<p>(1) 奈良県明日香村の石碑（石造物）探し</p> <p>①インターネットを活用した調査[家庭学習課題]</p> <p>②明日香村の石碑（石造物）紹介[オンライン授業]</p> <p>(2) 香美町の石碑（石造物）探し</p> <p>①現地調査・インターネットを活用した調査[家庭学習課題]</p> <p>②香美町の石碑（石造物）紹介[オンライン授業]</p> <p>(3) 奈良県明日香村オンライン研修</p> <p>①文化財（石造物）を活用した地域づくり 講師：辰巳俊輔氏（明日香村教育委員会文化財課）</p> <p>②現地ボランティアガイド聞き取り調査 講師：寺西和子氏（明日香村観光ガイド）</p> <p>③地域資源を活用した体験型教育旅行 講師：下田正寿氏（大和飛鳥ニューツーリズム）</p> <p>(4) 香美町内の現地調査 講師：石松崇氏（香美町教育委員会）</p> <p>①小代区：ぬい号の碑（平野地区）／小代杉の碑（秋岡地区）／篠原先生の碑（城山地区）</p> <p>②村岡区：5輪塔（萩山地区）／ザゼンソウのモニュメント（大笹地区）</p> <p>(5) 石碑を巡る香美の旅 講師：アレクサンダー・ギンナン講師（鳥取大学地域学部）</p> <p>①ガイドマップ作成</p> <p>②かみなビ（ナビゲーションシステム）の検討</p> <p>(6) その他</p> <p>①夏季集落調査実習 7月9日（木）～</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前授業／講師：房安晋也氏（教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊） 夏季調査実習（小代の若者インタビュー調査） 調査結果まとめ／講師：房安晋也氏（教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊） 集落調査の意義／講師：筒井一伸 教授（鳥取大学地域学部教授） <p>②町長講演会 7月29日（水）</p> <p>講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演 グループ討論①コロナ禍から観光・産業を立て直す方策 ②少子高齢化・人口減に打ち勝つ方策 								
	4 生徒感想	<p>・明日香村について</p> <p>研修を通して、明日香村の発信方法は様々だったが、ご自身が行っている活動に対する真実さや熱意が伝わってきた。村全体が一致団結しているように感じた。</p> <p>・香美町について</p> <p>街歩きでは、調べた石碑を実際に見て、現地では地元の方や役場の方に話を聞き、石碑の魅力や歴史など様々なことを教えていただいた。石碑以外にも地域の方に沢山のことを教えていただき、新しい発見があった。もっと香美町のことを知って今まで知らなかったような魅力をたくさん見つけたい。</p> <p>・今後について</p> <p>今はコロナウイルスの影響で行動も限られているが、この状況でもできることはたくさんあると思う。今私たちができることは、香美町の石造物に興味を持ってもらうにはどうすればいいか、訪れる方は何を求めているかを考えることだと思う。そして、将来的には、国内外の方から来てもらい、明るいイメージの香美町になってほしいと感じる。</p>							
5 評価	生徒評価 （5点満点）	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.4	3.6	3.7	3.5	3.8	3.4	3.5	3.4
6 成果と課題	<p>1年次では、「地域を知る」をテーマに学習を進めてきた。その中で本学年（村岡高校60期生）では、地域にある「石造物」に注目して地域活性化につなげることを試みた。しかし、コロナの影響で通常の学習や明日香村での現地調査ができなかった。そんな中、zoomを使ってオンライン授業を行ったり、明日香村の方とリモートで交流するという新しい試みを通して、明日香村の方たちの地域活性化に対する努力を聞くことができた。そこから得たのは、どのような状況においてもやれることはあるということである。</p> <p>また、香美町の「石造物」を調べたり専門家に話を伺うことで、その「石造物」を造るに至った経緯や時代背景を知ることができた。課題としては、村高フォーラムなどを通して発表を行ったが、香美町の「石造物」の魅力を十分に伝えられなかったのではないかと、ということである。</p> <p>よって今後は、これまでの学習を踏まえ、香美町の「石造物」についての更なる魅力を発見し、それを通して地域活性化へ向けた具体的な方法の検討を行いたい。</p>								

2年 地域創造系 地域探求Ⅰ ～国際的・芸術的・文化的アプローチ～

【目的】

- ・香美町の石造物をガイドマップにまとめ、多くの人に興味をもってもらうこと。
- ・香美町に来てもらい地域活性化に繋げること。

【方法】

- ①香美町内の石碑について調べ、資源を発掘する →各自で町内の石碑調べ
- ②先進的な取り組みを学ぶ →奈良県明日香村 研修

【活動日・内容】

5月19日 奈良県の石碑①(Zoom)

5月26日 第2回奈良県の石碑②(Zoom)

6月1日 石碑を巡る香美町の旅①(Zoom)

6月9日 石碑を巡る香美町の旅②(Zoom)

7月27日 香美町の石碑巡り

講師:アレクサンダー・ギンナン先生(鳥取大学) 石松 崇さん(香美町教育委員会)

7月29日 町長講演会

8月1日 夏季調査実習インタビュー①

8月2日 夏季調査実習インタビュー②

8月5日 夏季オンライン研修(明日香村)



石碑を巡る香美の旅～村岡・兎塚・小代～

【香美町内の石碑調べ & 香美町の石碑発表(リモート発表)】

- ・近所のおじさんに話を聞く
- ・インターネット
- ・実際に行ってみる 等

【香美町内の石碑巡り～村岡・兎塚・小代～】



◎小代・小代区平野 / むい号の碑



・小代神社 / 小代杉の礎 ・小代区城山 / 篠原先生碑



◎村岡・一二峠 / 五輪塔 ◎兎塚・ハチ北高原スキー場

香美町の石碑を調べて・・・

- ・周辺の様子
- ・なぜその場所に石碑があるのか
- ・当時の時代背景
- ・地域の人に石碑について聞くこと
- ・石碑に書いている文字に注目すること

→様々な視点から石碑を捉える!!

写真	ローマ	所在地
	小代町	小代区平野
	小代町	小代区城山

地域創造系2年夏季研修(奈良県明日香村)

目的

- ①国際的・芸術的・文化的観点から文化財(特に石造物)を活用した地域づくりの方策を考える
- ②地域活性化のための行政・住民などの取り組みを調査し故郷に提言する契機とする

◎オンラインによる実施

調査内容

・地域づくり

明日香法・石造物ツアー・道標・文化財・世界遺産



◎一般的なセブンイレブン



◎明日香村のセブンイレブン



・大和・飛鳥民家ステイ



・ボランティアガイド



発見

◎香美町

◎明日香村

◎「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」

★世界遺産登録に向けて

◎地域作りに積極的→地元愛

◎ナビゲーションシステム→『あすかナビ』

香美町にはない発信方法!!!

【課題】

- ・明日香村の方たちは世界遺産登録に向けて動いているが、香美町には**どんな目標があるのか**
- ・香美町内の石碑を**もっと知る**
- ・香美町には**石碑以外にも宝がある**と思うので、**興味を持ち宝を見つけていく**



【展望】

- ・研修報告書作成
- ・町内の石碑調べの継続
- ・発信方法の検討
- (Ex) マップ ガイドブック
- オンラインのガイドサービス 等



過去の発行物 (2018・2019年度)

【最後に】

- ・リモート発表という新しい体験
- ・明日香村の方とのリモートでの交流
- 誰にでも地域の魅力を伝えられるように香美町への愛着を高め、香美町の発展に貢献できるよう探求を続けていく。

教科名	地域探求	科目名	地域探求II	単位数	1単位				
対象・学年	3年地域創造系生徒12名			必履修の別	必履修				
1 仮説・ねらい	<p>①地域課題の解決方策の実現に向けて、愛する郷土のためにこれまで探究してきた内容をまとめ、提案するために適切にコーディネートし、問題解決へ向けて発表していく。</p> <p>②「香美町ふるさとものしり博士」の聞き取り調査（2年次）を行った結果をもとに、「香美町ふるさとものしり博士」を活用したふるさと教育に関する小中学校向けの教材開発（ゲーム開発）を行い、より体系的にふるさとについて学びを深める一助としたい。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	ふるさと教育教材プラン作成			ゲームプラン作成				
					ゲームプラン発表・評価				
					ゲームデザイン化				
2学期	ふるさと教育教材製作			ゲーム製作					
				テストプレイ					
				ゲーム改善					
3学期	ふるさと教育教材開発まとめ			ゲーム完成					
				まとめ					
3 実施内容	<p>(1)探究テーマ「ふるさと教育教材開発」（ゲーム開発）</p> <p>①プラン作成[オンライン授業] ②プラン発表[オンライン授業] ④プラン評価[オンライン授業] ⑤グループ討議[オンライン授業] ⑥目的と留意点/講師：武田信吾 准教授（鳥取大学地域学部） ⑦ゲームデザインの具体化/講師：武田信吾 准教授（鳥取大学地域学部） ⑧ゲーム作成/講師：武田信吾 准教授（鳥取大学地域学部） ⑨テストプレイ（対象：本校若手職員） ⑩テストプレイ（対象：ふれあい村岡：学童クラブ）/講師：武田信吾 准教授（鳥取大学地域学部） ⑪ゲーム改善/講師：武田信吾 准教授（鳥取大学地域学部）・香美町教育委員会・香美町ふるさとものしり博士 ⑫テストプレイ（対象：ふれあい村岡：学童クラブ） ⑬まとめ授業/講師：武田信吾 准教授（鳥取大学地域学部）</p> <p>(2)その他</p> <p>①夏季集落調査実習 7月9日（木）～ ・事前授業/講師：房安晋也 氏（教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊） ・夏季調査実習（小代の若者インタビュー調査） ・調査結果まとめ/講師：房安晋也 氏（教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊） ・集落調査の意義 /講師：筒井一伸 教授（鳥取大学地域学部教授）</p> <p>②町長講演会 7月29日（水） 講師：浜上勇人 香美町長 / 助言者：塩沢健一 准教授（鳥取大学地域学部） ・講演 ・グループ討論①コロナ禍から観光・産業を立て直す方策 ②少子高齢化・人口返照減少に打ち勝つ方策</p> <p>③兵庫県ビジョン若者出前講座 12月9日（木） 講師：大町充弘氏（兵庫県企画県民部ビジョン局ビジョン課） ・講演「兵庫から新たな未来を創る」 ・グループ討論 「2050年 未来の但馬（村岡）を創ろう！」</p>								
	<p>「地域探求」での3年間の学びは、私の地域に対する思いを強くした。また、地域活動を通して、多くのことを学び、私自身、一回り成長できたと思自している。高校卒業後は大学進学のため、香美町を出るが、離れていても地元を想う人、いわゆる「関係人口」の1人として、地元に関わりたいたいと思っている。</p> <p>地域活性化を進めていくためには、町全体の連携が必要不可欠です。そのような時、「人と人とのつながり」が大切になってくると思います。まだまだ未熟な私のプランですが、少しでも香美町の活性化の役に立てればと思います。そしていつかは香美町の地域活性化に携わり、今よりも活気の溢れる町にしたいと考えています。</p> <p>現在日本は、東京へ一極集中が著しく進んでいますが年々人口は減少しています。都心でも高齢化などに悩まされる時代がくると予想されています。その中で、私たち村岡高校がやってきたことが日本の地域づくりの最先端を行ってほしいと思います。</p>								
5 評価	生徒評価（5点満点）	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4
6 成果と課題	<p>ゲームを通して郷土に関する知識や理解を深めるという目標に関しては概ね達成されていたように思える。地域にどんな人がいて、どんなものがあって、それがどんな魅力に結びつくのか、地元の小学生が考えるための良い機会を与えられたと感じた。しかし、一方ではゲームをうまく実施させることに集中するあまり、ゲーム作りそのものに関する考察が先行しないかの懸念もあった。相手が小学生である以上、かなりの工夫が必要であるが、郷土のことを知ってもらう、という本来の目的が忘れられる場面が散見された。従って、これからの課題は、目標を見失わず、ゲームプレイヤーの発達段階に応じた工夫をゲームの中に盛り込んでいけるか、ということだろうか。</p>								

地域創造系3年生 地域探求Ⅱ ふるさと教育教材開発プロジェクト

～目的～

「香美町ふるさとのしり博士」を活用し、ふるさと教育に関する教材開発（ゲーム）を行い地元の小中学生が故郷についての学びを深める。

～活動内容～

1. 「香美町ものしり博士ガイドブック」作成

「香美町ものしり博士ガイドブック」とは、ふるさと教育に地域人材を活用した参考資料。「ふるさと教育」をますます浸透させ、地域の学びを深める。そのために、地域の人に詳しいものしり博士にインタビューし、「香美町ものしり博士ガイドブックvol.2」の作成をしている。

(例) 片村福夫さん
「矢田川と鮎」について



吉本 正行さん への聞き取り調査

ものしり博士の方だけに話をしてもらうのではなく自分たちも積極的に質問をするように心がけました。初めは緊張感もありましたが、世間話などを交えながら話すことでその人の価値観も知ることが出来ました。

小林さんへのインタビューは私たちにとって初めての聞き取り調査でした。その時に気を付けたことは、沈黙にならないようにすること。そのためにインタビュー前に質問事項を話し合った。準備がしっかりできていたから、インタビューもスムーズに進み、ものしり博士自身の人的魅力と地域の物的魅力どちらも学ぶことができました。



小林 建造さん への聞き取り調査

2. ふるさと教育教材開発

1. リモートでアイデア出し

コロナウイルスの影響で、学校に登校できない中、各自がどんなゲームを作りたいかを考え、zoomでそれぞれプレゼンした。



2. ブラッシュアップ

出てきたアイデアの中から、「カードゲーム」「スゴロク」「村づくりゲーム」の3つのグループに分かれ具体的にどのゲームをベースとするか考えた。その後、自分たちのテーマに沿いつつ、楽しんで学べるゲーム要素を加えていき、より良いものになるように話し合った。

3. 試作

自粛期間が明け、考えたゲームの試作品を作りプレイした。それにより、新しいゲーム要素が浮かんだり、改善点を見つけることができた。



4. 小学生との体験会

自分たちが考えたゲームを初めて小学生に体験してもらった。そこで子供たちの遊んでいる様子を見て新たな反省、改善点が分かった。逆に狙いどおりになった点も多くあり、手ごたえを感じた。



かるた

テーマ

・かるたという身近でありシンプルなルールのゲームで地元のものしり博士とその活動を知らせてもらう。
・戦略を考えたりする中で無意識に内容が頭に染みこむようにする。
・知っていることを増やし、自分が興味を持ったことだけでも調べてもらいたい。

内容

ルールはかるたと同じ。ただし勝敗はカードの枚数ではなくカードに書いてあるポイントの合計。イベントカードによって大逆転の可能性も！



好評点

・カードを見てこれしてみたいと興味を持ってくれた。
・読み札をしっかりと聞いて知っているキーワードに集中して聞いて狙い通りだった。

改善点

・ルールをもっと細かく設定する。
・かくじの内容を検討する。
・ものしり博士についての説明をもっとしっかり。

アユの人生ゲーム



テーマ

ゲームを通して「アユが暮らしている＝自然がきれい！」ということに気づいてもらい、地域の魅力を学んでもらう。また、ゲーム化することで、より地域を身近に感じてもらう。

内容

矢田川に住んでいるアユになり、アユの一生を疑似体験できるこのゲームを通して、アユのことや矢田川のが学べる。

好評点

小学生全員が楽しんでいて、最後には自ら学ぶ積極性が見え、このゲームが地域を学ぶことに繋がったことがとてもよかった。

改善点

・漢字が難しかった→振り仮名を作る
・クイズの答えに対して疑問があった→答えに解説を入れる
・小学生だけでゲームを進めない→簡単なルールブックを作る

最後は、ゲームの中で自分が分からなかった内容をノートや紙に自らメモを取る姿が見られた
→ゲームが学びの場所になった!!

3. まとめ

【もの知り博士ガイドブック】

・ものしり博士の聞き取り調査によって、地域の人的魅力と物的魅力に気づけた。
・学んだことや気づいたことを情報発信することで、多くの人に地域の魅力を知ってもらうことにつながる。

【ふるさと教育教材開発】

・実際に小学生に体験してもらったことで、各班気づいたことが多かった。
・ゲームを通して楽しんで学べる「ふるさと教育」に向けてこれからも実施し、改善していく必要があると感じた。

今後

「香美町ものしり博士ガイドブックvol.2」を完成させ、地元の魅力を伝える

今後

今回の反省を活かしてより良い「ふるさと教育教材」の開発に取り組む

ヴィレ盤 Villaban 1班

1. どんなゲーム?

・ミッションカードで与えられた利権アイテムを敵対する同盟をせよゲーム。
・途中でアクションが起きる。
・最終的に与えられたミッションの物の数と完成させて敵めたものの数の差が小さい人が勝ち。

2. やってみてどうだった?

良かった
・ゲームとして戻り立つことができた。
・改善点が多く見つかりつつも理解が深いゲームができたとニアかった。
難しかった
・学びができていないか。
・ルール説明に工夫が必要。

3. 小学生の感想は?

・楽しかった(みんなと)
・もっとバトルフィールドを増やして欲しい

4. 高校生の感想は?

・面白い
・進め方があった
・高学年でやってみたい

教科名	地域探求	科目名	地域学入門					単位数	1 単位
対象・学年	1年アウトドアスポーツ系11名						履修の別	必修	
1 仮説・ねらい	<p>①地域の豊かな自然、観光資源、専門家の講義により、地域課題を発見しテーマ設定を行う。探究活動の手法を身に付けるとともに、コミュニケーション能力や課題発見能力を養い、自ら学びに向かう姿勢を身につける。</p> <p>②地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験やスポーツ理論の体験学習により、スポーツを通じた地域活性化の探求心を育む。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	○	○	◎	○	○	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・プレゼンテーション(春季課題)・レポートの書き方				
		地域の自然を知る			地域の自然環境を活かしたアウトドアスポーツ体験				
	2学期	スポーツ理論			スポーツ関わる仕事を知る				
					心と体の栄養学について学ぶ				
	3学期	探究テーマ検討			地域活性とスポーツ				
			探究テーマ検討						
3 実施内容	<p>(1) オリエンテーション</p> <p>①概要説明</p> <p>②プレゼンテーション テーマ「私のお勧めのアウトドアスポーツ」</p> <p>③レポート作成方法について</p> <p>(2) 地域の自然を知る</p> <p>①デイキャンプ 7月29日(水) 講師：久下 慎太郎氏(講師美方高原自然の家「とちのき村」) ・仲間づくりプログラム ・野外炊事 ・沢登り</p> <p>②チャレンジクライミングウオール 11月16日(月) 講師：西垣 幸造氏(講師美方高原自然の家「とちのき村」)</p> <p>(3) スポーツ理論</p> <p>①スポーツトレーナー 10月28日(水) 講師：南 遥夏氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>②鍼灸師 11月5日(木) 講師：西村 展幸氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>③スポーツ外国語 11月10日(火) 講師：クレイグ マクラレン氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>④理学療法士 11月10日(火) 講師：木下 拓真氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>⑤柔道整復師 11月18日(水) 講師：辻井 宏昭氏(履正社医療スポーツ専門学校)</p> <p>(4) スポーツと栄養</p> <p>①心と体の栄養学 12月10日(木) 講師：飯田 みつ子氏(地元講師)</p>								
4 生徒感想	<p>今回は自分の中で本当に充実した一日でした。今回のイベントはどれも一人ではできないものばかりで、改めて他人と協力することの大切さを知りました。自分はあまり班行動が得意ではありませんが、自分が何をすればいいか困っていると友達がサポートしてくれたり、サポートしてくれたおかげで、気持ちが沈むことなく行動することができました。そして、すべての物事をやり終えたときに大きな達成感を味わうことができました。他人と協力して行動することは社会にいれば必要不可欠だと思うので、今回の特別授業を機に、色々なところでこの経験を活かし、又、これからももっと集団行動のスキルを身につけて社会にでたときにスムーズに自分のことができるようにしたいです。今回の授業は本当に大切なことをたくさん学べたいい一日でした。</p> <p>私は、理学療法士の夢があり、相手の身体の状態もわかるようになったり自分の身体もわかるようになったりできるし、たくさんの人と関わる仕事だから、できることはしっかりしようと思いました。まだもっと理学療法士を調べていき、勉強もしっかりと頑張ります。</p> <p>今回教えてもらったことで学んだことは体の健康は心にも関係することと、栄養を平均的に摂取するのは難しいことに改めて気づいたことです。今回自分の中で頑張ろうと思った目標がありました。それは、自分のことをよく知って健康な体を作ることです。親元で生活しているときはちゃんと考えられた食事を食べていたと思いますが、私は今、下宿生活をしているので、自分の体のことをよく考えて栄養を摂取し、しっかり生きていきたいと思いました。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.5	3.8	3.6	3.5	3.5	3.7	3.4	3.6
6 成果と課題	<p>地域学入門では、「地域を知る」をテーマに、地域の専門家から地域の魅力となりうる資源を教わったり、その資源とスポーツを結び付け地域活性の手法を学び、2・3年次における地域スポーツの学習に向けてその準備をしている。キャンプやクライミングなどの地域の自然を活用したアウトドアスポーツ体験により、基礎を学び、役割分担・責任感・リーダーシップ・協力など他者理解と自己理解を深めることができた。また、スポーツ理論や栄養学の学習を通して、高度な専門的知識を知り進路意識が高まった。課題としてあがるのは、地域学入門での学びは、体験的な学習を主としているため課題発見でとどまり、課題解決能力の育成・向上までは到達していないと思われる。2・3年次に深みのある探求活動を展開していくためにも、早期から地域活性とスポーツを結びつけるための調査・研究する探求学習を取り入れ展開していく必要がある。</p>								

1年アウトドアスポーツ系

一年生は最初に仲間づくりとして、とちのき村でデイキャンプをしました。仲間と支えあう活動を通じ、他社理解と自己理解を深め、チームの力を高めることをねらいとしています。

活動内容

- ・仲間づくりゲーム
- ・野外炊事
- ・沢登り
- ・ふりかえり



仲間づくりゲーム

仲間づくりゲームでは目の前にある課題をクリアするために今自分に何ができるのかを考え、自分も他人も尊重しあえるチーム作りのきっかけとし、今後の活動に活かしていくことがこの仲間づくりゲームのねらいです。



野外炊事

野外炊事では役割分担・リーダーシップ・協力する力が求められます。食材の下ごしらえ、薪割り、火おこしなど、役割分担しみんなで協力することでチームワークの向上に繋がりました。



食材ドラフト

食材ドラフトでは、どんな立場でもしっかりと自分の意見を言える環境をつくり、他人を譲り合う力を身につけ、仲間意識を高めるなどのコミュニケーション能力を向上させ、グループでより効率的に活動できるように工夫し活動しました。



沢登り



午後からは沢登りにいきました。地図には載っていない三つ滝という滝を目指します。助け合いと高い安全意識が求められ、自然の怖さと仲間の大切さを同時に、学びました。

まとめ

この活動で学んだこと...

- ・集団で行動することで、改めて**仲間の大切さ**を知り、より**団結力**を向上させることができた。
- ・大自然のなかで活動することで普段しらなかった**自然の魅力**やおもしろさを体感することができた。

今後の活動予定

今回の活動の反省

今回の活動では、最後のふりかきで自分の学んだことや感想をあまり言えなかったため、これからはもっと自分に自信を持ち、より積極的になっていきたいなと思います。

- ・スポーツトレーナー
- ・スポーツ外国語
- ・柔道整復師
- ・チャレンジライミングウォール
- ・栄養学
- ・鍼灸師

教科名	地域探求	科目名	地域スポーツ I					単位数	1 単位
対象・学年	2年アウトドアスポーツ系18名						必修修の別	必修修	
1 仮説・ねらい	<p>①「安心して暮らせるまちづくり」を目指し、「健康づくりと地域活性」「スポーツ観光と地域活性」をテーマとした探究活動を行いながら、新たな価値を発見する能力や自己表現力を養う。</p> <p>②高齢者の健康づくりをテーマに、香美町がすすめている「元気体操サークル」の普及に取り組む。また、身体機能改善状況を分析し、元気体操～南中ソーラン編～の創作活動を行う。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	元気体操作成①			南中ソーラン高齢者バージョンを学ぶ 創作活動①				
	2学期	元気体操作成②			エアロピクスとズンバ 元気体操～南中ソーラン編～の創作活動②				
	3学期	スポーツ観光と地域活性 元気体操作成③			全日本スキー連盟公認スキー級別テスト 創作活動③ DVD作成に向けて				
3 実施内容	<p>(1) オリジナルダンスの作成 座ったままでもできる南中ソーラン ・立ったままでもできる南中ソーラン等 高齢者の機能を考慮し、創作活動に取り組む。</p> <p>(2) エアロピクスとズンバ 9月15日(火) 講師：京都医療保健専門学校学生6名(うち本校卒業生1名) 健康体操を考えるために様々な分野のダンスから多様な動きを学び、健康体操に活かす。</p> <p>(3) 元気体操創作活動 11月16日(火) 講師：鳥取大学 関耕二准教授 健康体操作成上のアドバイスをいただき、各班ごとにオリジナル元気体操の作成に取り組む。</p> <p>(4) スポーツ観光と地域活性を図るため、スキー資格取得に取り組む。 全日本スキー連盟公認スキー級別テストの検定を受験。 1級1名、2級5名、3級6名、4級4名合格。</p>								
4 生徒感想	<p>普段、お年寄りの方が健康を維持するために、いろいろな体操をしていることを知ることができた。実際に体験して、立位バージョンや座位バージョンなど工夫されていることもわかりました。また、お年寄りの方がする元気体操だけでなく、若者がするズンバやエアロピクスも楽しく学べました。</p> <p>私たちは地域スポーツの活動を通して健康づくりと地域活性について学んできました。高齢者のための活動として、介護予防体操の改善や体力測定の結果の分析をし、誰が行っても楽しく、そして飽きない体操づくり、座ったままでも踊れる南中ソーランについて考えてきました。来年度からもこの活動を継続し、高齢者だけでなく多くの住民が元気になってほしいです。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.3	3.5	3.0	3.5	3.3	3.0	3.1	3.4
6 成果と課題	<p>介護予防体操による身体機能の改善に向けて元気体操の普及につとめ、身体機能の分析を行い、最終的に自分たちで体操をつくり、DVD作成を行う計画であった。実際に普及活動を行っていく中で、高齢者の身体機能を分析し、機能維持・機能向上を体操に反映させていきたかったが、新型コロナウイルス感染症の流行により、高齢者施設や西本町区会館での普及活動を行うことができなくなったため、先行してオリジナルダンスの作成にかかった。香美町福祉課の職員や鳥取大学の関先生のアドバイスいただきながら、班ごとに意見を出し合い、創作活動を経るにしたがって洗練されていった。課題としてあげられるのは、次年度、元気体操やオリジナルダンスの普及活動をどのように行っていくか検討していかなければならない。その中で見つかる高齢者の身体機能とオリジナルダンスの効果や課題を分析し、DVD作成に向けて修正を繰り返しながら、より良いものを作成し、住民がより健康に生活できる地域づくりに繋げていきたい。</p>								

2年アウトドアスポーツ系

地域スポーツ I

健康づくりと地域活性

～介護予防体操による身体機能改善～

【趣旨】

香美町においても少子高齢化が進み、2045年には少子高齢化率が50%を超えると予想されている(2015年では36.7%)。このような状況下で高齢者を中心にスポーツを通して健康づくりを行い、香美町在住の多くの住民が元気に、地域が活性化していくことを目指し、香美町と協働で取組を進める。

【活動内容】

2019年 9月26日 香美町が進めている「元気体操サークル」の普及
11月26日 訪問してお年寄りの方と一緒に元気体操と体力測定
12月13日 高齢者の健康づくりに関する取組
2020年 1月28日 創作活動
6月7日 お年寄り向け「南中ソーラン」の創作活動
*現在、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から「元気体操サークル」普及活動は自粛しています。



元気な あなたの 明日の ために。

元気体操

体操の種類

ラジオ体操 足踏み体操

グーパー空手 棒体操(上下左右) 背筋伸ばし

下肢のストレッチ 太ももの筋力ストレッチ いきいき体操



普段、お年寄りの方が健康を維持するために、色々な体操をしていることを知ることができた。実際に体験、して立ったバージョンや座ったバージョンなど工夫されていることもわかりました。また、お年寄りの方がする元気体操だけでなく、若者がするスンバやエアロビクスも楽しく学べました。

座ったままでもできる南中ソーランの創作活動



座ったままでも出来る南中ソーランは、手を大きくゆくりと動かすようにして、お年寄りにも優しい動きにしました。

高齢者が立ったままでもできる南中ソーランの振り付けも合わせて考えました。どこまでなら体を動かすことができるか、どの動きが高齢者にとって大変かを考えながら制作に取り組んでいます。



エアロビクスとスンバ



京都医健専門学校からOGが来校してレッスンをして頂きました。エアロビクス体験スンバ体験のほかに、レクリエーションをしました。楽しくみんなで盛り上げられました。

エアロビクスとは、ケネス・H・クーパーが考案したダンス形式の有酸素運動。

スンバとは、アルベルト・ベト・ベレスによって創作されたフィットネス・プログラム。エアロビクスに比べてダンスステップを基本としている。



～これからの活動～

- ・村岡高校オリジナル元気体操のDVD作成
- ・DVDの配布
- ・お年寄りの方と座ったバージョンのソーランと一緒に踊る

まとめ

私たちは地域スポーツの活動を通して健康づくりと地域活性について学んできました。高齢者のための活動として、介護予防体操の改善や体力測定の結果の分析をし、誰が行っても楽しくそして飽きない体操づくり、座ったままでも踊れる南中ソーランについて考えてきました。来年からも今後の活動を通して、高齢者だけでなく多くの住民が元気になることを目指します。

教科名	地域探求	科目名	地域スポーツⅡ					単位数	1 単位
対象・学年	3年アウトドラスポーツ系9名						必修の別	必修	
1 仮説・ねらい	<p>①「地域スポーツⅠ」で香美町、香美町教育委員会、地元アウトドラスポーツ施設経営者などに「自然と暮らし（地域資源）を活用した観光・レクリエーション産業の活性化」、「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとした活性化方策の提案とその実現に向けた地域との連携を一層深めることで、郷土愛を育む。</p> <p>②ワールドマスターズゲームズ、オリエンテーリング競技が香美町で実施されるため、オリエンテーリングを学び健康増進のための普及活動を行う。</p>								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーリング振り返り			昨年度実施内容の考察・普及計画案作成				
	2学期	オリエンテーリング普及活動			オリエンテーリング体験会（小学生対象）				
					オリエンテーリングブレ大会参加				
	3学期	オリエンテーリングまとめ			ブレ大会アンケート考察				
			報告書作成						
3 実施内容	<p>(1) オリエンテーリング振り返り</p> <p>①昨年度実施したオリエンテーリング講習会の分析・考察</p> <p>②オリエンテーリングブレ大会に向けた普及計画立案</p> <p>(2) オリエンテーリング普及活動</p> <p>①オリエンテーリング体験会 9月19日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル/講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）・南垣強氏（香美町教育委員会） ・体験会/香美町土曜学習チャレンジ事業として実施 講師：邊見泰正氏（村岡区中央公民館）・田中和彦氏（香美町教育委員会）・南垣強氏（香美町教育委員会） <p>②オリエンテーリングブレ大会 11月14日（土） 会場：ハチ北高原</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー：山西哲郎氏（日本オリエンテーリング協会会長） ・講師：田中和彦氏（香美町教育委員会）・南垣強氏（香美町教育委員会） ・オリエンテーリング競技参加、聞き取り調査の実施 								
4 生徒感想	<p>私は、地域スポーツⅡの授業を通して人とかかわりの大切さ、企画運営の大変さを学びました。一番頑張ったのは、オリエンテーリングだと思います。二年生のころからオリエンテーリングについて学んできました。最初は、オリエンテーリングについて詳しく知り、体験をさせてもらうだけでした。オリエンテーリングについて学んだあとは、自分たちでコースを考えてみたり、地図を作成したりと、今度はオリエンテーリングを体験させる側になりました。今までは、体験させてもらうだけだったので、企画運営の大変さを学ぶことができました。また、オリエンテーリングの学習を通して、たくさんの人とかかわりました。自分より年上の方にアンケートをとったり、小学生相手にオリエンテーリング体験会をしたり。いろいろな年代の人と関わる機会がありました。私は、初対面の人と話すことが苦手だったのですが、アウトドラスポーツの授業で初対面の人とかかわることが増え、少し慣れることができました。高校を卒業したら、自然の楽しさを伝える仕事するので、これまでに学んだことを生かしていきたいと思っています。</p> <p>今回オリエンテーリングについて学習して、沢山の知識を身に付けました。最初は、オリエンテーリングについての知識が何もなく、オリエンテーリングがどんなスポーツなのかもわからなかったけど、講師の南垣さんと田中さんに一から教えていただいて少しずつ理解できるようになりました。そして、学んでいくうちに体験会やサタチャレ（土曜チャレンジ学習事業）を行ったり、ワールドマスターズゲームズ2021関西オリエンテーリング競技ブレ大会に選手として参加やスタッフとして参加するようになっていきました。自分たちでイベントを開催するときに、初めての時はマップの作成や、ポイントの位置決め、点数配分を考えたりすることが全然できなかったけど、2回目以降は以前やったことを思い出しながら進めていくと、早く考えることができました。本番では、初めての人にもわかりやすく説明できたし、運営もしっかりと進めることができました。そして、ブレ大会では、自分は選手として参加したのですが、初めての大きな大会だったので不安と緊張でいっぱいでしたが、いざスタートしてみると不安と緊張を忘れてプレイに集中することができました。今回学んだことを活かし、今後運営や選手として参加していきたいと思っています。オリエンテーリングについて学ぶことができて本当に良かったです。</p>								
5 評価	生徒評価（5点満点）	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		4.1	4.3	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9	4.1
6 成果と課題	<p>オリエンテーリングの理論を学び、体験することで、仲間と過ごす楽しさに気づき、リーダー性や協調性を養うことができた。そして、学習の成果をもとに、オリエンテーリング講習会や体験会を小学生対象に企画し実施する中で、課題発見能力や表現力などの力を伸ばすことができた。また、地域にオリエンテーリングの見識を深め、普及の一助となったのではないと思う。今年度、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ワールドマスターズゲームズの開催が1年延期になった。引き続き、学校や地域での講習会や大会を開催し、地域の自然を活用した生涯スポーツとして継続できるように努めていきたい。課題としては、今年度は小学生を対象とした普及活動だけにとどまってしまうが、幅広い年齢層を対象として体験会を実施していく必要があると考える。</p>								

3年アウトドアスポーツ系

地域スポーツ II

テーマ 地域づくりと地域活性

地域スポーツ

2021年に香美町で生涯スポーツの国際総合競技大会である世界ワールドマスターズゲームズ関西が開催されます。それに僕たちアウトドアスポーツ系3年生は、普及活動の一役を担い、去年からたくさんの体験をさせてもらっています。

30歳以上でスポーツが好きな方だったら誰でも参加することができます。

小学生と交流したり、自分でコースを作り、そのコースを地元の小学生に走ってもらったりたくさんの活動をしてきました。それをこのポスターにまとめたので見てください。

オリエンテーリングとは

野山の中で、地図上に示された目印の地点をたどりゴールまでのタイムを競う競技です。ただし、各地点間はどのように進んでもよく、より早いルートで自分で考え進むことが、マラソンやクロスカントリーなどとは違う特徴があります。

場所は、森や公園、草原などの自然を使われます。

競技は競技者のレベルに合わせたものが用意され、初心者から上級者まで子供から大人まで楽しむことができるスポーツです。



オリエンテーリングの種類

- ・ポイントオリエンテーリング
- ・スコアオリエンテーリング
- ・スキーオリエンテーリング
- ・フリーポイントオリエンテーリング
- ・トレイルオリエンテーリング

地域スポーツ I

活動内容

- ・オリエンテーリングの体験(体育館、兔和野)
- ・企画、運営の仕方を学ぶ
(コース作成、集計の仕方、説明など)
- ・運営のスタッフ、企画実施



改善点

- ・ポイントの設置に時間がかかったため、早めの準備をする。
- ・小学生に渡す表彰状の枚数が足りなかったため事前に確認する。

地域スポーツ II

活動内容

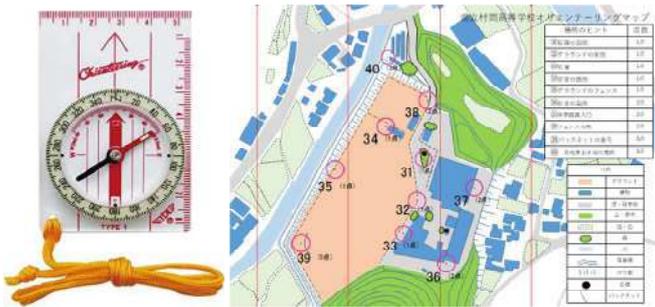
- ・サタチャレ
(オリエンテーリング体験会&ホットサンド作り)
- ・サタチャレの運営、司会進行



改善点

- ・オリエンテーリング中にチームからはぐれてしまう小学生がいたので、高校生がまどめないといけない。
- ・スタート前の説明で、小学生相手だから時間をかけてでもわかりやすく説明する。

オリエンテーリングに必要なもの



コンパス

地図

オリエンテーリングの魅力

・オリエンテーリングの舞台

全国各地の森や公園などの自然の中で、いろいろな季節いろんな場所の、いろいろな自然を自分の足で満喫することができる競技です。

・走力と知力のバランス

オリエンテーリングは起伏のある地形を走るための走力だけでなく、地図を解読するための知力も必要です。つまり、オリエンテーリングには競技の難しさ=楽しさがあるのです。

まとめ

地域スポーツの授業でオリエンテーリングというスポーツを通してたくさんのことを学びました。

企画営業の大変さ、わかりやすく誰でもわかるように説明するためにはどうしたらいいのかなどたくさん考えました。小学生はあまり話を聞いてくれなかったりすることがありましたが、興味を持ってもらえるように図や質問などで工夫したり、コース作りでは危ない場所などを探し安全に行えるように企画運営を行いました。

私たちが オリエンテーリングというスポーツを知るきっかけとなったのは、今年開催される予定だった、このワールドマスターズゲームズ関西です。

今後も子供たちや地域の人たちの健康作りにつながるオリエンテーリングの普及活動に動めていきたいです。



WORLD MASTERS GAMES
2021 KANSAI / JAPAN

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)		グループ名	民芸班 (演舞グループ)				単位数	1 単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必修修の別	選択	
1 仮説・ねらい	南中ソーランを地域のイベントで披露することで、地域の方々との交流を深め地域を活性化していく。また、地域の方々（特に高齢者）でも一緒に踊れる南中ソーランの開発を行うことでさらなる地域の活性化を目指す。								
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			新入生への指導				
		班別活動②			南中ソーランの全体練習				
	2学期	班別活動③			南中ソーランの高齢者バージョンの作成①				
		班別活動④			南中ソーランの高齢者バージョンの作成②				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
総合的な探究の時間発表会		ステージ発表							
3 実施内容	<p>班別活動① 新入生への指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生と3年生による南中ソーランの披露 ・6人程度のグループに分かれ、1年生への南中ソーランの指導 <p>班別活動② 南中ソーランの全体練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の個別練習 ・全体練習 <p>班別活動③ 南中ソーランの高齢者バージョンの作成①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南中ソーランをイスに座ったまま踊れる振り付けの考案 ・グループ毎の個別練習 <p>班別活動④ 南中ソーランの高齢者バージョンの作成②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南中ソーランをイスに座ったまま踊れる振り付けの考案 ・高齢者バージョンも含めた全体練習 								
4 生徒感想	<p>・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、南中ソーランを披露する場面がありませんでした。しかし、このような状況を利用して細かな部分が修正できて良い機会でした。</p> <p>・高齢者向けの南中ソーランの開発は高齢者の目線で考えなければいけません。高校生で「他人の目線で考える」という経験ができたことは貴重な体験になりました。社会に出てこの能力を使いこなせるようになりたいと思いました。</p> <p>・村高フォーラムで初めて、高齢者向けの南中ソーランを披露しました。しかし、高齢者向けとはいえ、動きが激しい振り付けもあるのでまだまだ改善の余地があると思います。高齢者の方でも無理なく踊れる振り付けを考えていきたいです。</p> <p>・総合学習を通して私が考えたことは「どのような踊りをすれば、見てくれている人を感動させられるのか」ということです。自分なりに考えた答えは、「大きな声を出して一生懸命な姿を見せよう」「頑張っていることを伝えるように踊ること」でした。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		3.8	4.0	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8
6 成果と課題	<p>この1年は新型コロナウイルスの感染拡大により、地域の方々に南中ソーランを披露する機会がほぼ中止となった。披露できたのは村高祭と村高フォーラムの2回だけであった。そんな状況ではあったが、2・3年生は各自がよりよい踊りができるように練習を重ねるとともに南中ソーランを1年生に指導することは例年通り行った。さらに今年は南中ソーランの高齢者バージョンの作成を行った。これは「足腰の悪い私たちでも生徒と一緒に踊りたい」という地域の方からの要望がかねてからあり、高齢者バージョンの作成ができたことは今年の大きな成果である。</p> <p>課題としては、「南中ソーランの細かい動きを上手に踊れるようになる」「声量をあげる」「南中ソーランの高齢者バージョンを全員が踊れるように練習する」「南中ソーランの高齢者向けを作成したとはいえ、動きが激しい振り付けもあるため、高齢者の方でも無理なく踊れる振り付けを考える」「PR動画を作成する」といったことが挙げられた。</p>								

民芸班

～民芸班とは～

私たちは、村岡高校で「地域活性化プロジェクト」を軸にスキー部・男女バレーボール部で活動しています。

主に地域行事のオープニングに出演し、村高祭でソーラン節と本道行土舞を披露します。

学校祭での総合的な学習の時間を利用し、ソーラン節の練習をしています。修正点などを全員で直していき、本番で完璧に踊れるように頑張っています。

今年は新型コロナウイルスの影響で地域の行事に参加することができませんでしたが、私たちは高齢者でも踊ってできるソーラン節を独自に考えました。

これからも地域の方々に元気を与えられるように頑張ります。



～みかた残競マラソン～



地面が悪く、滑りやすい状態でしたが、自分たちのできる最高の走りをすることができました。多くのランナーが写真をとったり、撮ったりして一緒に楽しみました。

ランナーと一緒に南中ソーランを踊ったり、ハイタッチをして、ランナーを応援しました。ランナーの皆さんと触れることによって、楽しく踊ることができました。

まとめ

私たちは、みかた残競マラソンで村岡中学校の中学生として南中ソーランを踊りました。自分たちで考えたダンスは、ランナーの皆さんも、とても好評の踊りとなりました。

～みかた残競マラソンスタート地帯～

村岡高校民芸班披露式

皆さんこんにちは。あるいは、おはようございます。こはるは、村岡高校民芸班の代表です。私たちは、みかた残競マラソン大会の地域の運動会に参加し、南中ソーランを踊っています。もちろん、この残競マラソンにも参加して、南中ソーランを披露したのですが、やはり一番の楽しみはスタート地帯でのパフォーマンスだったと思います。参加されたランナーと体感まで高揚し、神風のように勢いで南中ソーランへと送り出せるので、やりがいのある役割のように思います。地元に残競マラソン大会に参加することができました。



村高祭

私たちが民芸班は、村高祭の一日目と二日目のオープニングでソーランを披露しました。



村高祭は、毎年11月15日と16日の二日間、本校で開かれます。今年も、オープニングでソーランを披露しました。1日目は、オープニングでソーランを披露しました。2日目は、オープニングでソーランを披露しました。

村高祭2日目

村岡高校のイベントである村高祭のオープニングは、毎年私たち民芸班が演奏を披露し、スタート盛り上げます。今年は1日目が男子、2日目が女子で合かれて、それぞれ本道行土舞とソーランを披露しました。私が思う女子の演奏の虎の尾は、オケの横です。もちろん、踊りも女子だけです。女子だけの演奏が見られるのは村高祭のオープニングだけなので見る価値はとてもあると思います。今年は一統公開のなかったですが、来年も、見に来てほしいと思います！



村岡ダブルフルクトラフニング

役割分担

- ・音尺
- ・音物管理
- ・ポールダンス



練習は1日1回、練習場所は本校の体育館で行っています。練習は、音尺、音物管理、ポールダンス、それぞれ担当があります。チームとして練習しています。



発表は、みかた残競マラソン大会のオープニングで披露しました。発表は、みかた残競マラソン大会のオープニングで披露しました。発表は、みかた残競マラソン大会のオープニングで披露しました。



福祉祭り

私たちは、福祉祭りでソーラン節を踊りました。たくさんの方々にみてもらい、最後には大きな拍手をもらい踊ってよかったなとおもいました。



村岡芸能大会

4月15日に村岡体育館で村岡芸能大会が行われました。私たちが民芸班はオープニングでソーラン節を披露して地域の活性化に貢献しました。一年生は地域の行事で踊るの二日目で、素晴らしい経験でしたが、声も大きくなりすぎてしまいました。二年生は、一年生よりも人数が多かったので、一年生よりも練習して自分たちの演技を披露することができました。地域活性化の活動の交流もあり、地域活性化プロジェクトとしてこの経験を大切にしている私たちがこれからの村岡高校と地域との関わりがより深くなっていくことを願っています。



～村岡高校オープンハイスクール～

8月3日に行われたオープンハイスクールでは、参加してくれた中学生に演劇を披露しました。地域活性化プロジェクトの一環として地域の色々なイベントに参加しながら、地域活性化を1～3年生が協力して行っているこの活動の魅力を入学する際のお奨めの活動としてもらえるように精いっぱい頑張りました。そして、学年や部活動の壁がなく全員が楽しみながらこの活動に取り組んでいるという姿も伺えることのできるよう頑張りました。



かわそ祭

私たちが民芸班は、各隊で開催されるかわそ祭りに参加しました。去年は参加することができず12年生は初めての参加に当たりましたが、ソーラン節を披露しました。良いステージだったので観客との距離が近くとても緊張しました。しかし、小さい子供たちが一緒に踊ってくれたり嬉しかったり声と一緒に喜んでくれたりと、とても盛り上がりました。多く人が、一生懸命踊り最高のパフォーマンスができたと思います。来年も頑張りたいです。



ふるさと祭り

村岡ふるさと祭りでソーラン節を踊りました。たくさんの方々に私たちが、見ていただきありがとうございます。私たちは、見てくださる方に元気をお伝えしようと思って活動しているけど、活動を通して私たちが元気をお伝えできるといいと思います。



村岡芸術祭

8月15日、私たちが民芸班は村岡中学校で発表を行いました。これは、1年生は3年生まで初めて参加したイベントでした。練習や披露している方々のダンスや歌、地域の活性化の活動など、地域活性化プロジェクトとしてこのイベントを盛り上げました。小規模なイベントでしたが、その中で地域の活性化の活動、第一歩の一歩を踏み出したことを感じました。そして、今後の練習のイベントに参加し、頑張りたいと思います。



教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	民芸班 (紙漉きグループ)					単位数	1 単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必修修の別	選択	
1 仮説・ねらい	自分たちで紙漉きを学び、その技術を高めていくのみにとどまらず、紙漉きを通して地域内の人間をいかに巻き込んでいかに主眼をおき活動を展開する。 村岡に住んでいるからといってその地域の資源に関して十分理解している人は少ない。そのため、そのような地域の人をターゲットに、紙漉き体験を通じて地域の魅力をしってもらい、地域の魅力化の第一歩となるような効果を期待する。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			班員の紙漉き体験				
		班別活動②			里山meetsの内容討議				
	2学期	班別活動③			ステージ発表の討議				
		班別活動④			射添小5年生の児童との紙漉き体験				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① ・元地域おこし協力隊の本多さんと3年生の指導のもと、新2年生の紙漉き体験</p> <p>班別活動② ・里山meetsの内容討議 ・ワークショップで体験してもらう内容 ・イベントの告知方法</p> <p>班別活動③ ・ステージ発表の内容討議</p> <p>班別活動④ ・射添小学校5年生の児童との紙漉き体験</p>								
4 生徒感想	<p>・体験は人と人をつなぐということを学んだ。</p> <p>・小学生との紙漉き体験で、好奇心という新しい発見をした。</p> <p>・紙漉きなど人に教えるのは難しかった。特に小学生に対しては、難しい言葉を使わないように、わかりやすく教えるのは本当に難しかった。しかし、紙漉きが上手くいったときの小学生たちの喜んだ姿を見ると嬉しかったし、紙漉きの魅力が伝わったと感じた。</p> <p>・紙漉きを通じて、香美町の「関係人口」をいかに増やしていくかを学んだ。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.5	3.9	4.1	3.9	4.1	3.9	4.0	4.1
6 成果と課題	紙漉きを通じた「関係人口」を増やす試みとして昨年度は紙漉き体験と地元の民宿(すみのやゲストハウス)をセットにしたふるさと納税を企画したが、紙漉きのターゲットが納税者と一致しなかったことでこの試みは成功に至らなかった。その反省を踏まえ本年度は、地元の人をターゲットに紙漉き体験イベントである「里山meets」を八幡山公園で企画し、「和雲(わく)」という水に浮かべることの出来る和紙ライトを使ったインスタレーションを行った。このイベントを開催するにあたって、SNSを通じてイベントの告知をしたが、新規の人にはあまり効果がなかった。その原因として、SNSという媒体が高齢化の進む地域の現状にそぐわなかった、来てほしいターゲットが明確化されていなかったため、メッセージ性が弱かったなどの意見が出た。紙漉き体験をしてもらった方々の満足度は高いものとなっているので、今後は今年度の反省を踏まえ、告知の方法をより吟味していきたい。								

~活動目的~



和雲

- ・先輩からの引き継ぎ
- ・和雲×棚田イベント

→ 吾美町でイベントを開催することで地域活性化に



小学生とのコラボ授業

- ・小学生に紙漉きをしてもらおう

→ 次世代の若い手の育成
地元の魅力に気付いてもらう



ワークショップ

- ・地域内外の人に射添紙を知ってもらおう
- ・参加者との交流

→ 射添紙の魅力発信
関係人口を増やす

2019



2020
和雲作り



ポストカード作り



○射添小コラボ



○ワークショップin八幡山公園



射添紙
産地認定



教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	吹奏楽団					単位数	1単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必修の別	選択	
1 仮説・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を通して地域の方との交流を大切にする。 ・地域になくってはならない吹奏楽団を目指す。 ・演奏者も聞いている方も楽しめる演奏を目指す。 <p>目的を達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に楽しんでもらえるように日ごろから基礎練習や基礎トレーニングを徹底する。 ・聞き手（世代）のことを考えた選曲や、パフォーマンスを考える。 								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			基礎練習				
		班別活動②			合奏練習①				
	2学期	班別活動③			合奏練習②				
		班別活動④			合奏練習③				
	3学期	村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 新入生を迎えて、3学年そろっての基礎練習・基礎合奏を行った。</p> <p>班別活動② 新型コロナウイルスの感染拡大により、なかなか地域で演奏をする機会が得られなかったが、秋頃の演奏活動再開を想定して選曲、練習を行った。</p> <p>班別活動③ 全体での基礎練習・曲合奏を行った。</p> <p>班別活動④ 曲練習を行うと同時に、今年度のような特殊な状況の中でできる音楽活動について考えた。</p>								
4 生徒感想	<ul style="list-style-type: none"> ・今年はず定していた活動がほとんどができませんでした。そして、地域の方との交流や吹奏楽団としての練習があまり確保できませんでした。でも、吹奏楽を通して地域の事をさらに知る事ができました。 ・今年新型コロナウイルスの影響で外で演奏できなくて、学校行事だけの演奏になってしまったけど、みんなも楽しんでくれていたと思うし、自分自身も楽しく演奏ができたので良かった。 ・村校フォーラムで中学生に練習の成果を聞いてもらえたのでよかった。 ・多くの演奏が無くなってしまい、最後の1年としては寂しいものになってしまいました。でも、練習を重ねることによって得た成果は自分の成長につながったと思います。これからも活動を頑張ってもらいたいです。 ・コロナが収まってすぐに演奏が出来るように、日ごろから努力していきます。 								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.6	3.9	3.7	3.8	3.8	3.6	3.7	3.8
6 成果と課題	<p>今年、新型コロナウイルスの拡大により予定していた演奏の機会がほとんど無くなってしまった。演奏の機会が無くなった事で、練習の張り合いが無くなった面もあるが、演奏を聴いてもらう機会の大切さ、ありがたさを感じ、自分本位でない「聞き手の事を考えた演奏・聞き手が楽しめる演奏」ということを客観的に考える機会にはなった。次年度の活動に繋がりたいと考えている。</p> <p>村高祭、全但音楽連盟合同演奏会、村高フォーラムなどわずかながら演奏を聴いてもらえる機会もあり、演奏を楽しんでもらえた事でさらに鍛錬を重ねて、次年度の演奏に向けて頑張ろうという意欲を持たた。</p> <p>村高祭の演奏を配信で一般公開した事で、配信で演奏を楽しんでもらう等、今までに無かった新しい形の演奏会を考えることも必要かも知れない。</p>								

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	食文化班				単位数	1 単位	
対象・学年	1, 2, 3年生					必履修の別	選択		
1 仮説・ねらい	コロナ禍で流通が落ち込んだ「村岡米」などの地域食材を活用し、高校生の目線でレシピを提案し、情報発信することにより、地域経済に良い影響を及ぼし、地域活性化に繋げる。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			コンクール応募作品考案				
		班別活動②			コンクール応募作品試作(調理)				
	2学期	班別活動③			地元料理研究家木谷先生の料理教室				
		班別活動④			食材カルタ作り、活動のまとめ				
	3学期	村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
		班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① コンクール応募作品考案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全国高校生料理コンクール」に応募するため、班ごとに小麦粉と地元食材を利用したレシピを考案 <p>班別活動② コンクール応募作品試作(調理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに決めたレシピをもとに試作し、応募のための写真や書類も完成させた <p>班別活動③ 地元料理研究家の木谷先生による料理教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・但馬地域の食材を利用した調理実習～海の幸と山の幸～ ・木谷先生による調理実習 (ハタハタ、エビ、ジャガイモ、鮭等を使った料理) <p>班別活動④ 地元の食材カルタ作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の食材を子どもたちに伝えるため、手作りのカルタを作成した ・今までの活動のまとめ 								
4 生徒感想	<ul style="list-style-type: none"> ・木谷先生による実習が楽しく、また地元食材を知るきっかけになりとてもよかった。 ・地元食材を子どもたちに伝えるきっかけとしてカルタの作成は良かった。ただ、地元の子供たちとカルタを使って遊ぶ機会がなかったのは残念だった。今後は情報発信にカルタを使っていきたい。 ・普段調理しない魚を自ら調理することで、地元の食材の魅力と調理方法を学べた。 ・全国高校生料理コンクール応募への取り組みで、班ごとに協力して計画を立て試作品を作ることができた。 ・コロナ禍で回数が少なく、活動としてはあまり活発にできなかったが、できることを見つけて活動に繋げることができた。 ・地域の食材を使って料理＝地産地消できた。このことから、地域活性化に努めようと頑張れたが、発信につながるものが少なかった。 ・コンクールに出品するレシピ考案と試作調理の時、3年生の先輩方の前で緊張することもありましたがアドバイスや助言をもらえる良い時間でした。 ・活動を通して、食文化班の目的、地元の食材を研究したうえで商品開発に取り組むという目的の達成へ近づけたと思う。 								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コードイネート力	⑧自己表現力
		3.6	3.8	3.6	3.8	3.6	3.7	3.6	3.8
6 成果と課題	<p>コンクールへの応募により、みなと協力して小麦粉を使った独創的な作品を考案することができた。ただ、作ってからレシピを改善する機会を作るなど、もっと時間をかけるべきであった。食材カルタは地元の食材を幅広く知るきっかけになったが、保育所や地域のイベント等でカルタを使用する機会があれば地域密着につながり、子どもたちにも地域の魅力を伝えることができる。</p> <p>棚田班と協力し、村高の食ブランドを作るのもいい考えである。発信の仕方としては、YouTubeで広めていく。「村Tube」。食文化Tシャツを作り、販売の機会を着用する。</p> <p>単一年の活動ではなく、複数年にわたる取り組みを計画することにより、もっと広く深く地元の魅力を発見し、情報発信の方法や具体的な取り組みができると思う。</p>								

食文化班の活動

(目的)

私たち原田先生率いる村岡高校食文化班は地元の食材の研究や、地元の食材を使って「全国高校生料理コンクール」などに応募し、地元の食材と共に地域活性化に取り組む。

(今年の目標)

全国高校生料理コンクールに応募

- ①地元の食材を使って地域活性化に取り組む
- ②身近な食材、地元の食材を知る
- ③身近な地元の食材を用いたレシピを考案する



但馬地域の食材を利用した

調理実習



但馬地域の食材を利用した調理ということで講師に料理研究家の木谷恒子先生を招いて調理実習を行いました。

～海の幸と山の幸～

<メニュー>

- ・ハタハタ魚から揚げ
- ・もやしとエビの春巻き
- ・シーチキンコロッケ
- ・生鮭のフライ の4品を作りました。



今後とも、但馬地域の食材を活かしたメニューを高校生の視点から考えていこうと思います。また、地域とのつながりを大切にして活動していきたいと思います。

全国高校生料理コンクール！

～日清製粉グループ協賛～

今年は4つグループごとに異なった作品を作りあげました。作品については以下の写真の通りです。

皆さんはどう思いますか？
おいしそーでしょー……………。



ほんとーにすみません…。もー残ってないんですよー。

しかしながら、このような種類の料理を食すことになるのなら、デザートにアイスでも欲しくなるものです。まさに、「アイスを愛す」とはこのことだと考えさせられました。

すいません。洒落です。せっかつなので洒落の写真でも載せておきますね♡あっ！これは、シャーレでした。

本当にすみません……。



【活動の振り返り】

- 1:全国高校生料理コンクール
- 2:但馬地域の食材を利用した調理実習

3:但馬の食材かるた制作

【今後に向けて】

- 1:但馬の食材を知ってもらう
- 2:「地元食材を大切に」を意識する
- 3:全国高校生料理コンクールに積極的に応募する。

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	環境A班					単位数	1 単位
対象・学年	1, 2, 3年生						必履修の別	選択	
1 仮説・ねらい	<p>「棚田保全」「地域経済の活性化」「観光・集客」をキーワードとし、うへ山の棚田を拠点にお米の栽培から販売まで取り組む。</p> <p>① 棚田でお米を作ることが環境にどのような良い影響を与えるのか、実習を通して学ぶ。</p> <p>② 近年の課題である後継者不足について考察。棚田を保全していくためには若い力が必要なことから、棚田の現状をSNS等で発信することで知ってもらおう。また、高校生や若い人たちを中心に、棚田をより活性化させる。</p> <p>③ コミュニケーションや人とのつながりを通してやりがいを感じ、棚田の価値を多くの人と共有する。ポスター等を作成し、棚田をPRする。</p> <p>④ うへ山の棚田で育ったお米を道の駅等で販売することにより地域経済の活性化へとつなげ、さらに美味しいお米をこれからも作り続けることを目指す。</p>								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			講演会				
		班別活動②			棚田除草実習				
	2学期	班別活動③			棚田稲刈り実習				
		班別活動④			村高フォーラム準備				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 講演会 講師：小林 良齊 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「俺たちの武勇田」の構成と活動状況 ・棚田でお米を作ることのメリット、魅力 ・棚田が与える環境的影響 ・今後の課題 <p>班別活動② 棚田除草実習 講師：小林 良齊 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚田1面分の除草を実施 <p>班別活動③ 棚田稲刈り実習 講師：小林 良齊 氏（うへ山の棚田・俺たちの武勇田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚田半面分の稲刈りを実施 ・稲をある程度まとめて束にする ・束にした稲を稲架に掛け、天日乾燥させる 								
4 生徒感想	<p>・今年の活動は、新型コロナウイルスのため、去年までのような活動ができませんでした。だけど、自分たちなりに何ができたのかを考え、活動しました。一番楽しみにしていた田植えができなかったことは、とても残念でしたが、草取りをすることができました。三年目になると慣れてきて、まるでベテランかのように、スイスイと草取りをすることができました。最後の年に、ちゃんとした活動ができなかったのが一番の残念なところだけど、3年間棚田班をやってきて、自然の良さ・地域の良さ・お米の大切さを知れました。</p> <p>・今年の棚田は去年の反省を活かして、動物たちが入ってこないように、柵が取り付けられました。そのおかげで稲刈りの時も稲をたくさん収穫することができました。今年はコロナの影響でお米を販売することはできず、残念でしたが今年も棚田保全に向けて活動ができ良かったです。</p> <p>・日本の棚田は中国の棚田と違って、山の傾斜をうまく利用してお米が作られています。一方で中国の棚田は、面積は広いのですが、水の流れが悪いです。日本の棚田はきれいに水が流れていて、中国のお米よりおいしいと思います。棚田班に入って、2つの国の棚田文化の違いについて勉強になりました。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.6	3.6	3.3	3.4	3.6	3.6	3.4	3.6
6 成果と課題	<p>今年は新型コロナウイルスの影響により、田植え、棚田米の販売の活動が実施できなかった。しかし、そのような状況下でも、「自分達が何ができたのか」と生徒らが主体的に考えることができたことを評価したい。</p> <p>生徒たちは、棚田保全活動に関わる上で棚田へと赴くことで、棚田の価値を学び、身をもって体験することができた。それらの体験で、棚田の価値のみならず、仲間と協力しながら、問題解決にチームとして立ち向かう姿勢を育むことができたことも、成果としてあげられる。</p> <p>今後の課題として、棚田のPR活動を進めたい。また、棚田米の販売を今年度よりも進展のあるものにし、地域経済の活性化の一助となるようにしたい。今後の活動としては、SNSの活用方法等について議論し行動に移していきたい。</p>								

環境 A 班 棚田班

～棚田の活動～

活動目標

棚田保全を通して、よりおいしく、安全なお米を提供するとともに、棚田の価値と地域経済を向上させる。

本年度の活動内容

- ・武勇田の小林さんとの話し合い
- ・草取り
- ・稲刈り
- ・お米の販売



～棚田とは～

山の斜面や谷間の傾斜地に階段状に作られた水田のことをいう。一枚一枚の面積が小さく、傾斜地で労力がかかるため、過疎・高齢化にともなって、1970年代頃から減反政策の対象として耕作放棄され始め、今は40パーセント以上の棚田が消えていると言われている。

～武勇田とは～

うへ山の棚田保全を目的に立ち上がった地元の人たちのグループ。ボランティアを募集し、活発に活動を行っている。

僕たち棚田班は武勇田の方々と、うへ山の棚田の景観保全を目的として活動しています。

お米の販売

武勇田のお米をファームガーデンで販売する
売れたお米の利益を武勇田に還元する



私たちの提言

うへ山の棚田

- ・日本の棚田百選に選ばれているうへ山の景観を保全する
- ・活動の幅を広げるためのお金を集める

お米の販売企画

- ・武勇田のお米の販売
- ・ラベルの作成
- ・お米を提供していただくための交渉
- ・販売所との交渉



自分たちの活動を知ってもらう事

- ・村高フォーラムに向けた発表準備
- ・ポスターの作成



今、若者が少なく棚田を保全できる人が少なくなっている中で美しいうへ山をこれからも残していくためにはどうすればよいか武勇田の小林さんと話し合いました。

～話し合いの結果～

■今後の課題

- ・棚田保全
- ・継承者、後継者
- ・防災
- ・地域経済
- ・美しい景観、観光、集客
- ・食の安全



- ・より美味しく安全なお米をみんなに提供することで、地域経済を向上させる。
- ・コミュニケーション、人とのつながりを通して、うれしさ、やりがいを感じ、原動力とし、棚田の価値を多くの人と共有する。
- ・道の駅で販売したり、棚田での活動をネットに上げ、地域外の人達に知ってもらう。
- ・高校生や若い人たちがもっと棚田を活性化させる。

今年度の活動の様子

田植え ※中止



草取り

稲の周りがある草を取った
稲を踏まないように気をつけた
稲と似た草があるので気をつけた



稲刈り

カマで丁寧に刈った
稲を藁で束にして干した

1年間のまとめ

武勇田の小林さんと、うへ山の棚田について討論をした上で、自分たちの活動目標に沿った活動をした。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり田植えができないなどの支障があったが、草取り、稲刈り、お米の販売などの活動ができた。お米の販売では、武勇田のお米をファームガーデンで販売し、売れた分の利益を武勇田に還元する。

～来年度以降、私たちにできること～

- ・この活動を知ってもらうことで後継者が増える可能性がある。
- ・道の駅でお米を販売したり、インターネットなどで広報活動することで地域活性化をはかる。



今回の感想

今回の活動で、お米を作る大変さ、大切さを学びました。お米を作る体験は普段できない貴重な体験で、良い体験となりました。そしてこれからも、うへ山の棚田を大切に武勇田の方たちと協力し、守っていきたいです。

教科名	総合的な探究の時間 (協働の町づくり)	グループ名	環境B班	単位数	1 単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必修修の別	選択				
1 仮説・ねらい	森の健康診断(人工林の混み具合調査)が災害に強い森をつくる第一歩となり、地域の環境保全にもつなげていく取り組みをすすめる。また、森の健康診断をもとに伐採した間伐材を利用した木の駅プロジェクト等に取り組むことによって地域内に経済効果を生む。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			概要説明・講習会				
		班別活動②			木の駅プロジェクト概要説明・施設見学				
	2学期	班別活動③			森の健康診断実習				
		班別活動④			間伐材を活用した製品開発				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森の健康診断の調査方法の説明 ・講習会(尺蔵の使い) <p>班別活動② 木の駅プロジェクト 講師: 谷野 博 氏(香美町地域おこし協力隊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の駅プロジェクト概要説明 ・木質バイオマスセンター見学および実習 <p>班別活動③ 森の健康診断 講師: 永松 大 教授(鳥取大学農学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義及び測量体験/協力: 香美町農林水産課・北但西部森林組合 <p>班別活動④ 間伐材を活用した製品開発 講師: 谷野 博 氏(香美町地域おこし協力隊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とりくみ例の紹介 ・製品開発ワークショップ 								
4 生徒感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ等をおして今一度、気の使い道を考えられたのではないかなと思います。 ・一人では考えられなかった案もみんなで考えられたから、楽しいかつ、より深く考えて、まとめることができた。 ・バイオマスセンターの見学をおして、チップができるまでに数多くの工程があって、実際の作業や機械が動いている様子をみてわかりやすかったです。 ・グループ学習を通して発見したことは、みんなが意見を出し合って、意見を共有することは日常生活でも大切なことに気が付きました。私は意見を他人に言われたり、人前で話すことが苦手です。しかし、その意見が使われた時は、嬉しいと感じました。これからも積極的に意見が言えたらいいなと思いました。 ・ワークショップで出たたくさんの案は、香美町で少しでも地域活性化に貢献させてほしいと思いました。 ・総合的な学習を通して、森林のことやプロジェクトについて考え、想像力を豊にする活動ができたので、よかったです。 ・地域のことを知り、どのような活動で地域活性化に取り組んでいるかが、この活動で学べたので良かったです。 ・班員と話しながら答えのない問題の最善案を自分たちで見つけるのが、面白いと感じた。 								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.8	4.2	3.8	3.7	3.6	3.2	3.6	3.6
6 成果と課題	<p>今年度はコロナ禍で、本来の森の健康診断(人工林の混み具合調査)が思うように実施できなかったが、森の健康診断講義(永松先生)や木質バイオマスセンター見学・ワークショップを通して、森林の関する知見を深めることができた。この知見を活用して、来年度は森の健康診断を実施していきたい。</p>								

環境 B 班

森の健康診断

健康診断とは、スキヤビノキがある林に入って、林の中にある植物の種類・数、木の太さ・高さを測り、林の中の植物や木の混み具合を調べ、間伐をしなければいけないかを調べる活動です。

森の健康診断の目的

森林が豊かに見えても細い木や地面に草が生えていない

災害に弱い森林が多い

実際に森に入り災害に強いか調査

間伐する理由は

間伐の目的は、木が混みすぎないように植物などを減らすことで、より良い森林へと繋げることです。林全体への日光が届くようにして、木の育成を促すだけでなく、下草の生育も促して土砂災害などの災害を防ぎます。



活動内容

森の健康診断

村岡区相田と、高校の裏の林で、健康診断を行っています。

今年は例年の活動内容を報告します。

チェーンソー講習

例年は長板にあるバイオマスセンターで、講習を行っています。林業を営んでいる方に、チェーンソーの使い方を教わりながら実際に木を切ったりします。

木の伐採

講習の経験をもとに、相田で伐採を行います。

・幹が太く背の高い木を選びます。

・受け口・追い口を入れます。

(切る際は受け口に垂直に刃を入れることに注意する。)



木の搬入

木を倒してからは1メートル間隔に切りトラックへ運びます。

そこで切った木をバイオマスセンターに搬入します。



ワークショップ

今年はワークショップをしました。具体的な内容は、行き場のなくなった木の使い道を4グループに分かれて話し合いました。木製の家具、樹液の採取など、たくさんの案が出ました。

木の駅プロジェクト

木の駅プロジェクトとは、市民参加型で森林整備をする活動です。今、香美町では切り落とされた木がそのままになっていることがあります。そのような木をバイオマスセンターに集め、チップや薪にして自然エネルギーとして循環するというプロジェクトです。



バイオマスセンター

バイオマスセンターとは行先のない木材をチップに変える工場です。1年で7トン以上のチップを生産しています。設備は樹皮剥き機、木材破砕機、チップ選別機などがあります。



まとめ

バイオマスセンター見学

間伐材をチップに変える設備を見学した。樹皮剥皮機・木材破砕機・ハーグ破砕機・チップ選別機・搬送設備一式・研磨機の順番にチップが作られることを知った。チップ一つを作るだけでも、数多くの工程を得て間伐材がチップに変わっていることが分かった。



木の駅プロジェクト

手入れのされなくなった山の健康診断や、放置されている間伐材を搬出し支援する。同時に、間伐材の売買を地域通貨で支払うことで、地域経済の活性化を図る取り組みである。

振り返って

ワークショップをして出た案

・木の家具・木の食器(水筒・弁当)

・木の小物(アクセサリ) など

これらを生かし、香美町の地域活性化に貢献したい。



教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	地域福祉班 (地域福祉グループ)	単位数	1 単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必修の別	選択				
1 仮説・ねらい	<p>①子どもたちや高齢者とのふれあいの場を設け、自分たちの計画した遊びや活動を通して交流をする。</p> <p>②上記の交流を通して「世代を超えた交流の場」を作り、更には地域の人々の世代を超えた交流を盛んにし、地域の活性化につなげていく。</p> <p>その土台となるべく、射添小学校放課後子ども教室において小学生との交流を、高齢者施設の訪問を通して高齢者の方々との交流を行う。</p> <p>ただし、今年度は施設訪問をすることが困難であったため、「花の定期便」を計画し、施設訪問に替えた。</p>								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
	2学期	班別活動①			購入計画				
		班別活動②			花植え作業				
		班別活動③			花の配達				
	3学期	班別活動④			活動の振り返り				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① 購入計画書の作成と配達先の選定 (A, B, Cそれぞれのグループでの討議)</p> <ul style="list-style-type: none"> 購入計画書の作成一花の種類、腐葉土の量、プランターの数の決定 購入先との連絡調整 配達先の選定一昨年度まで訪問をさせていただいていた施設や、コロナ渦で日々尽力されている医療機関等を中心に9か所を選定 水やり当番表の作成 <p>※①と②の間に、各グループの代表者が購入先の量販店に花の苗、腐葉土、プランターを購入に出向いた。</p> <p>班別活動②</p> <ul style="list-style-type: none"> 花植え作業一各グループで役割を決めて、それぞれ10～12のプランターに花を植える作業を行った。 <p>※植え付け後は、当番が夏季休業中も含めて朝、夕2回の水やりを行った。</p> <p>班別活動③ 花の配達</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内9か所の事業所に各グループの代表者2名が配達を行った。(一部車利用) <p>班別活動④ 活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 班別活動①～③の総括 ア. 反省と次年度へ向けての改善点 イ. 活動を通して学んだこと ウ. 評価すべき点 								
4 生徒感想	<p>・今回の全体的な活動を振り返って、僕は、改めて地域とのつながりコミュニケーションの大切さについて学習することができた。コロナウィルスという、今年予期しなかった状態により、人と人の距離を避けることが多くなった。そんな中でも、日ごろの感謝を込めて、地域の方々に花を渡すなどそういった活動ができるということは、地域とのつながりがある成り立つものであり、交流する機会などが減ってしまったとしても、地域とのつながりはどこかでつながっていると感じた。また、その関係を作ることができるコミュニケーションの凄さに改めて素晴らしいものだと思う。班ごとの活動の中で、先輩たちの対応にコミュニケーション能力の力を改めて感じた。僕は、花の購入計画の際、花を購入しに行く班についていったが、先輩は、みんなの意見を取り入れて、情報をもとにしてお店の人と相談をしながら決めていた。自分の主張を大切に、相手の意見を取り入れながら判断をする姿がとてもすごいなと感じた。自分は正直、自分の主張を強く持つことのできる気持ちやコミュニケーション能力、そして、瞬時に対応することのできる判断力などを持っていない。だが、社会では、そういった能力が必然的に求められてくる。なので、来年の高校生最後の地域福祉班での自分の目標は「先輩たちの姿をまねてやってみる」である。完全に先輩のまねをするのではなく自分が思う方法をもとにして、足りない能力の要素をまねて自分なりの「先輩の姿」というのを目指していきたいと思う。そして、後ろにいる後輩たちにもそういった姿を託していけるよう頑張りたい。</p> <p>・「花の定期便」では花を育てることの難しさを学ぶことができた。当番制で水やりを回していたが、毎日本水をやり手入れすることを考えると、花を育てることは大変で、手間がかかることに気づいた。花を配達に行ったときは、地域の方々の笑顔を見ることができ、嬉しかった。新型コロナウイルスの影響で地域に活気がないように感じていたが、花があることで雰囲気明るくなったり、花を通して会話がはずんだりしていて、やりがいを感じた。私が配達した事業所では、「来年もお願いします。」と言っていた。昨年末までは老人ホームや介護施設に行って交流をしていたため、高齢者との交流しか考えられていなかったが、視野を広げて地域全体を見て活動ができ、地域活性化につながる活動ができたと思う。3年間の活動で多くの施設に訪問に行き、いろいろな年代の方と交流することができた。直接感謝や楽しかったという声を聞くことができる活動にとってもやりがいを感じた。これからも地域の方々との交流やつながりを大切にしていきたい。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		3.7	3.8	3.1	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4
6 成果と課題	<p>本来なら福祉施設を訪問して、実際に高齢者の方々と触れ合う活動を行うはずであったが、今年度はコロナ渦で活動が制約され、活動内容を大きく変更することを余儀なくされた。様々な意見が出たが、継続して全員が活動にかかわることができることから、「花の定期便」を行うことに決め、活動をスタートさせた。花を育てることが初めてという生徒がほとんどという中で、慣れないことに戸惑う場面も多く、思うように計画は進まなかった。特に、プランターを運動場の傍に並べていたため、鹿に花を食べられてしまう被害を経験した際には、生徒たちはかなり落胆していたが、植えなおしを実施し、何とか配達する日までに花を咲かせることができた。ただ単に花を育てて届けるという活動で終わるのではなく、試行錯誤を重ねながら、自然との共生、共存、仲間との協力や調和といったことを学ぶ機会となった。</p> <p>次年度は定期便を継続しながら、地域の公民館や公園などでイベントを企画することも視野に入れて活動の幅を広げ、高校生を軸とした世代を超えた交流の実現を目指したい。</p>								

地域福祉班

①活動目的

世代を超えた交流の場を作る。

3年間の地域調査の結果、村岡は世代を超えた交流が少ないことが分かった。

⇒高校生が地域とのつなぎ役になる

花の定期便

②目的

- ・花を育てて、日頃お世話になっている地域の方々に届ける。
- ・花を通して、その後の交流につなげる。
- ・花を届けることで地域活性化につなげる。



③取り組んだこと

事業所に許可を取る

購入計画

コメリに連絡し、買い出しに行く

花を植えた

水やり当番を決め、水やりをした

事業所へ花を届ける



届け先

- ・こぶし園 マロニエ
- ・全但バス営業所 やまざと
- ・宝樹保育園 村岡病院
- ・村瀬医院 村岡地域局
- ・香美町社会福祉協議会村岡支社

④良かった点

- ・自分たちが準備してきた遊びで子供たちを楽しませることができた。
- ・ルール説明を分かりやすくした。

⑤反省点

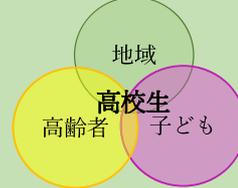
- ・子どもたちに説明を聞いてもらうときに自分たちの力で静かにさせることができなかった。
- ・久しぶりの射添っこでスムーズに進められなかった。



⑥次の活動に向けて

- ・子どもたちが普段しないような日本の昔の遊びや、今人気のある遊びを調べ、子供でも遊べるようにルールを工夫したい。
- ・子どもたちを静かにさせる方法を考える。
- ・きちんと指示が出せるよう事前に打ち合わせをしっかりとしておく。

⑦全体のまとめ



これらの活動を通して子供と高校生、高齢者と高校生の交流ができました。しかし子供と高齢者という世代を超えた交流が実現できていないのでこれからの活動でこの二つの世代の交流をはかっていきたいです。

世代を超えた交流を増やすという名目で活動に取り組んだ

～射添放課後子ども教室～

①経緯

- ・子どもとの接し方を学ぶ。
- ・子どもとの交流の場を増やすため。



②活動内容

- ・ポッチャ
- ・鬼ごっこ
- ・ジャンボかる



ポッチャ

2チームに分かれて、6個ずつのボールを使用

先行側が中心となる白ボール（ジャックボール）を投げて、続けて1回目の投球を行う

後攻側が1回目の投球を行う

以降、ジャックボールからより遠い位置に

ボールを投げた側の選手がその次の投球を行う



③良かった点

- ・地域の人に喜んでもらった。
- ・村岡の町に華やかさを加えられた。



④改善点

- ・鳥獣被害にあったのでネット等をかけたり、苗を植える時期を考えたりする。
- ・水やり当番の連絡をきちんとする。
- ・花を枯らしてしまったので天気を見ながらおく場所を考える。



⑤感想

花の定期便を初めて行い地域との交流がはかれた。生徒同士連携をとり、一人ひとり気を使っていればもっと綺麗な花を育てられたと思う。人みな使命ありを胸に地域への福祉活動に取り組んでいきたいと思う。

教科名	総合的な探究の時間 (協働のまちづくり)	グループ名	地域福祉班 (集落調査グループ)	単位数	1 単位				
対象・学年	1, 2, 3年生			必修修の別	選択				
1 仮説・ねらい	従来は、集落政策や地域の方へのインタビューを通してその地域の魅力を高校生の目線で発見し、その魅力を集めたガイドブックを作成することで「より多くの人に香美町の存在、そしてその魅力を知ってもらう」ことをねらいとし活動を行ってきた。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響によりそのような集落調査の実施が不可能となった。そのため、魅力を発見する視点を「地域」から「人」に移し、特に小代の若者に焦点を当て、「ここでしかできない、ここからこそできることがある」というその熱意に触れられるガイドブックを作成することで「人の紡ぎ出す地域の魅力」を伝えることを目的とし活動した。								
	地域を育てる学力 に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎
2 年間計画	学 期	と り く み			内 容				
	1学期	オリエンテーション			概要説明・班編成				
		班別討議			仮説・計画立案				
		班別活動①			インタビュー調査の実施・改善点の協議				
		班別活動②			インタビュー調査の実施・改善点の協議				
	2学期	班別活動③			ガイドブック原稿の作成				
		班別活動④			ガイドブック原稿の作成				
		村高フォーラム			ステージ発表・ポスター発表				
	3学期	班別討議			検証・改善				
		活動報告書作成			個人レポート作成・活動報告書作成				
		総合的な探究の時間発表会			ステージ発表				
3 実施内容	<p>班別活動① インタビューの実施・改善点の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー調査① (対象者: 田尻茜さん) 6/26 ・インタビュー調査を実施しての振り返り 改善点の共有 <p>班別活動② インタビューの実施・改善点の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー調査② (対象者: 西村太一さん 長瀬優也さん) 7/10 ・インタビュー調査を実施しての振り返り 改善点の共有 ・活動の目的や方針を確認 (①活動紹介小代で活動する理由 ②小代の魅力 ③活動の展望 ④小代をどうしていきたいか) <p>班別活動③ ガイドブック原稿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー結果よりガイドブック掲載文章を作成 ・書き方の統一、内容の精査 <p>班別活動④ ガイドブック原稿の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック原稿のレイアウト 								
4 生徒感想	<p>私たちが今回のインタビューを通して感じたことは、「人の温かさ」が地域の魅力を作っている大きな要因であるということだ。また、そのような温かい人が大勢いる、「この小代という地が誇り」と思っている方も多くいることにも気づくことができた。さらに、「最近はどうだ？」など声をかけてくれる地域の方がいたり、移住してきて起業のためにクラウドファンディングをしていると周囲の住民が知れば、直接お金を持ってきてくれたというようなエピソードもあり、小代で活動していて、周りの方から応援されていると感じている方も多く見受けられた。小代で働く若者は一人だけで活動しているのではなく、地域住民に支えられて活動ができていたのだと感じ、このような優しさを感じて活動してきたからこそ小代を誇りに思っているのだろうと推測できる。</p> <p>また、集落調査班の活動を通して相手の発言の意図を適切に汲み取り、さらに深めていくための力が身についたと実感している。インタビューでは流れが途切れないようにしなければいけない。しかし、初めころは会話の間が大きくあいてしまうことが多く質問を考えるのに時間がかかってしまっていた。だが、インタビューを重ねていくうちにだんだんと慣れてきて会話の中で疑問に思うことが多くなり、考えなくても質問ができるようになった。それは、インタビューが伝えたいことを聞き取れるようになったからこそできるようになったことだと考える。また、会話を止めないということでは、先のことを見据えて考えることができるようになった。話を聞きながらも「次はどんな質問をしようか」という流れを考えて本当に聞きたいことが聞けるように話を組み立てることが可能になったと自負している。</p> <p>今年度の集落調査班の活動は、目標を果たすための良いガイドブックを作成できた。という成果物としての側面はもちろん、「我々自身の小代への関心や興味も高まった」という点で大いに充実していたと言える。小代の若者の熱意に触れ、小代にはこんなにたくさん面白い情報を持っている人がいることが分かり、人だけでなく小代の地域全体をもっと知り、どんどん発信していけるような方法を考えていきたいと考えるようになった。</p>								
5 評価	生徒評価 (5点満点)	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション 能力	④新たな価値観を 創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力
		4.4	4.0	4.1	3.9	4.5	3.9	4.0	4.3
6 成果と課題	<p>新型コロナウイルスの流行により従来通りの動きができない中でも、「今何をすべきか」「何ができるのか」と熟考し、またそのうえで「であるならば、どのような方法を取るべきか」という点において確固たる結論を導くことができていたことを第一に評価づけたい。実際のインタビューではポイントとなる答えに至るためにどのような発問を行うのが良いのかについて頭を悩ませる場面は見受けられたものの、活動を経るに従って洗練されていった。また、「より良く魅力を伝えることのできるガイドブックとは何か?」ということを念頭に置き活動に取り組むことで、柔軟な発想から様々な趣向を凝らすことのできる力も培われたように感じる。</p> <p>課題としては、やはり成果物としての「ガイドブック作り」だけを目標に掲げる生徒が見受けられたことである。この学習活動を自ら省み、その中でどのような力が身についたのか見出し、そしてそれを活用することで次に繋げていくことのできる生徒、言うなればその矜持を持ち、歩を進めていくことのできる生徒をいかに育てるか、について我々指導する側も枠組みや方法の再検討を行う必要がある。振り返りを十分に行わせることで、自ら考え、上述したような自己分析を行うことができる生徒達であるため、今後に向けさらにより良い方法論を模索していきたい。</p>								

集落魅力発信プロジェクト ～小代区の若者の魅力発見～

1. 研究・活動の目的・動機

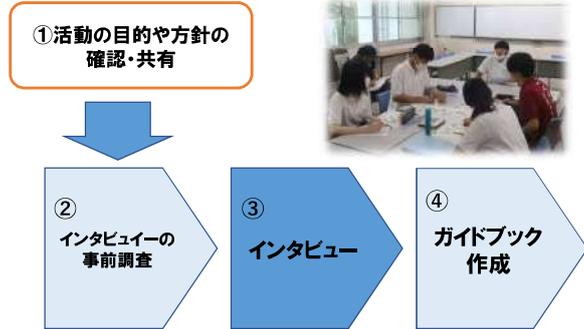
兵庫県立村岡高等学校
地域福祉班 集落調査グループ

高校生の感性と視点で、小代区内でがんばっている若者にスポットを当て、聞き取り調査を実施しながら、若者の魅力を発見・発信するガイドブックを作成し、小代区の魅力を発信する。（今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から集落調査方法を変更しました。）



2. 研究・活動の方法

集落魅力発信プロジェクト | 全体像



ガイドブックに必ずおさめたい二つの項目

1. インタビュイーが思う小代の魅力
2. 自身の活動が小代にどのような影響をあたえているのか

人の温かさ、住みやすい空気感など

小代に訪れるきっかけづくりなど



③ガイドブック作成

～原稿作成～

- ・活動紹介
- ・なぜ小代で活動するのか？小代の魅力とは？
- ・活動の今後の展望、小代をどうしていきたいか？

以上の三つの項目に分けて原稿を作成



現在ガイドブック作成中です！

①活動の目的や方針の確認・共有

誰に向けて魅力を発信するのか

インタビューで何を聞き出すのか

など...

田舎への移住定住を考えている人

活動内容や小代の魅力など



②インタビューの事前調査

- ・出身地
- ・職業
- ・小代でどのような活動をしているのかなど



事前調査で分からなかったこと、疑問に思ったことを挙げる

インタビューでの質問項目を明確にする！

③インタビュー



ガイドブックに必ずおさめたい二つの項目をおさえながら、事前調査で出た疑問をもとに掘り下げたいことを約1時間にとりインタビューしました。

小代地域局に集まっていたいただきインタビューを行いました！

3. 研究・活動の成果・概要

～集落魅力発信プロジェクトを通してわかったこと、感じたこと～



小代の一番の魅力は「人の温かさ」と共通して答える方が多い！

深い地元愛が現在の活動に繋がっているのではないかな？

魅力を再認識・再発見することで自信と誇りを取り戻す！

4. 今後の展望

ガイドブック完成

田舎への移住定住を考えている人に手に取ってもらい小代に興味を持ち、訪れてもらう

移住定住

5. まとめ

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集落には入らず小代区内で頑張っている若者にスポットを当て聞き取り調査をもとに集落の魅力を発信するガイドブックを作成することにしました。例年とは大きく調査方法が異なりますが、若者が行っている活動や小代に対する思いから集落の魅力が見えてくるのがわかりました。このガイドブックがありきたりなものになってしまわないように、自分たちの視点をしっかりと持ちながら今後はガイドブックの作成に取り組んでいきたいと思います。



教科名	自己表現		科目名	スピーチ				単位数	2単位	
対象・学年	3年13名						必修の別	選択		
1 仮説・ねらい	<p>①さまざまな表現方法を実践的に習得し、自分の意見を正確に表現出来るプレゼンテーション能力などの資質や能力を育てる。</p> <p>②高校生が生涯をととして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えると共に、自分の言葉で表現できるようにする。</p> <p>③Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。</p>									
	地域を育てる学力に必要な能力	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力	
	—	—	◎	—	◎	◎	—	◎		
2 年間計画	【スピーチ1単位】					【夢ゼミ1単位】				
	学 期	と り く み	内 容			と り く み	内 容			
	1学期	(1) スピーチ	発声・スピーチ			(1) 私の夢	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(2) 自己紹介	自己紹介文作成・スピーチ			(2) 動機・実現計画・将来展望	原稿作成・グループ発表・全体発表			
		(3) 面接練習	面接カード作成・模擬面接			(3) 未来へのステップを具体化	原稿作成・グループ発表・全体発表			
	2学期	(4) スピーチ	学校祭から学んだこと等			(4) 仕事以外の私の夢	原稿作成・全体発表			
(5) ディベート		概要説明・実践			(5) 将来設計	原稿作成・全体発表				
(6) プレ意見発表		原稿準備・発表			(6) 私の未来設計	原稿作成・全体発表				
3学期	(7) 意見発表	原稿準備・発表								
3 実施内容	【スピーチ1単位】（特別非常勤講師：毛戸公彦）					【夢ゼミ1単位】（特別非常勤講師：岡 伸二郎）				
	1 学期	(1) スピーチ				1 学期	(1) 私の夢			
		①自己紹介（1分）[オンライン授業] ②自宅までの道案内(2分) ③私のおすすめの○○○(3分) (2) 自己紹介（PR）をつくろう ①自己紹介（PR）を作成 ②他者からみた自分 ③自己紹介スピーチ (3) 面接練習 ①面接カード作成 ②面接練習					①原稿作成[臨時休校中の課題] ②全体発表[オンライン授業] (2) 動機・実現計画・将来展望の明確化 ①原稿作成 ②グループ発表 ③全体発表 (3) 未来へのステップを具体化する(10段階) ①原稿作成 ②グループ発表 ③全体発表			
	2 学期	(4) スピーチ				2 学期	(4) 動機・実現計画・将来展望の再確認			
①村高祭から学んだこと (5) ディベート ①原子力発電は必要か。 ②学校統廃合は必要か。 (6) 意見発表 ①プレ意見発表準備 ②プレ意見発表（2分） テーマ：私の関心事（時事問題） ③意見発表準備 ④意見発表原稿作成				①グループ発表（ワールドカフェ方式） ②全体発表 (5) 仕事以外の私の夢 ①原稿作成 ②全体発表 (6) 将来設計（年代別） ①原稿作成 ②全体発表 (7) 私の未来設計 ①原稿作成 ②作文提出						
3 学期	⑤意見発表（5分以上） テーマ：①私の関心事（時事問題） ②高校の部活動について ③環境問題（生態系も含む） (7) 自己評価カード記入									
4 生徒感想	<p>・人前で話すことが多く、最初はとても緊張しました。しかし回数を重ねていくうちに慣れていきました。自分の意見はどうしたらうまく伝わるのかを考え、それを伝えることが楽しくなりました。</p> <p>・人に伝えることや深く考えること等、自分に足りなかった力が身についたと思います。将来のことをぼんやりとしか考えいみせんでしたが、授業を通してしっかり考えることや自分を見つめなおすことができました。</p> <p>・話すことが苦手だったが、今はそうは思わなくなった。たくさんの経験を積むことができたので、自分に力がついたのだと思う。この授業でやったことを今後に活かしたい。</p>									
	生徒評価（5点満点）	①課題発見能力	②課題解決能力	③プレゼンテーション能力	④新たな価値観を創造する能力	⑤コミュニケーション能力	⑥議論する能力	⑦コーディネート力	⑧自己表現力	
	—	—	3.9	—	3.7	4.0	—	3.9		
6 成果と課題	<p>・コロナ禍でスピーチの授業はたいへん難しく、当初行う予定だった発声練習や姿勢・視線等の基礎トレーニングができなかったが、リモート授業やリモート面接練習等の新しい試みをする事ができ、これから予想される「withコロナ」の時代に対応できる授業形態となった。</p> <p>・自己表現（スピーチ）は経験を積み、それ相応の成果は上がるが、「話し上手は聞き上手」と言われるように、議論する力やコミュニケーション能力をさらに高めていくことが重要である。</p> <p>・社会の閉塞状況の中で将来のことを真剣に考える傾向が薄らがる傾向が見られるが、キャリアプランニングをどう組み立てさせ、実現するような具体的な計画を立てさせていくことが今後の課題である。</p>									

3 研究開発の内容

(2) 成果の普及・広報

- ・村高フォーラム、総合的な探究の時間
- ・成果物
- ・新聞掲載
- ・生徒の受賞・全国規模の大会
- ・他校フォーラム等参加
- ・地域みらい留学

3 研究開発の内容

(2)成果の普及・広報

村高フォーラム 2020

【期 日】 令和2年10月10日（土）

《午前》 総合的な探究の時間・地域探求 発表会
オープン・ハイスクール

《午後》 村高フォーラム

【場 所】 兵庫県立村岡高等学校体育館（香美町村岡区村岡 2931 番地）

【主 催】 村岡高等学校・村岡高等学校PTA・村岡高等学校同窓会（明倫会）

【共 催】 鳥取大学地域学部

【後 援】 香美町・香美町教育委員会

【テーマ】 「地域づくり×人づくり」～若者が地域を創る～

【趣 旨】 日本全体で高齢化と人口減少が進み、全国各地で具体的な対策が検討され始めている。特に過疎地においては「地域」と「学校」の存続が危ぶまれる状況があり、自分が住む地域で活躍し、地域を創っていく若い担い手を育てていくことが急務となっている。このような問題意識を基に、地域をはじめ関係する皆さんと意見交換を行いながら地域と協働する学校づくりを模索する。

【プログラム】

総合的な探究の時間・地域探求発表会 (10:00~12:30) 司会 【生徒会】

- ①オープニング：民謡集団 蘇武
- ②総合的な探究の時間発表（環境A、B班、食文化班、地域福祉班、集落調査班、紙漉き班）
- ③地域探求・地域学入門発表（地域学入門、地域スポーツⅠ、地域スポーツⅡ、地探Ⅰ、地探Ⅱ）
- ④ポスターセッション（体育館パネル展示見学）
- ⑤全体会（各代表者による感想発表会）
- ⑥フィナーレ：吹奏楽演奏



オープニング（蘇武）



発表（集落調査班）



発表（地域学入門）



発表（地スポⅡ）



ポスターセッション



実演・体験（紙漉き）



感想発表



フィナーレ（吹奏楽）

- 第1部 開会 総合司会：【西崎 彩】[村岡高校総務部長]
第2部 学校概況説明 村岡高校の現状と課題
【大垣喜代和】[兵庫県立村岡高等学校長]
- 第3部 基調報告 「地域を活用したふるさと教育教材開発の試み」
報告者 【武田信吾】[鳥取大学地域学部人間形成コース准教授]
司会 【小泉元宏】[立教大学社会学部現代文化学科准教授]
コメンテーター 【山根俊喜】[鳥取大学地域学部長]
- 第4部 討論会「地域と学校／『教育のまち』を創る」
司会進行：【小泉元宏】[立教大学社会学部現代文化学科准教授]
コーディネーター：【筒井一伸】[鳥取大学地域学部地域創造コース教授]
基調報告者：【武田信吾】[鳥取大学地域学部人間形成コース准教授]
助言者：【山根俊喜】[鳥取大学地域学部教授/地域学部長]
主催者：【大垣喜代和】[村岡高校校長]

《パネリスト》

- (1) 【水垣清和】[香美町企画課長/村岡区]
- (2) 【清水幸信】[香美町教育委員会教育総務課長/香住区]
- (3) 【中村秀男】[香美町立村岡小学校長/村岡高校OB/小代区]
- (4) 【房安晋也】[教育コーディネーター：香美町地域おこし協力隊]
- (5) 【西田将馬】[地域創造類型2期生/香美町立射添小学校教諭/村岡区]
- (6) 【上田遥菜】[地域創造系3年/教員志望/小代区]
- (7) 【福井若菜】[地域創造系3年/教員志望/村岡区]

- 第5部 閉会 挨拶 【西村芳和】[明倫会（同窓会）会長]



開会



基調報告



基調報告



討論会



討論会



討論会

「総合的な探究の時間」発表会(校内ワイド)

- 日 時 令和3年3月9日(火)
2, 3校時(9:40~11:20)
- 場 所 発表者: オンライン室(管理棟2階)
視聴者: 生徒/各HR教室
文科省事業運営指導委員・コンソーシアム/会議室(管理棟1階)
- 時 程
1. 開会 9:40
 2. 学校長あいさつ
 3. 生徒発表・質疑応答
 - ①民芸班 ②紙漉き班 ③環境A班[棚田] ④環境B班[森健] ⑤吹奏楽班
 - ⑥食文化班 ⑦地域福祉班 ⑧集落調査班
 4. 講評[総合的な探究の時間に関して]
 - ①運営指導委員会 ②その他
 5. 全体講評[総合的な探究の時間の課題と展望]
石山雄貴氏(鳥取大学地域学部人間形成コース 講師)
 6. 閉会 11:20



成果物



香美町ふるさとものしり博士ガイドブック vol.2



香美町人物図鑑「かみ☆あう」vol.2



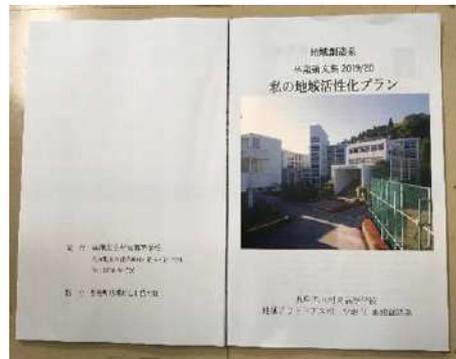
香美町ふるさと教育ゲーム「ものしりかるた」



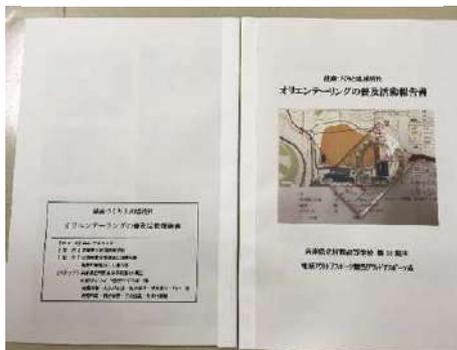
香美町ふるさと教育ゲーム「鮎の人生が-ム」



香美町ふるさと教育ゲーム「ヴィレ盤」



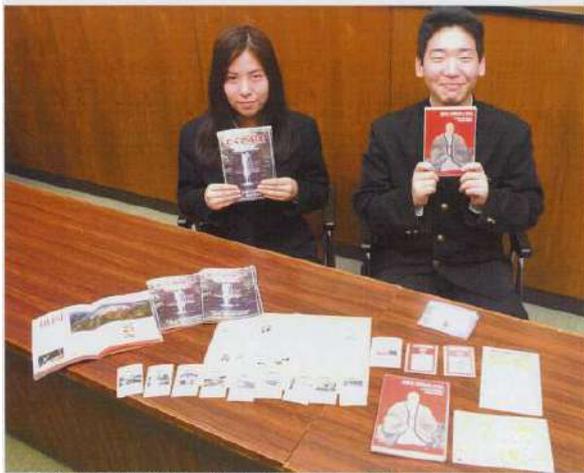
卒業論文「私の地域活性化プラン」



オリエンテーリング普及活動報告書



元気体操～南中ソーラン編～（DVD）



完成した香美町集落ガイドブック「むらの風景」とカードゲーム「目指せ！村岡ものしり博士」を紹介する卒業生ら＝香美町村岡区の村岡高

遊べることが楽しめる。村岡城下町を巡るでは、地域の人が答えるヒントを聞くことで交流を深めてもらう狙いがある。村岡今昔物語は、「御殿山に村岡高が建てられた年」「村岡大橋が木造で建てられた年」といった出来事を、グループで話し合いながら解答する。まち歩きで得た情報を活用することが、攻略の鍵になる。ガイドブック作成に携わった卒業生の中田壽さん(18)は「現地の人が知らないことがたくさん学べた。地域の人の当たり前が、そのまの魅力だと思う。ガイドブックを使って自分たちでも発信してほしい」と語った。ゲーム制作に取り組んだ卒業生の鉄屋隆さん(18)は「村岡で育ってきたが、知らないことがたくさんあった。都会の人だけでなく、住民の方にも楽しんでもらえるようにと意図を見せた。

村岡高(香美町村岡区)の地域アウトドアスポーツ類型地域創造系の生徒たちが、集落を直接取材した香美町集落ガイドブック「むらの風景」の第3弾と、村岡の歴史や文化をクイズで学べるカードゲーム「目指せ！村岡ものしり博士」を完成させた。カードゲーム制作は同校初めての試み。どちらも地域の魅力を高校生視点でまとめ上げた力作に仕上がっている。(黒坂友哉)

村岡カードゲーム初制作 集落ガイドブック第3弾

村岡高生が力作

ガイドブックは、集落協力発信プロジェクトの授業で1年間かけて作成。第1、2弾は町内の小規模集落に焦点を当てたが、今回は新しい地域「ミニシティ」を模範とする射添地区を対象に、16集落を取り上げた。生徒らは、鳥取大地域学部の筒井一伸教授と鳥取大地域学部の筒井一伸教授と共同で、現地調査や県外高校生による発表を経て、100個完成させた。

内容は、かつての建造物を実際に歩いてカードに書かれたクイズに答える「村岡城下町を巡る」と、村岡の歴史的な出来事を年代順に並べ替える「村岡今昔物語」に分かれている。複数人で二つ続けて完成させた。

村岡の魅力楽しもう

日本海新聞 3月31日

オンライン授業スタート



ビデオ会議アプリ「ズーム」を利用した授業を進める教諭ら＝いずれも村岡高

村岡高、アプリで対話形式

新型コロナウイルス感染拡大で臨時休校が続く村岡高校(香美町村岡区村岡)で14日、ビデオ会議アプリ「ズーム」を利用したオンライン授業が始まった。生徒相談室をスタジオ代わりに、地域アウトドアスポーツ類型地域創造系の担当教諭がカメラの映像を通して対話形式で進行。3年生12人がそれぞれの自宅でプレゼンテーションなどに取り組んだ。(金海隆生)

同校は4月13日の指導も可能な一般教科では、登校日を最後に休校中、全校生徒が同じ校のホームページや科で取り入れることになった。

この日は、地域課題の解決を培う授業「地域探

生徒ら自宅から発表、評価

井口陸嗣さん(17)は「教室とは違い、他の生徒の反応や評価が映像と文字では分かりにくかった」と戸惑っていた。同校では今後、同様の教科を対象にオンライン授業を進める方針。今井典夫教諭(59)は「生徒同士の対話を図ることに課題はあるが、双方の授業が可能な環境を少しでも整えたい」と話していた。



ズームの画面上で発表を評価し合う生徒たち

神戸新聞 5月15日

都市との差別化を

村岡高で地域探求講演会
生徒が町長に提言

地域の発展を考える「地域探求講演会」が29日、香美町村岡区の村岡高で開かれた。生徒たちは同町の浜上勇人町長へ新型コロナウイルスや少子高齢化、人口減少の対策を提言した。講演会は同校の授業「地域探求」の一環で、地域の代表者が現状と課題を講演し、生徒が地域と共に歩む学校づくりを探ることが狙い。地域創造系の1〜3年生ら44人が参加した。



新型コロナウイルスから観光と産業が立ち直る方法を討論する生徒たち=29日、香美町村岡区の村岡高

講演後、生徒たちは3人ずつに分かれ「コロナから観光と産業が立ち直る方法」「少子高齢化と人口減少に打ち勝つ手だて」について討論。班で意見をまとめ「コロナ収束後に来てもらえるような動画を配信する」「空き家や空き地をふるさと教育や山村留学に役立てる」などと浜上町長に提案した。

3年生の西谷奈純さん(17)は「都会と同じことをしていたら負けてしまう。いかに都市と差別化するか今後のまちづくりの重要なポイントになると学べた」と語った。

(黒阪友哉)

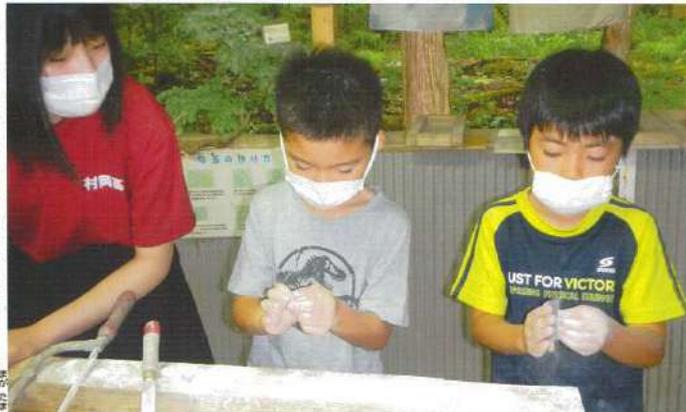
日本海新聞 7月30日

1年生も頑張って

ふるさと塾 児童が勾玉作り

小代・古代
体験の森

児童が自然に親しみながら古里について学ぶ「ふるさとおもしろ塾」が香美町小代区広井の古代体験の森



高校生の指導を受けながら、勾玉作りに挑戦する児童ら。香美町小代区広井(村岡区中央公民館提供)

で開かれた。参加者は勾玉作りや紙芝居を楽しんだ。地域住民と交流を深め、地元の良さを知ってもらおうと村岡区中央公民館が企

画。村岡、小代両区の小学1〜6年16人が参加し、同施設の井上克巳施設長や村岡高の生徒らが指導に当たった。

勾玉は古代人がお守りとして身に付けていた装身具。児童らは材料の石に下書きし、糸のこぎりで切り出して磨き、星やハートなど好きな形に仕上げた。

井上施設長が但馬牛についての紙芝居を披露。約60年前、同区貫田の田尻松蔵が育てた名牛「田尻号」が、兵庫県に買い取られて多くの子牛を産み、現代の99.9%の黒毛和牛の基になったエピソードを紹介した。

井上施設長は「1年生も頑張って勾玉作りに挑戦してくれてうれしかった」と笑顔を見せた。

日本海新聞 □月□日

マスク、必要な人に

村岡高の寄付募る「ポスト」作製



マスクポスト設置の協力を依頼した村岡高ボランティアサークルの生徒ら15日、香美町小代区大谷のJAたじま美方支店（撮）

香美町村岡区の村岡高のボランティアサークルは、同町社会福祉協議会の村岡支所と手を組み、新型コロナウイルス感染症拡大に備えてマスクの提供を募る「マスクポスト」を作製した。生徒たちは「まちの役に立ちたい人とマスクを必要とする人の懸け橋になり、つなげていきたい」と話している。

7月には同サークルの生徒が村岡区の小、中、高、保育園計6カ所を、8月5日には小代区のJAたじま美方支店やヘアサロン「HANA」、村岡区の出石特別支援学校みかた校を訪れ、趣旨説明を行ってマスクポストを設置した。

このほか同町社会福祉協議会は本所や各支所、町役場、公民館など町内約30カ所にマスクポストを設置している。布、使い捨て、手作りマスクを受け付けているが、衛生面を考慮し未使用・未開封に限る。

設置期間は8月末まで。寄付されたマスクは同町社会福祉協議会が保管する。配布先は8月下旬に同サークルの生徒が提案し、同町社会福祉協議会との話し合いで決まるといふ。

日本海新聞 □月 19日

寄付のマスク手渡し

村岡高ボランティアサークル 地元の福祉施設利用者に



香美町村岡区村岡の村岡高のボランティアサークルは、互いにマスクを見せ合って、高のボランティアサークルのメンバーが15日、近くの村岡老人福祉センターを訪れ、マスクポストに寄付された手作りマスク20枚を施設の利用者に手渡した。マスクを受け取った利用者（同区村岡）と協力してマスクの提供を募るマスクポストをめぐって、同町社会福祉協議会村岡支所（同区村岡）と協力してマスクを受け取った岡田美智子さん（87）は「着け心地が良いマスクなので、さっそく使わせてもらおう。心がこもった手紙もとてもうれしい」と喜んでいました。同サークルの西谷奈純さん（17）は「自分たちで集めたマスクを直接渡すことができてうれしかった。マスクがほしいがこもったカードを渡すことで、地域を元気にしていきたい」と笑顔で語った。

村岡高ボランティアサークルのメンバーが15日、香美町小代区大谷のJAたじま美方支店を訪れ、マスクポストに寄付された手作りマスク20枚を施設の利用者に手渡した。マスクを受け取った利用者（同区村岡）と協力してマスクの提供を募るマスクポストをめぐって、同町社会福祉協議会村岡支所（同区村岡）と協力してマスクを受け取った岡田美智子さん（87）は「着け心地が良いマスクなので、さっそく使わせてもらおう。心がこもった手紙もとてもうれしい」と喜んでいました。同サークルの西谷奈純さん（17）は「自分たちで集めたマスクを直接渡すことができてうれしかった。マスクがほしいがこもったカードを渡すことで、地域を元気にしていきたい」と笑顔で語った。

（前田一樹）

日本海新聞 9月 19日

より良い地域づくりのため
に意見交換をするパネ
リスト＝香美町村岡区
村岡高



地域活性化へ 学習成果報告

村高フォーラム

地域に根ざした学校のあり方を考える「村高フォーラム」が香美町村岡区の村岡高で開かれた。生徒や大

学教授ら約200人が参加し、地域活性化に向けて意見を交わした。

同高は授業の一環で、生徒が住民と協力して地域の課題解決や魅力づくりに取り組む「地域探求」に力を入れている。

フォーラムでは、外部講師として、地域を題材にしたゲーム作りなどの探求授業を行っている鳥取大地域学部の武田信吾准教授(42)が講演。これまでの取り組みを振り返り「生徒が住民

と共に活動する学習は、これからの社会で必要になる自主性や共同性を育む効果がある」と成果を報告した。

パネルディスカッションでは、生徒や行政関係者、卒業生ら12人が登壇し意見交換。3年の福井若菜さんは「マラソンのボランティアや集落調査でたくさんの人と交流したことで、新たな地域の魅力に気づくことができた。村高ならではの貴重な経験だった」と意見を述べた。(前田一樹)

と共に活動する学習は、これからの社会で必要になる自主性や共同性を育む効果がある」と成果を報告した。

日本海新聞 10月25日

香美の未来像考える 村岡高で若者出前講座



真剣にグループワークに取り組む生徒＝9日、香美町の村岡高

30年後の地域像について考える「ビジョン若者出前講座」が9日、香美町の村岡高で開かれた。地域創造はさせた。

日本海新聞
12月13日

より良い未来をつくるために、2050年に向けた「将来ビジョン」の策定を進めている県が、若者の意見を取り入れようと実施。県内の高校などを訪れ、定期的に意見交換を行っている。

この日は、ビジョン課の大町充弘さん(43)が講師を務め、人口減少などの県を取り巻く社会問題や、その解決に向けた先進的な取り組みを紹介した。

その後行われたグループワークでは、生徒らが町の魅力や課題などを付箋に書いて共有し、班ごとに「理想の未来像」と「それに近づけるために」の2点を発表。「人口を増やすために、香美町の魅力が詰まった商業施設を造ってはどうか」「地域活性化策として町を題材にしたアニメを制作するべき」など、さまざまな意見が出された。

1年生の西谷楓輝さん(16)は「香美町の魅力について改めて考えることができて良かった。今日学んだことを生かして、今後も地域について追求していきたい」と話した。(前田一樹)

令和2年度グリーンスクール表彰【環境保全部門】兵庫県



全国マイプロジェクトアワード2018・2019優秀賞



2020年



山陰海岸ジオパーク中高生政策提案・実践コンテスト発表 優秀賞



「地域創造ハイスクールサミット 2021 in 北栄」

我が国では、地方から都市部への人口流出が進み、やがて地方の多くの地域が消滅するのではないかと危惧されています。国は「地方創生」を打ち出し、全国で様々な取り組みが始まっていますが、「地方創生」を実りあるものにするためには、地域を支える人材を育成することが重要な課題です。鳥取県関西本部の調査により、関西の大学に進学した鳥取県出身の高校生が大学卒業時に2割から3割しか鳥取県に帰って来ないということが分かっています。地域の人口流出は高校卒業段階で始まっています。地域創造の志を持つ高校生が集い、提言や意見交換することは大変意義深く、将来の地域リーダーを輩出する大きな可能性のある試みだと考えています。

このような趣旨で平成27年度に開催した「地域創造ハイスクールサミット2015 in 北栄」では、参加した島根県、兵庫県、鳥取県の高校7校の高校生が地域創造をテーマに意見交換し、以下を共同アピールとして採択しました。

- 一 私たちは高校生の視点から、地域と連携して地域の現状や課題を探究し、地域創造のために提言していきます。
- 一 私たちは「地域創造ハイスクールサミット」を今後とも協力して開催し、意見交換していきます。
- 一 私たちは地域創造の志を共有する仲間を全国に求めていきます。

- 1 日時 令和3年1月29日（金） 午前9時15分から午後12時10分まで
- 2 場所 主会場：鳥取中央育英高校（各参加校とリモート形式で実施）
- 3 主催 鳥取県立鳥取中央育英高等学校
- 4 共催 北栄町、琴浦町及び鳥取県教育委員会
- 5 後援 新日本海新聞社
- 6 指導助言 長曾我部 まどか（鳥取大学工学部工学研究科 社会基盤工学専攻 助教）
- 7 参加校 兵庫県立村岡高校、岡山県立真庭高校、鳥取県立岩美高校、鳥取県立鳥取中央育英高校
- 8 テーマ 「高校生が考え、実践する地域創造」
- 9 本校発表 「石碑を巡る香美の旅」 ～国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性～
発表者 地域アウトドアスポーツ類系 地域創造系2年 坂本美優 井端夕夏
協力 地域協働学習実施支援員 教育コーディネーター 房安 晋也（香美町地域おこし協力隊）



第2回但馬地区高校生フォーラム

兵庫県立生野高等学校
IKUNOモデル推進委員会

1 日 時 令和3年2月9日(火) 5校時～7校時 (13:15～16:05)

- 2 目 的 (1) 但馬地域の良さを考えさせる契機とする。
(2) 文部科学省指定最終年度の第3回但馬地区高校生フォーラムを意識し、今年度と同様の事態となる場合に実施に影響が少なくなるように、オンラインでの実施についての研究を深める。

3 内 容 (オンラインで実施)

第1部 (5校時) 13:15-14:05

探究活動の発表

- ① 学校長あいさつ
- ② 日本遺産「播但貫く、銀の馬車道・鉱石の道」ワークショップ参加1チーム
- ③ 兵庫県立村岡高等学校
- ④ 全国高校生MY PROJECT AWARD 2020 関西 Summit 出場2チーム

第2部 (6校時) 14:15-15:05

パネルディスカッション『隣の芝生は青い』は本当か?』

第3部 (7校時)

Q & Aコーナー (キャリア教育部と連携)



(4) その他の取り組み

- 1 令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」担当者会議 7月30日(木)
令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット
～テーマ①「学校と地域の連携・協働のあり方について」 10月30日(木)
令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット
～テーマ②「カリキュラムマネジメントの在り方について」 12月8日(火)
令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」
コンソーシアム構築支援拠点校との意見交換会 2月10日(水)

2 「地域みらい留学」への参加

【主催】(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム、内閣府、地域みらい留学推進協議会

【共催】島根県教育委員会、【共催】総務省、文部科学省 【協力】日本財団

◎登録料(88万円)については香美町の高等学校魅力化支援事業(年間150万)より支出
「地域みらい留学」とは

都道府県の枠を超えて、社会課題の先進地である地域の学校に入学し立場や世代を超えた多様な人々と充実した3年間を過ごすことを目的とした事業。

都市圏をはじめとする多様な地域から生徒が入学することで以下の点で期待できる。

- ・地元の高校存続の観点で、定員数を担保することが可能になる。
- ・地元の高校生にとって、地元の高校が多様性のある魅力的な選択肢となる。

① 「地域みらい留学フェスタ2020オンライン」にて中学生、保護者への説明会を実施。

- ・合計7回(7/25・26、8/22・23、9/12・13、10/3)下宿生と共に本校のプレゼンテーションと質問に答える。中学生と保護者の参加者延べ283名



② 「地域みらい留学」のチラシ・WEB・メディア掲載と共に本校の紹介



3 研究開発の内容

(3)運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告

- **第1回コンソーシアム・学校運営連携協議会**
- **第1回運営指導委員会**
- **第2回運営指導委員会**
- **第2回運営指導委員会アンケート**
- **第3回運営指導委員会**

3 研究開発の内容

(3)運営指導委員会及びコンソーシアム会議報告

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」第1回コンソーシアム会議
並びに令和2年度第1回兵庫県立村岡高等学校学校運営連携協議会

- 1 日 時 令和2年6月30日（火） 15:00
- 2 会 場 兵庫県立村岡高等学校 会議室
- 3 議 題 令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」研究開発の進め方について
- 4 送付資料 1)「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」資料
2) 令和2年度学校経営の重点
3) 令和2年度学校要覧
4) 令和元年度学校自己評価
- 5 出席者

高等学校と地域との協働によるコンソーシアム

機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 川戸 英明
兵庫県立村岡高等学校	校長 大垣喜代和
兵庫県立村岡高等学校同窓会	会長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教授 筒井 一伸
NPO 法人 TUKULU	代表 松岡 大悟
うずかの森（民間企業）	代表 西村 昌樹
やまもり村岡（民間団体）	代表 上田 治

村岡高等学校運営連携協議会

組織・団体	役職	氏名
香美町役場	企画課長	水垣 清和
香美町教育委員会	教育総務副課長	山田 貴広
地域中学校代表	村岡中学校長	中島 保男
地域中学校保護者	小代中PTA会長	上田 賢
地域代表小学校長	村岡小学校長	中村 秀男
アウトワード・バウンド協会	尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」所長	西垣 幸造
香美町若者懇話会顧問	株式会社西村工務店代表取締役社長	西村 昌樹
香美町スポーツ推進委員会	副会長	今井 寿史
香美町民生委員児童委員会	会長	西村 功
鳥取大学地域学部	学部長	山根 俊喜
村岡高校同窓会 明倫会	会長	西村 芳和
村岡高校同窓会 明倫会	副会長	諏訪 信彦
村岡高校PTA	会長	小田垣祐二
村岡高校	校長	大垣喜代和

村岡高等学校

(司会)	教 頭 岡田 厚志
(記録)	事務長 山崎 孝弘
地域アウトドアスポーツ類型責任者 総合的な探究(学習)の時間総括	教 諭 板坂 寿彦
地域創造系責任者	教 諭 今井 典夫
アウトドアスポーツ系責任者	教 諭 西村 誠
教育コーディネーター	地域おこし協力隊 房安 晋也

- 6 1) あいさつ ・大垣校長 ・堂坂高校教育課指導主事
2) 自己紹介
3) 報告

- ① 事業について ② 申請経緯について ③ 事業方針について

- ・地域創造系は「ふるさと教育」を柱に探究活動を進める。成果物やオンラインの取り組み、地域若者を巻き込んで活躍を紹介することにも取り組む。
- ・アウトドアスポーツ系は、WMG 2021でのオリエンテーリング、介護体操など
- ・ポンチ絵にあるように村岡高校で学んだ生徒がまた地元に戻り、関係して活性化に取り組む循環など、人のつながりをめざす。

4) 協議

- ① 今後の事業内容について(別紙資料)を基に各担当から説明。
- ・学校設定教科「地域探求」(地域創造系・アウトドアスポーツ系)について
 - ・総合スポーツ学について
 - ・学校設定教科「表現」学校設定科目「スピーチ」について
 - ・総合的な探究(学習)の時間「村高発地域元気化プロジェクト」について

【質疑応答】

(上田委員) 今までの活動や分量が多く忙しいと感じる。活動ができにくいこの時をじっくり立ち止まって考える時とし、今までの先輩の活動を振り返ることが必要である。それが生徒の成長につながる。

(山根委員) 鳥取大学に気を遣いすぎではないか。主体はあくまでも高校の先生である。今までの先行研究をもとに計画を明確にして、事前学習等下準備をすることも重要。総合的な探究活動では、班ごとに取り組みのばらつきがある。調査活動などを取り入れて十分な探究活動となるように。

(西村昌委員) 大学生はオンラインで授業を行っている。知識の授業動画は後で何回も見られる。時期を逃すと分からないまま終わってしまうことがある。今しかできないことを積極的にオンラインを活用して行うことが大切。今の状態がいつまで続くかわからない。今後の休業などに備えてオンラインを取り入れることが必要。また第2波など学校が止まってしまった場合のプログラムをあらかじめ組んでおく必要がある。教育のあり方を同時に考えていかなければならない。

(今井委員) 1年間を通して何割ぐらいやる予定か。マラソン、WMGなどイベントも難しい。また、パラリンピックにも目を向けてはどうか。

(校長) 今までの取り組みの振り返り、感染症対策として何ができるか等考えることも可能。夏季休業も10日短縮するが、地域創造系生徒の夏季休業の活動の確保も必要。スポーツ講演会を7月15日(水)に実施する。また人権教育訪問指導においてパラ種目の「ボッチャ」に対する活動を行った。昨年からのスポーツ講演会もパラスノーボーダーの岡本さんをお願いするなどパラリンピックに目を向けている。

(西垣委員) 「授業を通して生徒はどのように変容したのか」に目を向ける生徒のアンケート調査などどうか。素晴らしい活動をしておられるので、その結果を活用してスパイラルアップしてもらいたい。

(教頭) 昨年度実施した評価アンケートを今年度も実施する。協力をお願いしたい。

(校長) 昨年度の結果を十分活用できていない。今年は活用していきたい。

(松岡委員) 興味のあることをすることが重要。興味のないことを無理にさせるのは大人の自己満足になる。そういう面で大人の考え方が重要。また、地域・学校・家庭の役割を明確にすることが重要。

(西村芳委員) 行事が増えることはないと思うが、しっかり考えて実施してほしい。

【指導助言】

(堂坂指導主事) この度は、不本意ながらもコロナで学ぶことも多々あった。コロナというウイルスはどのようなもので、今回の事態をどのように判断し自分たちがどのように行動したらいいのかなど。その思考の過程が大切であり、正解を知らないまたわからない問題を判断し行動することが重要となる。その中で地域の方と生徒が最適な解を求めていくことが求められる。

学校・地域・家庭の役割をできるだけ明確にしようとする議論が大切。

カリキュラムにおいては、あくまでも子供が中心軸となった学びとして教科全体が連携したものとなっているかをチェックし取り組みを進めてほしい。

② 会議の日程について

10月10日(土) (村高フォーラム)
第2回コンソーシアム会議

3月9日(火) (総合的な探究(学習)の時間発表会)
第3回運営指導委員会
第3回コンソーシアム会議
村岡高等学校第2回運営連携協議会

5) あいさつ

大垣校長

閉会

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」

令和2年度第1回兵庫県立村岡高等学校運営指導委員会

- 1 日 時 令和2年7月27日（月） 15：00
- 2 会 場 兵庫県立村岡高等学校 会議室
- 3 議 題 令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」研究開発の進め方について
- 4 資 料 送付資料
 1）「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」資料
 2）令和2年度学校要覧（令和2年度学校経営の重点）
 3）令和2年度学校案内
 本日資料
 （1）第1回運営指導委員会レジュメ
 （2）第1回コンソーシアム・運営連携協議会 報告
 （3）運営指導委員会設置要項
 （4）村高だより、校長通信、新聞報道等

5 出席者

運営指導委員

氏名	所属・職	備考
川井 史彦	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関
西田 利也	兵庫県教育委員会高校教育課長	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
水垣 清和	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学地域学部学部長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者
西村 功	村岡区自治会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

村岡高等学校

(司会)	教 頭 岡田 厚志
(記録)	事務長 山崎 孝弘
類型責任者、総合的な探究（学習）の時間総括	教 諭 板坂 寿彦
地域創造系責任者	教 諭 今井 典夫
アウトドアスポーツ系責任者	教 諭 西村 誠
教育コーディネーター	地域おこし協力隊 房安 晋也

社会教育課 稲家 福子 指導主事兼社会教育主事

6 次 第

開会

- 1) あいさつ
- 2) 自己紹介
- 3) 運営指導委員長選出
委員長 山根俊喜氏、副委員長 横山真弓 氏 を選出
- 4) 運営指導委員長挨拶
- 5) 説明・報告・協議
 - ① 事業について (学校長)
 - ② 申請経緯について (学校長)
 - ③ 事業方針について (学校長)
 - ④ 第1回コンソーシアム・運営連携協議会報告 (教頭)
 - ⑤ 質疑応答

【協議内容概要報告】

- 1 今井雄治様 (香美町副町長)
 - ・地元の人間としては若い力に期待している
 - ・歴史的取組・研究、ふるさと教育にもっと力を入れるのはどうか
(山名、朝倉氏 山野草、森林植物園など)
 - ・行政がどういう方向で進んでいくか、最終目標は県立高校2校の存続 (香住、村岡高校)
 - 2 川井史彦様 (兵庫県企画部地創局企画参事)
 - ・地域調査は行っているが外部 (都会) の方に接触する機会はあるのか
 - ・地元が気が付かない外から見ての意見 (地元の良さ) 等、客観的にとらえる必要がある
(大垣校長) マラソン大会でマラソンランナーへのアンケートや交流を行っている
 - ・地元で働くということに関して職場との連携について、就職先や魅力を知ることが重要
 - 3 今井雄治様 (香美町副町長)
 - ・町職の採用試験を依頼し期待している。(香住、村岡高校 近年2、3人ずつくらい採用)
 - ・官民合同の就職説明会の実施など長として検討する必要があると考える。
 - 4 清水幸信様 (香美町教育委員会教育総務課長)
 - ・村岡高校は2、3歩先を進んでいるところを生かして取り組んでほしい。
香住高校の海洋、日高高校の看護科ぐらゐの村岡高校の希望が上がれば良いと思う
 - 5 西村 功様 (村岡区自治会長)
 - ・地元の村、老人のこと、福祉のことを知って欲しい
 - ・ライオンズクラブ (国際交流) の「冬の留学生」の依頼をしたい。今まで中学生を頼りにしていたが、英語力は高校があるので期待している
 - ・八幡山芸術祭がなくなったのは残念、今後はどのようなのか
- (今井教諭)
- ・集落調査 10年ほど前から聞き取り調査を行ってきた。香美町にも調査結果、提言等も提出している
 - ・八幡山芸術祭について
 - (1) 昨日、紙漉体験コラボ行事を実施した
 - (2) 八幡山公園ガイドマニュアル作成 (日本語、英語版)
来年予定のワールドマスターズゲームスに対応して、インバウンドを意識し英語版も創り上げた

(3) スポーツ系

- ・老人介護体操、いきいき元気体操、体力測定を行っている。
- ・南中ソーランの高齢者向けを作成している。DVD制作する予定。

(4) 地域福祉班

- ・射添っこクラブ（射添地区学童での指導）、老人ホーム訪問等を予定しているが、今年
はコロナ渦の関係で行けていない。そのため鉢花づくりを行い施設等に配布予定であ
る。

6 今井雄治様（香美町副町長）

- ・町としては活動内容について、上に意見が上がってこないがそれらの取り組みについて期待
している。

7 西村 功様（村岡区自治会長）

- ・元気体操は和池が発祥であり、平日実施している
（今井教諭）
- ・高齢者向け元気体操、体力測定（町と連携している）を実施。昨年は西本町、長瀬地区で実
施した。

8 入江善博様（入江産業代表取締役）

- ・田舎にあつて都会に無いものがある。そのために大手の客が田舎に来る。
- ・地域資源である自然の利用の仕方やPRの力が不足している。
- ・入江産業は従業員25名（大阪、鳥取、相生など5名は地元外から）
地元の人の就職者希望者が少ない
- ・一度は都会に出て行っても生まれ育ったこの地に戻ってきてくれたらいい
都会で勉強したものを持ち帰って、新しい事業を興してほしい
- ・田舎で自然を相手にしていると自ずと生かされているということに気づかされる
私見だがこの地にコロナが無いのはオゾン、空気、自然が寄せ付けない力があるのではと感
じる。

9 山根俊喜様（鳥取大学地域学部学部長）

- ・「郷土愛を育む」とあるが「ふるさと教育」と「郷土愛」をどう捉えるかがポイント。
東井義夫先生は、物事を自分のこととしてとらえることにより愛が生まれると言われている
探究においても地域を自分のこととして考えることにより郷土「愛」が生まれる。
方法としてどういうことを考えるか。誰でも言える言葉ではなく、一歩進めることが重要。
- ・身につけたい知識として「コミュニティー能力」「プレゼンテーション能力」「問題改決能
力」など似たような能力・資質が使用されている。評価する内容を見据えて整理することが
大切である。
- ・コロナの影響が来年も続くとなると、外に出にくくなるため、行きたいところの人に来ても
らい質問するようにする。それまでに校内で学習し準備するなどの取り組みが必要。

10 横山真弓様（兵庫県立大学教授）

- ・2本柱で考える
（1）全国の課題（どこに行っても抱えている課題）・・・人口減少等
（2）香美町の課題（ここしかない課題）アピールポイントが何かを考える
- ・香美町（氷ノ山、扇ノ山） 山→里→海 という自然環境を捉えて作り出すなどならでの
取り組みをする。
- ・どんな子どもたちになってほしいという大人の要望ばかりではなく、子どもの目線に立つ必
要がある。
- ・子どもは自分の個性を認めてくれる大人を望んでいる（大人のキャパシティー）

これからの時代は先が不透明→ひとり一人の個性を尊重（みんな違って、みんないい）
ここで育って良かったという思いを育ててほしい

- ・子どもたちにどんな大人に育って欲しいか聞く
- ・ネット社会は無視できない

これだけインターネットを使ってゲームをしている国はない

ネットを使って仕事や学習をするなど、都市に無いものに対してのあこがれをアピールする

1 1 堂坂指導主事（指導助言）

- ・村岡高校はこれだけ多くの人にいろいろ考えていただいている学校だと思う
- ・大人がチャレンジ出来る環境が子どものチャレンジする（自分たちも出来る）を生み、新しい事業へ展開していく
- ・子ども軸（こんな人になりたいという思いが学びに繋がる）
- ・郷土愛 愛を育むのは人である
どんな人と出会うか、どんな人と協働するか、その価値を見いだせた時に学びへの転換する生徒たちは発達途中なので、すぐには返ってこないが、将来的に続けることで意識の上で帰って来る。村岡のファンになっていく
地域で学んだことによる学びへ転換により地域の活力となる
関わる人々が共通理解できるメソッドの開発により目指す生徒像が中心軸となる

1 2 西村 功様（村岡区自治会長）

- ・我が家の子どもの育て方
息子（伊丹）、娘（神戸）は田舎があつて良かったと、友達に田舎を自慢する
しかし村岡は好きだが仕事は別（ふるさとは大好きだが仕事は都会でしており、田舎に帰ってこない）

1 3 入江善博様（入江産業代表取締役）

- ・宿舎の問題については、町や県でバックアップして土台を作してほしい。

1 4 横山真弓さん（兵庫県立大学教授）

- ・コロナ禍もあり、仕事や子育てなど特にどんな教育を受けさせたいか考えている人が多い。
インターネットで仕事をしている人たちへ村岡についてアピールし若いファミリー層を引き込むことが出来る。教育の質で売ることが出来る。

6) その他

① 会議の日程について

10月10日（土）	（村高フォーラム） 第2回運営指導委員会
3月9日（火）	（総合的な探究（学習）の時間発表会） 第3回運営指導委員会

7) あいさつ（学校長）

閉会

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
 令和2年度第2回兵庫県立村岡高等学校運営指導委員会並びにコンソーシアム会議

- 1 日 時 令和2年10月10日（土） 10:00
 2 会 場 兵庫県立村岡高等学校
 3 議 題 令和2年度文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」研究開発における今後の取組みについて
 4 資 料 (1) 村高フォーラム資料
 ア 要項
 イ 発表資料
 (2) アンケート

5 出席者

運営指導委員

氏名	所属・職名	備考
川井 史彦	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関 (欠席)
倉橋 良太	兵庫県教育委員会高校教育課主任指導主事兼主幹	関係行政機関 課長代理
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
水垣 清和	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学地域学部学部長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者 (欠席)
西村 功	香美町民生委員児童委員会会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

コンソーシアム

	機関名	職名
倉橋 良太	兵庫県教育委員会高校教育課	主任指導主事兼主幹
山田 貴広	香美町教育委員会教育総務課	副課長
川戸 英明	香美町企画課	副課長 (欠席)
大垣喜代和	兵庫県立村岡高等学校	校 長
西村 芳和	兵庫県立村岡高等学校同窓会	会 長
筒井 一伸	鳥取大学地域学部	教 授
松岡 大悟	NPO 法人 TUKULU	代 表
西村 昌樹	うづかの森 (民間企業)	代 表
上田 治	やまもり村岡 (民間団体)	代 表

県立東灘高等学校 徳山学校長 朝田正樹教頭 神宮隼人総務部長

6 日 程

受付 9:30～

(控室) 会議室

- 1 10:00～12:30 総合的な探究の時間、地域探求発表会 参観 (体育館)
 2 12:30～13:30 ランチミーティング (会議室)
 1) あいさつ
 2) 依頼、連絡事項 (アンケートなど)
 3) 昼食を食べながら懇談
 3 13:30～16:00 村高フォーラム 自由参観

終了後 散会

1 総合的な学習の時間・地域探求発表会

（1）総合的な探求の時間 発表について

- ・全体的に香美町のふるさと教育に多大な貢献をいただいていると思います。（清水教育総務課長）
- ・生徒の発表はそれぞれ大きな声で堂々とできており、すばらしかったと思う。一つ欲を言えば、原稿を見ずに言えればよかったと思う。（見ずに発表した生徒もいたようだが...）
校長先生も言われていたが、コロナ禍の中で、対外の交流ができず、プログラムも難しかったと思うが、工夫されていたと思う。（西村うづかの森代表）
- ・探求の内容について、質・量ともに向上していると感じます。代々の生徒さんの頑張りを支えてくださった先生方のご尽力に改めて敬意を表します。
今年度、「地域との協働」の指定を受けられましたが、「地域魅力化型」の指定数はごくごく限られており、全ての都道府県に指定校があるわけではありません。しかし、兵庫県には2校も、しかもいずれも但馬地域の高校が指定されました。このことの意味は大きいと思います。（高校教育課 倉橋主任指導主事兼主管）
- ・学年の枠を越えての発表であり、認識を新たにすることがあった。（西村明倫会会長）
- ・地元との理想的な関係性を築かれているなあと感嘆しました。将来地元に戻ってきて活躍される卒業生さんがおられると思います。そこまでつながりを感じさせる内容でした。（神宮東灘高校総務部長）
- ・高校生は地元で生活をしている中で、地元のことをしっかりと理解しているかといえばそうでない場合が多い。村岡高校の取り組みでは様々な角度から地域について知り、課題を発見したり、新しい気づきを持ったりできているように感じた。その中で、どのように地域と関わり、今後どうやって地域を活性化するかについて学んでいることは非常に生徒にとっても地域にとっても価値のあることだと思う。（朝田東灘高校教頭）
- ・どの班も、地域をよく理解した中で、探究活動が行われていることがよくわかりました。ステージの発表もよくまとめられていたので聞きやすかったです。また、ポスターセッションにおいても、こちらの質問以上の答えが返ってきたのに、日頃からの取り組みの濃さが見て取れました。（徳山東灘高校校長）
- ・③国際コンクールへの出品という積極的な取り組みが印象に残りました。
→他の班などに拡大すれば。
- ⑤制約がある中でインタビュー調査への転換は良かったと思う。
→定期的な話し合いに発展できれば。（上田やまもり村岡代表）
- ・③香住高校海洋科学科とのコラボも良いかも。
- ⑤ガイドブックをきっかけに小代に訪れて欲しい。←観光客を迎える体制も必要。
- ⑥10年近く続いている長須の紙すき事業。村岡高校との協働も長いですが、ぼちぼち具体的なゴールを設けては。（松岡 NPO 法人 TUKULU 代表）

- ・どの探究も地域の問題についていろいろ考えて、取り組んでいると感じました。中山間地における農業の衰退、高齢化、地域資源など、高校生として地域の課題を知ること、卒業しさらに学び、地元に戻ってきてほしいと思います。(山田企画課副課長)
- ・発表そのものはどの班もしっかり準備されていて、堂々と発表していました。良かったと思います。2年前の総合学習の発表会で、探究の時間なので、もう少し探究の課題を明確にする必要があるのではないかとコメントしました。今もその思いは変わりませんが、課題よりも地域で活動するということが、その活動自体が大切で、そこから何かを学んでくれるだろうという意図もわかります。その場合に大切なことは、いったい何が学ばれているのかを、先生方も生徒自身もきちんととらえることだと思います。この発表会はそのひとつの機会だったと思います。そのような振り返りの機会としてこの発表をとらえ、発表の振り返りをさせていただき、活動の教育的価値をとらえていくことが大切だと思います。(山根鳥取大学地域学部学部長)
- ・地域探求した対象者に結果や内容を報告し、完結したらよいと思いました。(西村民生委員会会長)

(2) 地域探求・地域学入門（地域創造系・アウトドアスポーツ系）発表について

- ・3年生になるとさすがに内容もすばらしい。将来は香美町で働いてほしい。(清水課長)
- ・時間的に制約があると思うが、「ガイドブックを作る」「ゲームを作る」というところで、終わりみたいなどころがあり、それを実際に活かして「使う」、使ったあとの効果を検証するという時間をもっと増やしていくほうが良いのではと思った。(西村代表)
- ・本日、たくさんの発表を見させていただき、生徒たちは、地域の魅力の再発見等の課題に取り組む中で、「防災」「環境」「少子化」「世代格差」などの、都市部を含めた社会全体の、人類普遍の問題についての探究に深く触れていると感じました。
今後、この「普遍的問題についての探究」という視点を軸に、県内他地域や県外の高校生たちと議論などを行うことで、一層深い学びが実現すると感じています。例えば、都市部でも「オールドニュータウン」での高齢化が進んでおり、この問題を探究している学校もあります。(倉橋主任指導主事)
- ・1年生から3年生までに学年別の発表であった。内容方法ともすばらしい発表であった。(西村会長)
- ・立地を最大限に活かした取り組みであり、非常に魅力的に思います。単なる「アウトドア」ではなく地元にも上手く溶け込んだ内容になっており、「村岡高校」を選ぶ強い要素であると思います。(神宮総務部長)
- ・③地域探求Ⅱの地域ゲーム作りはとてもオリジナリティが高く、興味を持った。ゲームによって、小学生に学びやすくするというアイデアはすばらしく、自然と地域について知ることができると思う。小学生にとって難しいという報告があったが、まずはゲームによって地域について触れることができるという点に意味があると思う。今あるゲームだけでなく、いろんなゲームを作成して試してみるのも面白いと思う。(朝田教頭)
- ・コロナ禍において活動が難しいなか、生徒の創意工夫があり、まさにピンチをチャンスに変えているのが素晴らしいと感じました。また、日々の取り組みについての確に振り返られており、継続性

の学習内容が学校と地域の win win の関係性になっていることが勉強になりました。(徳山校長)

- ・地創①「山、川、海は繋がっている」という指摘は同感です。→さらに内容を深めてほしい。
②「石碑巡り」は新しい試みで印象的でした。テーマごとに設定すればおもしろいものができそうに思います。
- ③「地域ゲーム」のアプリを作っては？(上田代表)
- ・コロナ影響の中、オンラインを活用し作成した成果物が「ボードゲームかるた」遊んでもらう立場を考えたツールでも良かったのでは？
ワールドマスターズゲームズが終わった後のオリエンテーリングと地元の関係は今から準備すべき。
元気体操で予防医療を広める視点はグッド。(松岡代表)
- ・アウトドアスポーツ系は今後の自分の将来に向けた夢につなげてほしいですし、地域創造系は地元を愛する心を養っていける取り組みだと思います。(山田副課長)
- ・新型コロナの影響で当初予定の活動が制約されてきている中で、発表の内容づくりも大変だったと思いますが、報告自体はしっかりなされていたと思います。勝手な印象批評になるかもしれませんが、アウトドアスポーツ系の生徒さん特に3年生がしっかりしてきたな、と感じました。
(山根学部長)

(3) ポスターセッション

「総合的な学習の時間」

- ・③地元食材がメインのレシピを期待する。(清水課長)
- ・全てのセッションを見ることができなかったが、担当の生徒に質問をすると、しっかり答えてくれたので、それぞれが自分のものになっている印象を持ちました。(西村代表)
- ・オープンハイスクールの同時開催で、一味変わった雰囲気だったが、こちらの質問に対する生徒さんの説明が非常に分かり易かった。プレゼンテーション能力が高いと感じた。(倉橋主任指導主事)
- ・説明してくれる生徒が自信をもって説明してくれているのが印象に残っている。(西村会長)
- ・④の地域福祉班の花の定期便は非常に参考になった。これまで花づくりに取り組む学校を見て来たが、育てた花を届けるという取り組みは、他者とのつながりを花という人の気持ちを和ませるものによって強める効果が大きいと思った。(朝田教頭)
- ・歴史的背景を踏まえたうえでの説明が素晴らしかった。ここにも持続性・継続性を感じ取ることができました。また、一人一人が地域や学校を誇りに思い、学習に臨んでいることがわかりました。
(徳山校長)。
- ・紙漉き班のポスターが非常に良かったです。もっと広がり、地域・町の宝になるよう、町全体で盛り上げてほしいものです。(山田副課長)
- ・活動が制約されている中、ポスターも工夫が凝らされてしっかりと作られており、質問等に対する受け答えも物怖じせずしっかりしていたと思います。(1)で書いたことと同じことですが活動の報

告とともに、そこで何を学んだのか（理解した内容だけでなく、どのような学び方をしたからそのような理解に至ったのか—メタ認知）を書き込むとよいと思いました。（書き込まれていた発表もありました）。（山根学部長）

「地域アウトドアスポーツ類型」

- ・地域ゲームが面白かった。（清水課長）
- ・全ての班やセッションに共通するのですが、生徒が発表した内容、ガイドブックなどの制作物を含め、HPなどでより詳しく対外的なアピールが必要だと感じました。（西村代表）
- ・新型コロナ対策で活動が制限された年だったが、よくまとめているなと思った。（西村会長）
- ・⑥地域創造系2年の石碑巡りは目の付け所が素晴らしいと思う。石碑を調査することにより、歴史、文化など様々な角度から地域を知ることができるのではないかと思われる。石碑は常にそこにあるが何かを物語っているので謎解きをしながら地域の成り立ちを想像するのは無限の可能性のあるような気がする。（朝田教頭）
- ・地域（特に高齢者）を巻き込み、高校が何ができるかという、難しいテーマに正面から向き合いあい、それを体現できていることに感動しました。
さらに次のステップに向けて課題や取り組むべき具体的内容まで踏み込んでいるので、より深い学びになっていると感じました。（徳山校長）

2 「村高フォーラム2020」

- ・少し内容がかたいような気がした。（清水課長）
- ・昨日、とあるオンラインミーティングがあり、村高卒で西宮在住の20歳の女性が、「早く都会に出たいと思って実際に出ると、村岡に対する地域愛がふつふつわいてきて、何かしたいと思った」と話してくれました。こういう感情を沸きあがらせることができていることが、村高の取り組みの成果だと思います。
自らが主体的に取り組める場面をたくさん作ってくれ、人前で取り組んだことを発表できる機会は、大変重要だし、今後もそのようにしてくれるとよいと思います。
継続的に取り組んでいる事業もあると思いますが（棚田班など）、その年の事業取組の成果や、特に課題、反省などをしっかりと深掘ってあらい出し、次年度により高い取り組みになるような、しっかりとしたPDCAサイクルをまわしてもらおうとよりよいと思います。（西村代表）
- ・生徒の学びそのものの学術的な意味についての話を、生徒自身に聴かせて考えさせようとするアプローチが新鮮であった。
「高校生が地域に出て行って、地域の方が元気になる。」という評価は、当然あってもよい評価だが、あくまで取り組みの副産物でなければならぬと思う。一番大切なのは、高校生自身の成長であることを、大人が共有し続けることが重要である。（倉橋主任指導主事）
- ・①問題点も含めてうまくまとめていた。
②内容の濃い報告だったが、長かったかな？（西村会長）
- ・①現役生の村岡高校での経験についての話は、生の声として、村岡高校が地域と結びついているこ

とを証明しているように思えた。討論会を開くことで生徒たちは自分たちの取組が貴重な経験であるということがわかったのではないか。(朝田教頭)

- ・③地域学習の意味、意義をより深く理解し、主体的に取り組むことを通じて、教科学習に対して積極性を増すことができると考えます。

地域学習の内容が教科学習の導入になれば最高ですが、(大学の話でしょうか?)(上田代表)

- ・②基調報告は少し難しく感じました。

③討論会は司会進行のなか、良い機会だったと思います。生徒も頑張って聞いておられました。

(山田副課長)

- ・予想通り、時間が押して、③の討論会が消化不良だったかなと思います。登壇者が多かったので、もう少し時間をとれるように設定すればよかったかなと思います。①～③を一連のものとして取り組むようにして、時間配分を考えるとよいかと思います。(山根学部長)

2 その他

- ・なぜ若者は田舎を出て行くのか。それをどうすればよいか。

都会でできること、できないこと。田舎でできること、できないこと。自ら考える。

“何もないからなんでもできる”私の信条です。(入江取締役)

文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」
第3回兵庫県立村岡高等学校運営指導委員会・コンソーシアム連携協議会
第2回兵庫県立村岡高等学校学校運営連携協議会・学校評議員会

日 時 令和3年3月9日（火）
9:40～11:20 総合的な探究の時間発表会
11:30～12:45 運営指導委員会及びコンソーシアム連携協議会
学校運営連携協議会及び学校評議員会

場 所 兵庫県立村岡高等学校 会議室
美方郡香美町村岡区村岡2931 TEL 0796-94-0201

日 程

- 1 開会
- 2 学校長あいさつ
- 3 生徒発表
①民芸班 ②紙漉き班 ③環境A班[棚田保全] ④環境B班[森の健康診断]
⑤吹奏楽班 ⑥食文化班 ⑦地域福祉班 ⑧集落調査班
- 4 講評
①西村 功 運営指導委員 ② 横山真弓 運営指導委員会 副委員長
- 5 全体講評[総合的な探究の時間の課題と展望]
石山雄貴氏（鳥取大学地域学部人間形成コース 講師）
- 6 閉会
- 7 今年度の取り組みについて総括、協議（11:30～12:45）
（運営指導委員、コンソーシアム運営協議会委員、学校運営連携協議会委員、学校評議員）

（資料）①「運営指導委員会・コンソーシアム連携協議会、学校運営連携協議会・学校評議員会」要項
②「総合的な探究の時間発表会」要項及び資料
③研究開発実施状況報告書（簡易版）
④発表会アンケート
⑤学校評価（生徒・保護者アンケート）

- ① 開会
学校長 挨拶
- ② 報告（今年度の取り組み）
・（資料）③研究開発実施状況報告書（簡易版）について説明

③ 協議（今年度の取り組みについて、来年度の展望について）

*来年度新たな取り組み予定と連携先

- ・水田の土壌調査（おじろ地域局・鳥取大学農学部）
 - ・美方大納言商品開発（香美町農水産課）
 - ・動画作成による魅力発信（鳥取大学地域学部）
 - ・オリエンテーリング普及（WMG in 関西 2022）
-
- ・「村岡メソッド」の取り組み「人づくりネットワーク」の構築について
 - ・コンソーシアムとの連携とコーディネーターの育成について

上田治 やまもり村岡代表（コンソーシアム連携協議会）

- ・集落調査で「小代の若者」をターゲットにすることは、地域づくりの中核の存在を対象にすることとなり、「地域の若者」を今後の取り組みの観点にすることがよい。
- ・課題であるコンソーシアム拡大とコーディネーター育成については、卒業生を活用・組織するとコンソーシアムの拠点としてコーディネーターを育成することができる。

西村昌樹 うづかの森代表、香美町若者懇談会顧問（コンソーシアム連携協議会、学校運営連携協議会）

- ・オンラインは会議以外の時間が不要になる。コンソーシアム、コーディネーターについて遠隔地の卒業生等の参画や知見等が活用できるなど武器になる。村岡高校のコロナ禍関係なくツールとして生かすべき。
- ・村岡高校の学習環境として、オンラインの授業による単位習得ができれば、交通の便や地理的ハンディが解決され、それを前提としたカリキュラム編成、運営が可能となる。また、オンラインを活用してコンソーシアムやコーディネーター、地域住民などを活用する教育環境を整えてもらい深い学びにする。小規模校だからこそできることとして取り組んでもらいたい。

松岡大悟 NPO法人 TUKULU代表（コンソーシアム連携協議会）

- ・発表について、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーション能力の高さは村岡高校の強みと感じる。
- ・活動ができなかったのは高校生だけではなく全部である。コロナ禍をきっかけに「地域とは何か」を考え直すきっかけになったことが大事だと感じる。東日本大震災以降、都市部の若者の価値観が地方への可能性へ変わるきっかけとなっている。若者の生きる、働く、暮らすなどの価値観がかわってきた。コロナ禍でも同様に考えるきっかけとなり、新たな変化が起こるときだと感じる。都市部だけではなく村岡においても1年間考えていたはず。そこで高校生がどう考えるか、どうコミットするかが重要である。イベント・活動を「中止した地域」と「続けた地域」の思いについて、地域の人と考えることは今後につながると感じる。
- ・村岡高校には、村や事業者からヒアリングして高校生の役割を生み出す能力が備わっている。今後は役割を見つけると同時に、もっと入り込んで一員となり、地域に投げかけ追求することにより、地域を動かす力・存在として提案できると、地域と関わる高校の中でも秀でた取り組みとなる。

上田治委員 やまもり村岡代表（コンソーシアム連携協議会）

- ・横山先生が講評されたことが頭に残っている。今後のカリキュラムを考える上での示唆と考えるが、各班、各取り組みの根底に流れているものを高校生が考え直すこと。「なぜ地域のことをやっているのか」を考え直す。根底にあるものを考え直す、問いかけてみることも重要である。

西垣幸造 アウトワード協会「とちのき村」所長（学校運営連携協議会）

- ・資質・能力の分析・数値化による見える化は良い。それをどう生かすかが重要。
- ・普通科の生徒のみの評価を分析することもほしい。この評価により授業改善において学校と戦略、強み・弱みを考えながらすすめるべきではないと気づくことができた。同じ方向に向けて協力していきたい。
- ・村岡高校に入りたい親のニーズ、村岡高校を出た生徒を雇いたい地域・企業の日線をどう取り込んでいくか。56%の生徒が地元で活躍したいと答えている。その掘り起こし、起業する力を養う観点も必要だと感じる。

入江善博 入江産業代表取締役（運営指導委員会）

- ・村岡高校は地域のことを考えて学習できている。将来村岡に戻って盛り上げるにはどうすればいいのか具体的なものがほしい。地元企業としても期待にこたえる企業としていきたい。一度都会で考え方・見方を見極めて村岡で事業を立ち上げる生徒が出るのがよい。地元企業として田舎にいるが都会に負けないファイトと行動力、前を見る力を養いながら発展していきたい。

西村芳和 同窓会明倫会会長（コンソーシアム連携協議会、学校運営連携協議会、学校評議員会）

- ・卒業生がスキー大会を手伝ってくれた。その態度が素晴らしかった。良い生徒が育っている。
- ・アンケートの表記についてp37上部のグラフが分かりにくい。

諏訪信彦 同窓会明倫会副会長（学校運営連携協議会、学校評議員会）

- ・授業参観という気持ちで出席させてもらった。活動ができなかったようだが、8班ともコロナ禍でも素晴らしい活動ができていた。
- ・課題は都会への発信ができていない。発信力をどうもっていくかが重要。地域の方を活用することにより発信力を育ててほしい。卒業生のアンケート調査結果も楽しみにしている。

西村功 村岡区自治会副会長 香美町民生委員児童委員会会長（運営指導委員会、学校運営連携協議会）

- ・子どもたちと自分たちの高校生のころとの違いに愕然とした。地元の大人の重要なことは地域に戻れる受け皿をつくること。田舎のよさを知っていることが帰ってくることになる。その受け皿が重要だと感じた。

中村秀男 村岡小学校長（学校運営連携協議会）

- ・村岡高校の卒業生であるが、学びの形が変わっていく、地域の学校として特色を生かす学習にうれしく思う。他地域から来た地域おこし協力隊の話によって香美町の良さを教えられた。交流をとおして自分の思いがかわる。

- ・発信力についてはオンラインの活用で地理的ハンディが解決される。高校生が活用することにより地域の壁を越えることになる。小学生との交流を通してその学びを教えてください。

中島保男 村岡中学校長（学校運営連携協議会）

- ・小中はふるさと教育に取り組んでいる。村岡高校も地域に入り込んだ取り組みをしている。中高の連携をさらに深めていって、地元を離れる生徒もいるので、村岡高校の良さを中学校に広め、村岡高校に行く生徒を増やしたい。ただ、オープンスクールに参加した生徒はこぞって村高生の素晴らしさを語って村岡高校に行きたと言う。中学生を育てていただきありがたい。

山田貴広 香美町教育委員会 教育総務課副課長（コンソーシアム連携協議会、学校運営連携協議会）

- ・高校生のプレゼン、PPなど良くできていた。教育委員会としても地域に根付いた高校としてありがたく感じている。
- ・ICTの活用について取り組んでほしい。小中高との様々な連携をしていただきたい。

④ 閉会
学校長

8 委員（名簿）

運営指導委員

組織・団体	役職	氏名	備考
兵庫県企画県民部地域創生局	企画参事	川井 史彦	(欠席)
兵庫県教育委員会	高校教育課長	西田 利也	(欠席)
香美町	副町長	今井 雄治	(欠席)
香美町	企画課長	水垣 清和	(欠席)
香美町教育委員会	教育総務課長	清水 幸信	(欠席)
鳥取大学地域学部	学部長	山根 俊喜	(欠席)
兵庫県立大学	教授	横山 真弓	オンライン
村岡区自治会	会長	西村 功	
入江産業	代表取締役	入江 善博	

コンソーシアム連携協議会委員

組織・団体	役職	氏名	備考
兵庫県教育委員会	高校教育課長	西田 利也	運営指導委員 (欠席)
香美町教育委員会	教育総務課副課長	山田 貴広	
香美町	企画課副課長	川戸 英明	(欠席)
村岡高等学校同窓会	会長	西村 芳和	(オンライン)
鳥取大学地域学部	教授	筒井 一伸	(欠席)
NPO法人 TUKULU	代表	松岡 大悟	(オンライン)
うづかの森	代表	西村 昌樹	(オンライン)
やまもり村岡	代表	上田 治	

学校運営連携協議会委員

組織・団体	役職	氏名	備考
香美町役場	企画課長	水垣 清和	運営指導委員 (欠席)
香美町教育委員会	教育総務副課長	山田 貴広	コンソーシアム
地域中学校代表	村岡中学校長	中島 保男	
地域中学校保護者	小代中PTA会長	上田 賢	(欠席)
地域代表小学校長	村岡小学校長	中村 秀男	
アウトワードバウンド協会	尼崎市立美方高原自然の家「とちのき村」所長	西垣 幸造	(オンライン)
香美町若者懇話会顧問	株式会社西村工務店 代表取締役社長	西村 昌樹	コンソーシアム (オンライン)
香美町スポーツ推進委員会	副会長	今井 寿史	(欠席)
香美町民生委員児童委員会	会長	西村 功	運営指導委員
鳥取大学地域学部	学部長	山根 俊喜	運営指導委員
村岡高等学校同窓会	会長	西村 芳和	コンソーシアム
村岡高等学校同窓会	副会長	諏訪 信彦	
村岡高校PTA	会長	小田垣祐二	(欠席)

学校評議員

役職	氏名	備考
村岡高等学校同窓会	西村 芳和	運営指導委員 学校運営連携協議会
村岡高等学校同窓会	諏訪 信彦	学校運営連携協議会
学術経験者	山根 俊喜	運営指導委員 学校運営連携協議会 (欠席)
地域住民	森本 敦子	(欠席)
地域住民	徳山万佐子	(欠席)
前PTA会長	浅田 健	(欠席)
地域区長	田中 勲	(欠席)



《オンライン会議》



《今年度の成果物の展示》

4 評価・分析

(1)つけたい能力・生徒アンケート

(2)生徒アンケート集計結果

(3)評価・分析

4 評価・分析

(1) つけたい能力・生徒アンケート

村岡高校 つけたい能力

	地域学 入門	地域 探求 I	地域 探求 II	地域 スポーツ I	地域 スポーツ II	自己表現 (スピーチ)	総合的な 探究の時間
①課題発見能力	◎	◎	○	◎	◎		◎
②課題解決能力	○	◎	○	◎	◎		◎
③プレゼンテーション能力	○	◎	○	○	○	◎	○
④新たな価値を創造 する能力	◎	◎	○	◎	◎		◎
⑤コミュニケーション能力	○	◎	◎	○	○	◎	◎
⑥議論する能力	○	○	◎	◎	◎	◎	◎
⑦コーディネート能力	○	○	◎	◎	◎		○
⑧自己表現能力	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

生徒アンケート及び評価表(ルーブリック)

自己評価

資質・能力	自己評価	そう思う ← → 思わない				
1 問題 発見能力	① 自分の意見として地域の課題や改善点を発見したり魅力をあげることができる	5	4	3	2	1
	② 社会情勢や他の地域と比較して地域の課題や魅力をあげることができる	5	4	3	2	1
2 問題 解決能力	③ 一人でまたはみんなと協力して様々な課題や魅力について解決策や活性策を考えることができる	5	4	3	2	1
	④ 一人でまたは協力して様々な課題や魅力について企画を立案し実施することができる	5	4	3	2	1
3 プレゼン テーション 能力	⑤ 自分の考えやグループ内で話し合った内容をまとめ発表することができる	5	4	3	2	1
	⑥ 具体的な考えや提案をスライド等を作成しわかりやすく工夫して発表することができる	5	4	3	2	1
4 新たな価値を 創造すること ができる能力	⑦ 失敗を恐れず新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	5	4	3	2	1
	⑧ 考え方や価値観の違いを超えて協働することができる	5	4	3	2	1
5 コミュニ ケーション 能力	⑨ 自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いてわからないことを質問することができる	5	4	3	2	1
	⑩ 活動や学習において大人(教員、講師、地域住民)へのインタビューや話し合いをすることができる	5	4	3	2	1
6 議論する 能力	⑪ 意見が多数出たときに話し合いにより調整してまとめることができる	5	4	3	2	1
	⑫ 相手の思いや意見を理解し、意見交換によりさらに皆が納得できる結論を出すことができる	5	4	3	2	1
7 コーディ ネート能力	⑬ 計画や探究活動が計画通り進むように方法や役割を工夫することができる	5	4	3	2	1
	⑭ 多くの人と協力したり新たなネットワークを形成して探究や活動を行うことができる	5	4	3	2	1
8 自己表現 能力	⑮ 自分の思いや意見、感情などを、聞き手に伝えたり表現することができる	5	4	3	2	1
	⑯ 地域での活動や学習の中で、相手を尊重し自分の意見や思いを表現することができる	5	4	3	2	1
9 地域への 関心	⑰ 地域(村岡・自身の出身地)が好きだ	5	4	3	2	1
	⑱ 地域の魅力や課題について説明することができる	5	4	3	2	1
	⑲ 将来何らかの形で地域に関わりたい	5	4	3	2	1
10 自身に ついて	⑳ 村岡高校の地域との協働活動に進んで取り組んでいる	5	4	3	2	1
	㉑ 村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	5	4	3	2	1
	㉒ 村岡高校に入学して良かった	5	4	3	2	1

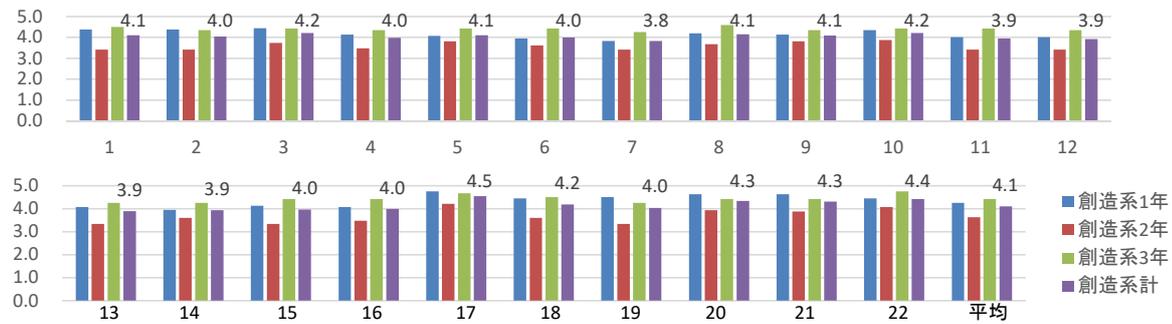
(2)生徒アンケート集計結果

地域アウトドアスポーツ類型 生徒アンケート集計

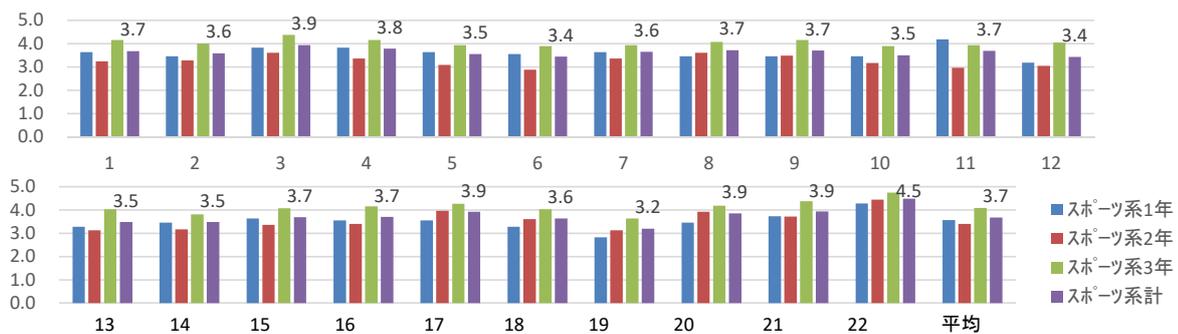
資質・能力	1		2		3		4		5		6	
	問題発見能力		問題解決能力		プレゼンテーション能力		新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		議論する能力	
内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		自分の意見として地域の課題や改善点を発見したり魅力上げることができる	社会情勢や他の地域と比較して地域の課題や魅力をあげることができる	一人でまたはみんなと協力して様々な課題や魅力について解決策や活性化策を考案することができる	一人でまたは協力して様々な課題や魅力について企画を立案し実施することができる	自分の考えやグループ内で話し合った内容をまとめ発表することができる	具体的な考えや提案をスライド等を作成しわかりやすく工夫して発表することができる	失敗を恐れず新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	考え方や価値観の違いを超えて協働することができる	自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いてわからないことを質問することができる	活動や学習において大人(教員、講師、地域住民)へのインタビューや話し合いをすることができる	意見が多数出たときに話し合いにより調整してまとめることができる
創造系1年	4.4	4.4	4.4	4.1	4.1	3.9	3.8	4.2	4.1	4.3	4.0	4.0
創造系2年	3.4	3.4	3.7	3.5	3.8	3.6	3.4	3.7	3.8	3.9	3.4	3.4
創造系3年	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.6	4.3	4.4	4.4	4.3
創造系計	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1	4.0	3.8	4.1	4.1	4.2	3.9	3.9
スポーツ系1年	3.6	3.5	3.8	3.8	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.5	4.2	3.2
スポーツ系2年	3.2	3.3	3.6	3.4	3.1	2.9	3.4	3.6	3.5	3.2	3.0	3.0
スポーツ系3年	4.1	4.0	4.4	4.1	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	3.9	3.9	4.0
スポーツ系計	3.7	3.6	3.9	3.8	3.5	3.4	3.6	3.7	3.7	3.5	3.7	3.4
類型全体	3.8	3.7	4.0	3.7	3.6	3.5	3.5	3.8	3.8	3.6	3.6	3.5
創造系1年	4.4		4.3		4.0		4.0		4.2		4.0	
創造系2年	3.4		3.6		3.7		3.5		3.8		3.4	
創造系3年	4.4		4.4		4.4		4.4		4.4		4.4	
創造系計	4.1		4.1		4.0		4.0		4.1		3.9	
スポーツ系1年	3.5		3.8		3.6		3.5		3.5		3.7	
スポーツ系2年	3.3		3.5		3.0		3.5		3.3		3.0	
スポーツ系3年	4.1		4.3		3.9		4.0		4.0		4.0	
スポーツ系計	3.6		3.9		3.5		3.7		3.6		3.6	
類型全体	3.7		3.9		3.6		3.7		3.7		3.6	

資質・能力	7		8		9			10			平均
	コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
内容	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	
		計画や探究活動が計画通り進むように方法を工夫することができる	多くの人と協力したり新たなネットワークを形成して探究や活動を行うことができる	自分の思いや意見、感情などを聞き手に伝えたり表現することができる	地域での活動や学習の中で、相手を尊重し自分の意見や思いを表現することができる	地域(村岡・自身)の出身地が好きだ	地域の魅力や課題について説明することができる	将来何らかの形で地域に関わりたい	村岡高校の地域との協働活動に前向きに取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動により成長している	村岡高校に入学して良かった
創造系1年	4.1	3.9	4.1	4.1	4.8	4.4	4.5	4.6	4.6	4.4	4.2
創造系2年	3.3	3.6	3.3	3.5	4.2	3.6	3.3	3.9	3.9	4.1	3.6
創造系3年	4.3	4.3	4.4	4.4	4.7	4.5	4.3	4.4	4.4	4.8	4.4
創造系計	3.9	3.9	4.0	4.0	4.5	4.2	4.0	4.3	4.3	4.4	4.1
スポーツ系1年	3.3	3.5	3.6	3.5	3.5	3.3	2.8	3.5	3.7	4.3	3.6
スポーツ系2年	3.1	3.2	3.4	3.4	4.0	3.6	3.1	3.9	3.7	4.4	3.4
スポーツ系3年	4.0	3.8	4.1	4.1	4.3	4.0	3.6	4.2	4.4	4.7	4.1
スポーツ系計	3.5	3.5	3.7	3.7	3.9	3.6	3.2	3.9	3.9	4.5	3.7
全体	3.6	3.6	3.7	3.7	4.2	3.7	3.6	4.1	4.0	4.5	3.8
創造系1年	4.0		4.1		4.6			4.6			4.2
創造系2年	3.5		3.4		3.7			4.0			3.6
創造系3年	4.3		4.4		4.5			4.5			4.4
創造系計	3.9		4.0		4.2			4.3			4.1
スポーツ系1年	3.4		3.6		3.2			3.8			3.6
スポーツ系2年	3.1		3.4		3.6			4.0			3.4
スポーツ系3年	3.9		4.1		4.0			4.4			4.1
スポーツ系計	3.5		3.7		3.6			4.1			3.7
類型全体	3.6		3.7		3.8			4.2			3.7

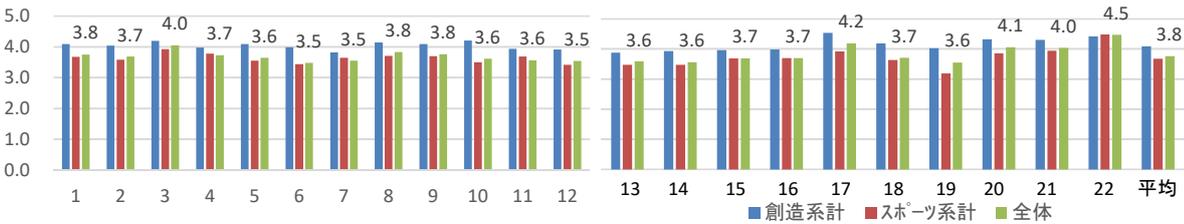
質問別（地域創造系）



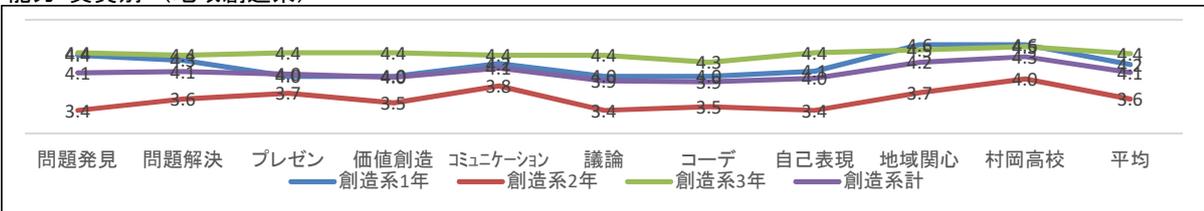
質問別（アウトドアスポーツ系）



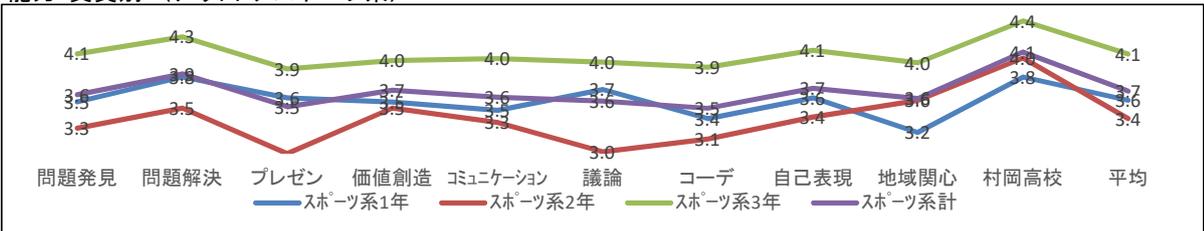
質問別（系別）



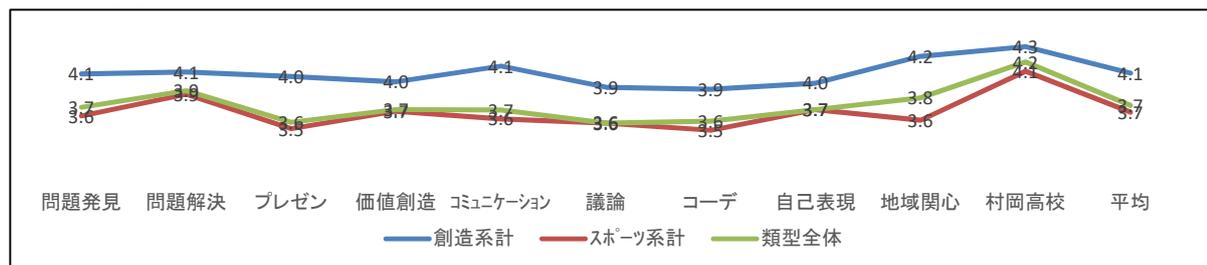
能力・資質別（地域創造系）



能力・資質別（アウトドアスポーツ系）



能力・資質（系比較）

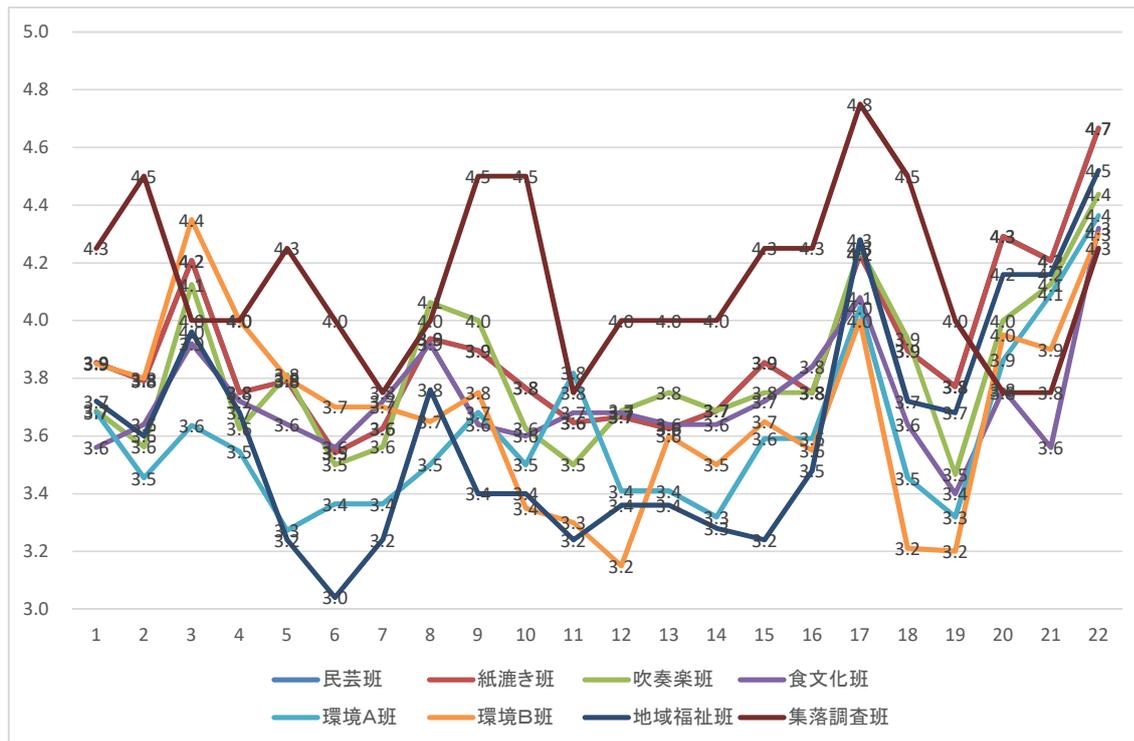


生徒アンケート集計(総合的な探究の時間) 全校生

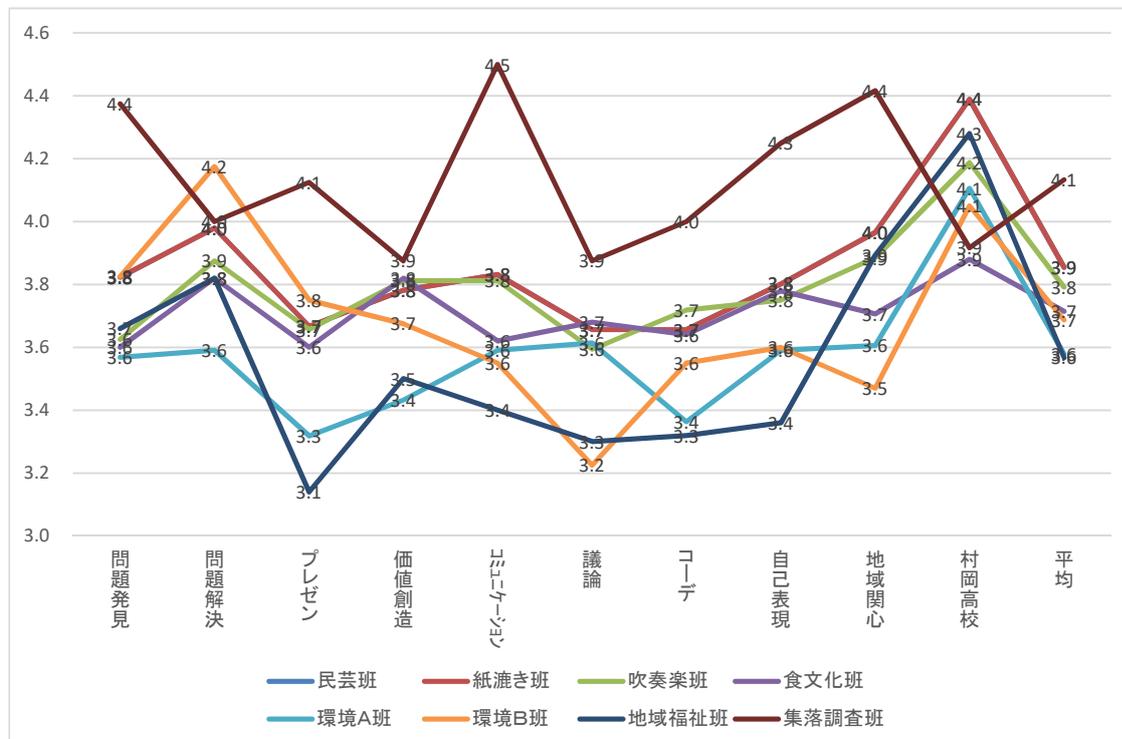
資質能力	1		2		3		4		5		6	
	問題発見能力		問題解決能力		プレゼンテーション能力		新たな価値を創造することができる能力		コミュニケーション能力		議論する能力	
内容	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		自分の意見として地域の課題や改善点を発見したり魅力をあげることができる	社会情勢や他の地域と比較して地域の課題や魅力をあげることができる	一人でまたはみんなと協力して様々な課題や魅力について解決策や活字策を考案することができる	一人でまたは協力して様々な課題や魅力について企画を立案し実施することができる	自分の考えやグループ内で話し合った内容をまとめ発表することができる	具体的な考えや提案をスライド等を作成しわかりやすく工夫して発表することができる	失敗を恐れず新しいアイデアや計画を立てて実施することができる	考え方や価値観の違いを超えて協働することができる	自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いてわからないことを質問することができる	活動や学習において大人(教員、講師、地域住民)へのインタビューや話し合いをすることができる	意見が多数出たときに話し合いにより調整してまとめることができる
民芸班	3.9	3.8	4.2	3.8	3.8	3.5	3.6	3.9	3.9	3.8	3.6	3.7
紙漉き班	3.9	3.8	4.2	3.8	3.8	3.5	3.6	3.9	3.9	3.8	3.6	3.7
吹奏楽班	3.7	3.6	4.1	3.6	3.8	3.5	3.6	4.1	4.0	3.6	3.5	3.7
食文化班	3.6	3.6	3.9	3.7	3.6	3.6	3.7	3.9	3.6	3.6	3.7	3.7
環境A班	3.7	3.5	3.6	3.5	3.3	3.4	3.4	3.5	3.7	3.5	3.8	3.4
環境B班	3.9	3.8	4.4	4.0	3.8	3.7	3.7	3.7	3.8	3.4	3.3	3.2
地域福祉班	3.7	3.6	4.0	3.7	3.2	3.0	3.2	3.8	3.4	3.4	3.2	3.4
集落調査班	4.3	4.5	4.0	4.0	4.3	4.0	3.8	4.0	4.5	4.5	3.8	4.0
民芸班	3.8		4.0		3.7		3.8		3.8		3.7	
紙漉き班	3.8		4.0		3.7		3.8		3.8		3.7	
吹奏楽班	3.6		3.9		3.7		3.8		3.8		3.6	
食文化班	3.6		3.8		3.6		3.8		3.6		3.7	
環境A班	3.6		3.6		3.3		3.4		3.6		3.6	
環境B班	3.8		4.2		3.8		3.7		3.6		3.2	
地域福祉班	3.7		3.8		3.1		3.5		3.4		3.3	
集落調査班	4.4		4.0		4.1		3.9		4.5		3.9	

資質能力	7		8		9			10			平均
	コーディネート能力		自己表現能力		地域への関心			自身について			
内容	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	
		計画や探究活動が計画通りに進むように方法を工夫することができる	多くの人と協力したり新たなネットワークを形成して探究や活動を行うことができる	自分の思いや意見、感情などを、聞き手に伝えたり表現することができる	地域での活動や学習の中で、相手を尊重し自分の意見や思いを表現することができる	地域(村・自身)の出身地が好きだ	地域の魅力や課題について説明することができる	将来何らかの形で地域に関わりたい	村岡高校の地域との協働活動に積極的に取り組んでいる	村岡高校の地域との協働活動や探究により成長している	村岡高校に入学して良かった
民芸班	3.6	3.7	3.9	3.8	4.2	3.9	3.8	4.3	4.2	4.7	3.9
紙漉き班	3.6	3.7	3.9	3.8	4.2	3.9	3.8	4.3	4.2	4.7	3.9
吹奏楽班	3.8	3.7	3.8	3.8	4.3	3.9	3.5	4.0	4.1	4.4	3.8
食文化班	3.6	3.6	3.7	3.8	4.1	3.6	3.4	3.8	3.6	4.3	3.7
環境A班	3.4	3.3	3.6	3.6	4.0	3.5	3.3	3.9	4.1	4.4	3.6
環境B班	3.6	3.5	3.7	3.6	4.0	3.2	3.2	4.0	3.9	4.3	3.7
地域福祉班	3.4	3.3	3.2	3.5	4.3	3.7	3.7	4.2	4.2	4.5	3.6
集落調査班	4.0	4.0	4.3	4.3	4.8	4.5	4.0	3.8	3.8	4.3	4.1
民芸班	3.7		3.8		4.0			4.4			3.9
紙漉き班	3.7		3.8		4.0			4.4			3.9
吹奏楽班	3.7		3.8		3.9			4.2			3.8
食文化班	3.6		3.8		3.7			3.9			3.7
環境A班	3.4		3.6		3.6			4.1			3.6
環境B班	3.6		3.6		3.5			4.1			3.7
地域福祉班	3.3		3.4		3.9			4.3			3.6
集落調査班	4.0		4.3		4.4			3.9			4.1

アンケート結果(質問内容別)



アンケート結果(資質・能力別)

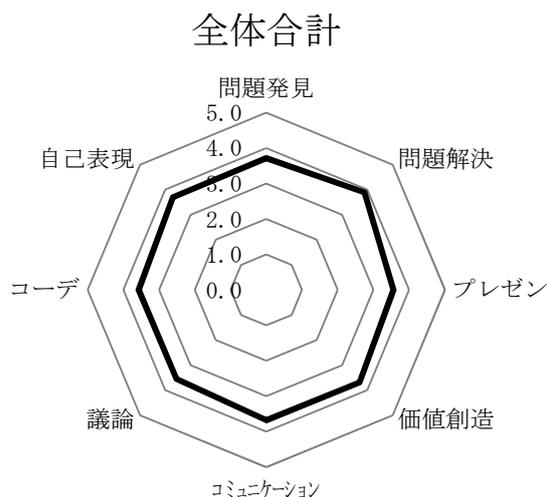


(3) 評価・分析

2021年1月に実施した生徒アンケート及び評価表(ルーブリック)を基に『つきたい能力』の到達状況について評価・分析を行った。

①全体

本年度の新型コロナの影響で、他者との関わりや、地域との協働活動が制限されたいへん厳しい状況の中での活動であったが、各項目について良好な評価(3.6~3.0)を示している。

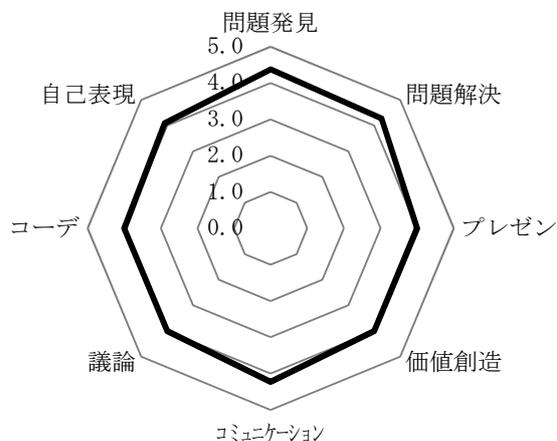


②地域創造系

地域アウトドアスポーツ類型地域創造系では、探究活動に対する取り組みの姿勢がすばらしく、全体と比較しても高い評価(3.0~4.2)を示している。今後も継続して取り組みを展開していくことが望まれる。

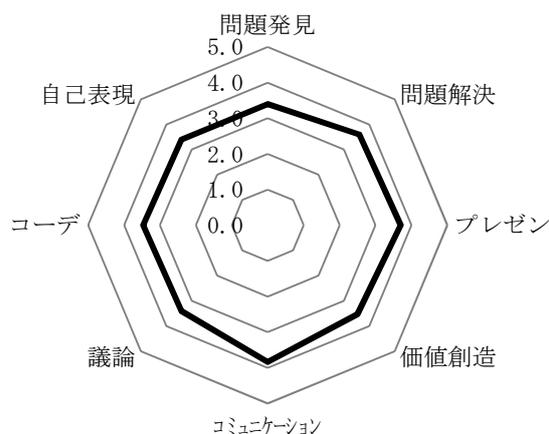
以下、各学年の具体的な評価・分析を示す。

地域創造系1年



地域創造系1年生に関しては、高い評価(4.0~4.3)を示している。特に「問題発見能力」(4.4)については、十分成果が上がっている。今後は「プレゼンテーション能力」(4.0)や「新たな価値創造」(4.0)に重点を置いた取り組みが求められている。

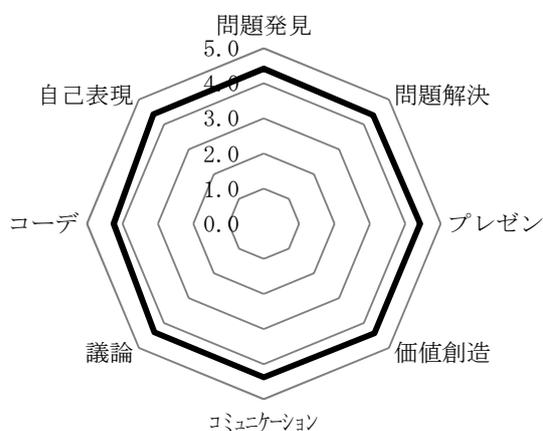
地域創造系2年



地域創造系2年生に関しては、概ね良好な評価(3.4~3.0)を示している。地域創造系

他学年と比較して全体として評価は低い、自己肯定感(意識)の違いも表れていると推測される。また生徒の大きな成長の場でもある研修合宿ができなかったことが影響していると思われる。また「問題発見能力」(3.4)や「議論する力」(3.4)がやや低い評価を示しており、グループワーク等に工夫改善が必要である。

地域創造系3年



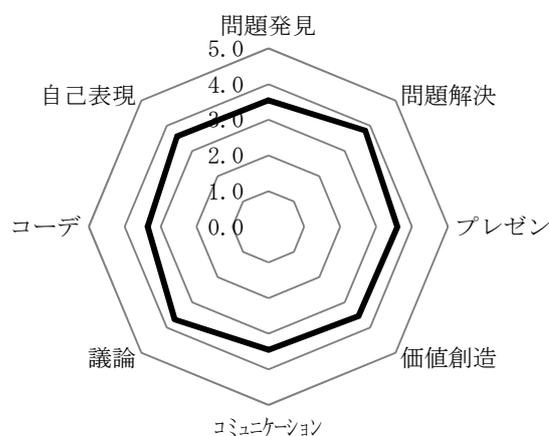
地域創造系3年生に関しては、すべての項目において、たいへん高い評価(4.3~4.4)を示している。特筆すべきは、「新たな価値創造」における「考え方や価値観の違いを超えて協働することができる」である。同事項ではたいへん高い評価(4.7)を示しており3年間の取り組みの成果が表れている。今後の地域協働において実力を発揮していくことが期待される。

③アウトドアスポーツ系

地域アウトドアスポーツ類型アウトドアスポーツ系では概ね良好な評価(3.5~3.9)を示している。特に「問題解決能力」(3.9)については地域資源を活用したアウトドアスポーツを体験する中で培われていることを示している。今後も継続して取り組むことが望まれる。

以下、各学年の具体的な評価・分析を示す。

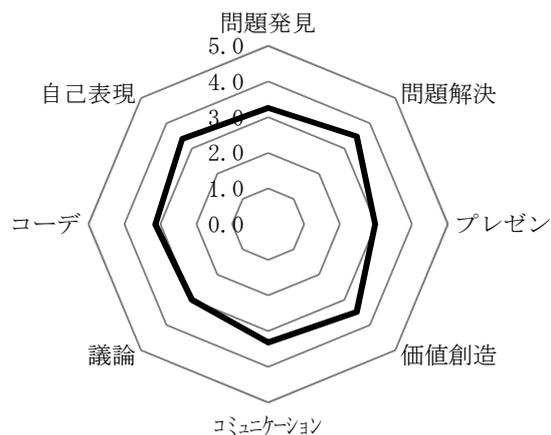
アウトドアスポーツ系1年



アウトドアスポーツ系1年生に関しては、概ね良好な評価(3.4~3.7)を示している。特に「議論する能力」(3.7)や「問題解決能力」(3.7)の評価が高く、アウトドアスポーツ体験による仲間づくりの成果と考えられる。

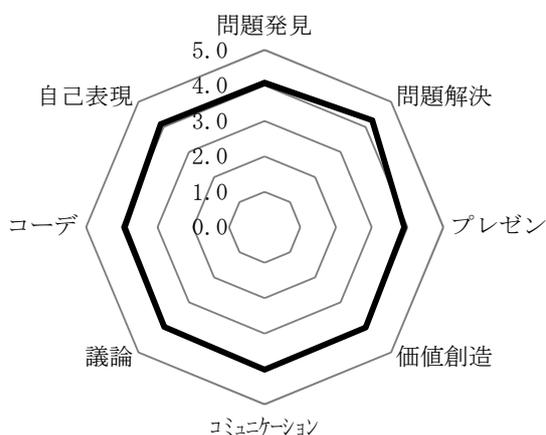
今後アウトドアスポーツのリーダー育成において「コーディネート力」(3.4)の向上が重要となる。

アウトドアスポーツ系2年



アウトドアスポーツ系 2 年生に関しては、やや低い評価(3.0~3.5)を示している。これは地域創造系 2 年生にも見られる様に自己肯定感(意識)の違いが表れているように思われる。またコロナ禍で地域との協働の場(香美町福祉課)が失われたことや、活動内容の理解不足が起因しているように思われる。再度、活動意義や目的・目標を明確にするための議論が必要である。

アウトドアスポーツ系3年



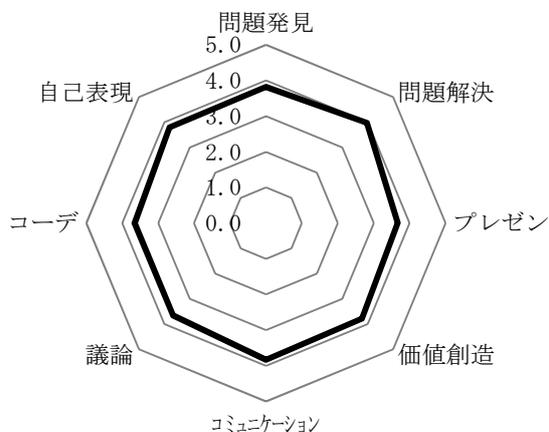
アウトドアスポーツ系 3 年生に関してはすべての項目において高い評価(3.9~4.3)を示している。特にアウトドアスポーツ(特にオリエンテーリング)で実践的に培われた「問題解決能力」については高い評価(4.3)を示している。さらに来年度開催予定のワールドマスターズゲームズ関西への協力体制を確立していくことが求められている。

④総合的な探究の時間

総合的な探究の時間では、多少のばらつきはあるものの良好な評価(3.6~3.9)となっ

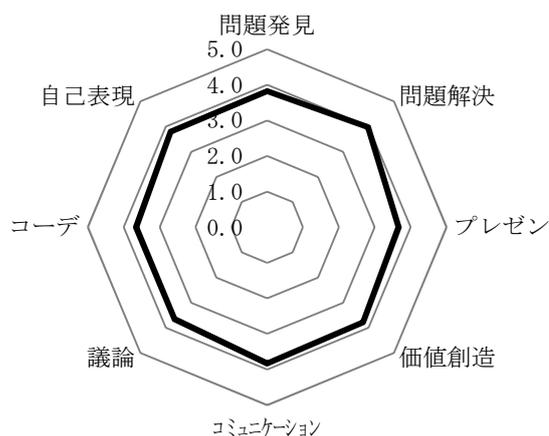
ている。

民芸班



民芸班に関しては、良好な評価(3.7~4.0)を示している。特に演舞の練習や高齢者用の踊りを考案する中で「問題解決能力」が培われ、高い評価(4.0)を示している。今後は「プレゼンテーション能力」(3.7)についての工夫・改善が求められる。

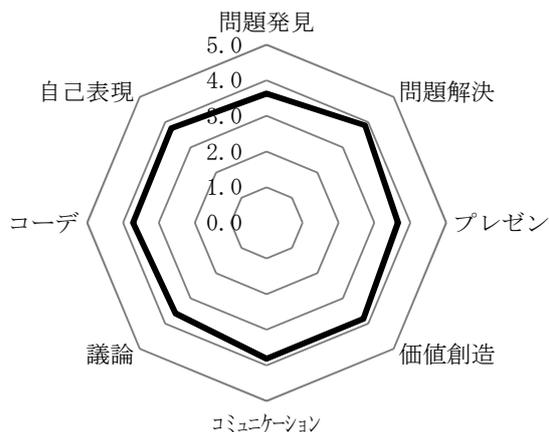
紙漉き班



紙漉き班に関しては、良好な評価(3.7~4.0)を示している。特に地域の紙漉きの専門家と協働で新商品開発等を行う中で様々な課題解決策や企画立案の力が備わ

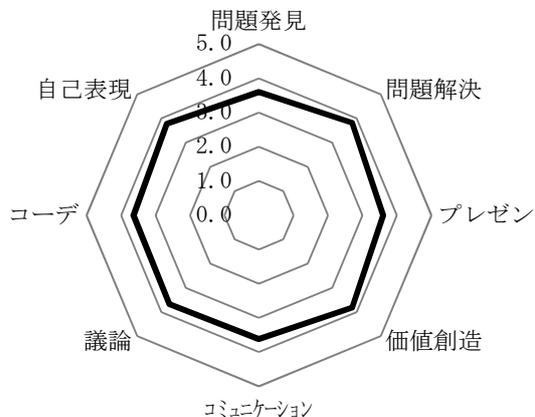
り、「問題解決能力」(4.0)が培われたと考えられる。今後はさらに「プレゼンテーション能力」(3.7)の向上による広報の強化が求められる。

吹奏楽班



吹奏楽班に関しては、概ね良好な評価(3.6~3.7)を示している。今年度はコロナ禍の影響で校外での演奏が中止となり、厳しい活動状況となったが、コロナ禍における演奏活動の工夫を議論したり、個々の演奏技術の向上に向けての議論を活発に行ったことで概ね良好な評価に結びついたと考えられる。

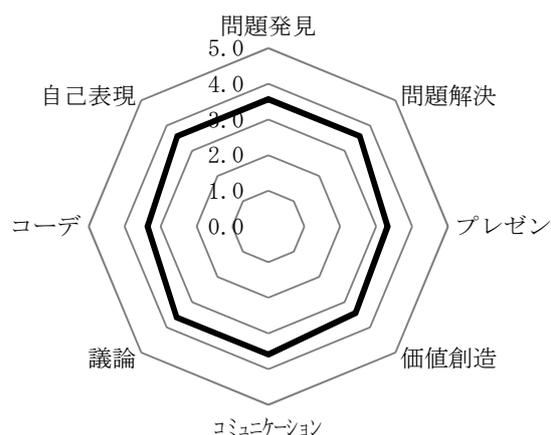
食文化班



食文化班に関しては、概ね良好な評価

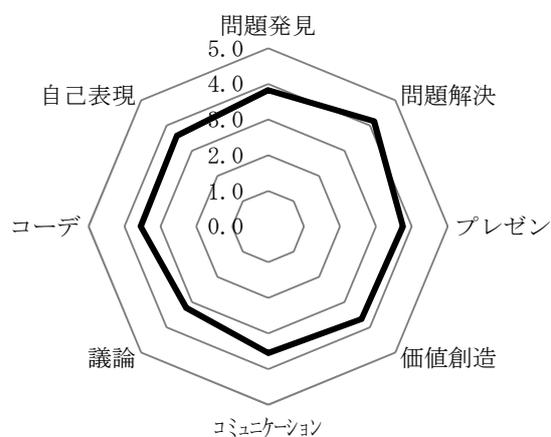
(3.6~3.7)を示している。特に地域食材を活用したレシピや食材かるたを考案し、実践するなかで「新しい価値観の創造」(3.7)が培われたと考えられる。

環境A班



環境A班に関しては、やや低い評価(3.3~3.6)を示している。田植え・草取り・稲刈り等の取り組みは評価できるが棚田保全の観点からのアプローチが不足していた。今後、棚田の土壌検査等も含め、議論を深めていく必要性を感じる。

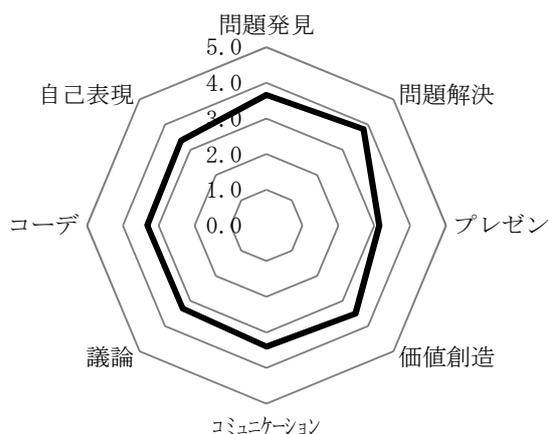
環境B班



環境B班に関しては、やや低い評価(3.2~3.3)を示している。特に「議論する能

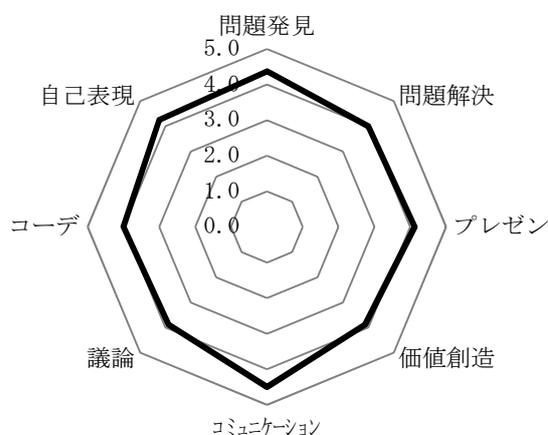
力」に対する評価(3.2)が他班と比較して極端に低い。「森の健康診断」「木の駅プロジェクト」の実習が多いことが要因と考えられる。今後はグループワーク等を積極的に取り入れた活動を導入することが望まれる。

地域福祉班



地域福祉班に関しては、やや低い評価(3.1~3.0)を示している。これは高齢者との実践がコロナ禍でできなかったことなどが要因と考えられる。しかしながら放課後こども教室のスタッフとしての活動を通して、「問題解決能力」(3.0)は培われているように思われる。また「プレゼンテーション能力」の評価(3.1)が他班と比較して極端に低い。今後、他者に発表する場を設定し、重点的に取り組みを強化していく必要がある。

集落調査班



集落調査班に関してはすべての項目において高い評価(3.9~4.5)を示している。特に地域の若者への聞き取り調査を通して「コミュニケーション能力」(4.5)が培われたと考えられる。今後は、得た情報をどのように地域活性に繋げていくのかという議論を大に行うことが期待される。

⑤地域協働について

全体では地域協働活動に積極的に取り組んでいるという評価(4.1)が高く、その中で自分自身が成長しているという評価(4.0)も高くなっており、取り組む内容の継続性が望まれている。しかし、地域の魅力や課題を説明できるという評価(3.7)はやや低くなっており、実践をどう理論化していくのが今後の課題と考えられる。

5 その他 関係資料

- ・高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ
- ・令和 2 年度実施教育課程

Portfolio of sustainable education and community

高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ

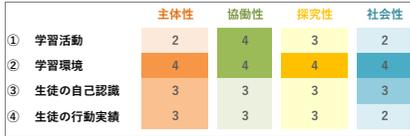
高校名	兵庫県立村岡高等学校											
年度	2020年度											
回答者数	生徒・学生	164 (内訳)	1年生	57	2年生	58	3年生	49	4年生	0	5年生	0
	(昨年度)	172 (内訳)	1年生	62	2年生	50	3年生	60	4年生	0	5年生	0
	大人	26 (内訳)	教職員	15	(昨年度)	大人	41	(内訳)	教職員	19		

【MEMO】

教育目標、育てたい生徒像など

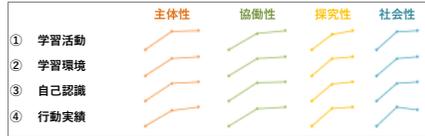
Summary 総括表

■今回の結果 (まとめ)



※肯定的回答割合が50%未満=1.50~65%=2.65%~80%=3.80%以上=4

■前回、前々回からの肯定的回答割合の推移 (まとめ)



※左から前々回、前回、今回。非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

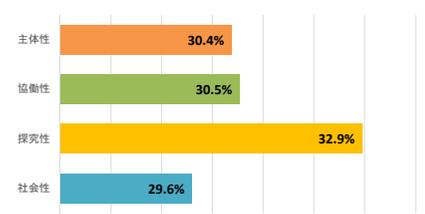
① 学習活動 (明示的なカリキュラム)

■今回の結果



※上段の数値 (%) が肯定的回答割合、下段の数値が平均値

■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)

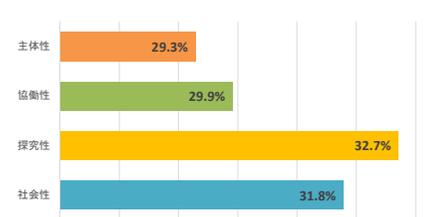


② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)

■今回の結果



■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



【学習活動】 【学習環境】 読み取り・検討の視点

- ・ 自校の強みや課題、それを増進/克服するための、協働のあり方は？
- ・ 普段から意識して取り組んでいる活動の機会や環境づくりは？その成果は出ていそうか？
- ・ 協働を支えるコーディネート機能として、どのような役割が必要か？

How to read 結果の読み取り方

このポートフォリオでは、以下の5側面、4領域、3軸により、高校と地域の学びの「いま」と「変化」を読み取ることができます。

- 5つの側面 → 各校・地域の状況を、「①学習活動」「②学習環境」「③生徒の自己能力認識」「④生徒の行動実績」「⑤満足度」の5つから把握しています。
- 4つの領域から → 各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの資質・能力に関する領域に分類しています。
- 3つの軸で → 上記のデータを「時間軸 (前年度からの伸び)」「学年軸 (学年による違い)」「地域軸 (他地域との比較)」の3つの軸で整理しています。

結果に出てくる数字や言葉は次の意味を表しています。

- 【割合 (%)】 → 各項目で「4、あてはまる」「3、どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合
- 【平均】 → 「あてはまらない=1」～「あてはまる=4」の回答の平均値
- 【他地域】 → 同じ機会に調査を実施した他校の回答の平均値
- 【回答上昇者の割合】 → (個人IDで紐づけを行い、複数回調査を実施した場合に表示) 前年と比べて、各領域の回答平均値が上がった回答者の、全回答者に占める割合

■他地域と比べた強み・伸びしろ

	強み: 他地域との差が最も (プラスに) 大きい項目とその差	伸びしろ: 他地域との差が最も (マイナスに) 大きい項目とその差
① 学習活動	92.1% 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	43.3% 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く
② 学習環境	95.1% 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	65.2% 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
③ 生徒の自己認識	87.2% 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	53.0% 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ
④ 生徒の行動実績	84.1% 探求で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	54.9% 地域社会などでボランティア活動に参加した

■総合的な生徒の満足度 (⑤)



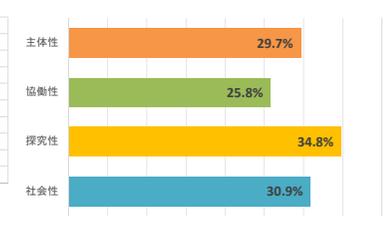
※非受検回もグラフに表示されるため読み取り注意。

③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

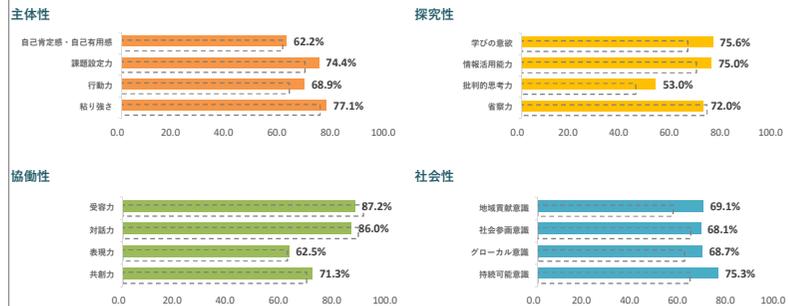
■今回の結果



■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)



■今回の結果 (詳細)



※点線は他地域における肯定的回答割合

【生徒の自己認識】 読み取り・検討の視点

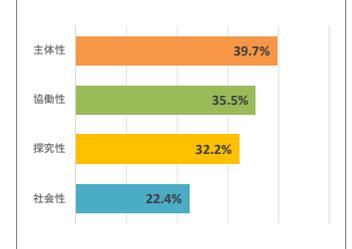
- ・ 普段から意識している、育てたい生徒像や、身につけさせたい力に関する指標の結果は？
- ・ 前回からの変化は？その要因として、何が考えられそうか？ (学習活動、学習環境と関連付けて)
- ・ 今後、意識して伸ばしていきたいと考える力は？そのために必要な「次の一手」は？

④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)

■今回の結果



■前回調査時からの変化 (回答上昇者の割合)

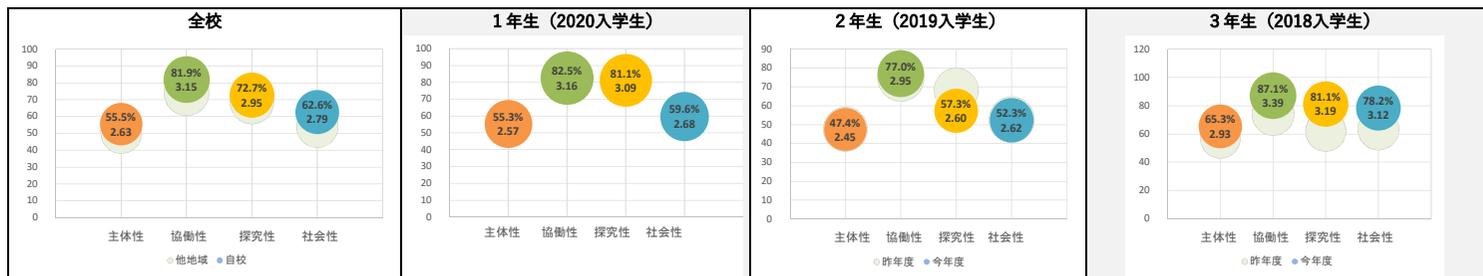


【生徒の行動実績】 読み取り・検討の視点

- ・ 生徒に期待する具体的な行動は？
- ・ 生徒の自己認識との関連は？
- ・ 具体的な行動を促すような、学習活動や学習環境づくりはできているか？

Details 詳細結果

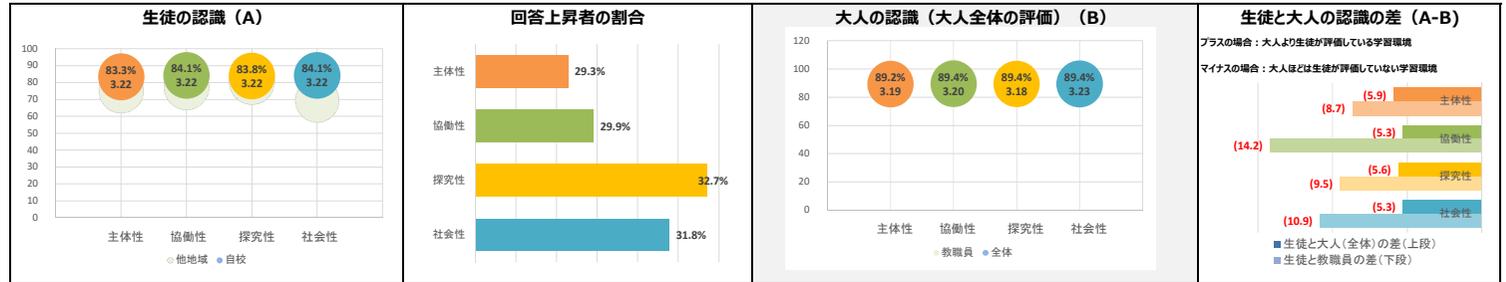
① 学習活動（明示的なカリキュラム）



	全校			1年生 (2020入学生)			2年生 (2019入学生)			3年生 (2018入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年~3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	推移	割合(%)
主体性に関わる学習活動	55.5%	2.31	5.30	55.3%	7.68	-	47.4%	-0.17	27.6%	65.3%	8.31		33.7%
5 自主的に調べものや取材を行う	67.7%	5.86	4.77	68.4%	15.20	-	62.1%	8.84	31.0%	73.5%	9.47		36.7%
6 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	43.3%	-1.25	5.84	42.1%	0.17	-	32.8%	-9.18	24.1%	57.1%	7.14		30.6%
協働性に関わる学習活動	81.9%	12.82	8.01	82.5%	7.72	-	77.0%	2.28	23.0%	87.1%	13.07		39.5%
7 グループで協力しながら学習や調べものを行う	87.8%	18.71	5.55	93.0%	1.05	-	84.5%	-7.45	19.0%	85.7%	9.71		34.7%
8 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	92.1%	14.80	6.85	94.7%	7.64	-	89.7%	2.56	19.0%	91.8%	9.84		42.9%
9 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	65.9%	4.94	11.63	59.6%	14.49	-	56.9%	11.74	31.0%	83.7%	19.67		40.8%
探究性に関わる学習活動	72.7%	14.53	3.98	81.1%	13.00	-	57.3%	-10.82	21.1%	81.1%	19.12		46.9%
10 自分の考えを文章や図表にまとめる	63.4%	18.87	0.26	77.2%	17.52	-	43.1%	-16.57	17.2%	71.4%	19.43		46.9%
11 話し合った内容をまとめる	80.5%	17.76	3.68	82.5%	1.81	-	70.7%	-9.96	15.5%	89.8%	21.80		49.0%
12 活動、学習のまとめを発表する	72.6%	8.92	5.23	78.9%	14.43	-	60.3%	-4.17	27.6%	79.6%	15.59		46.9%
13 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	74.4%	12.57	6.76	86.0%	18.22	-	55.2%	-12.57	24.1%	83.7%	19.67		44.9%
社会性に関わる学習活動	62.6%	3.81	8.57	59.6%	6.96	-	52.3%	-0.39	27.6%	78.2%	14.90		32.0%
14 地域の魅力や資源について考える	70.1%	2.85	15.03	63.2%	6.71	-	65.5%	9.07	29.3%	83.7%	17.67		30.6%
15 地域の課題の解決方法について考える	65.2%	-2.94	9.39	57.9%	-1.78	-	56.9%	-2.78	29.3%	83.7%	13.67		28.6%
16 日本や世界の課題の解決方法について考える	52.4%	11.53	1.30	57.9%	15.96	-	34.5%	-7.45	24.1%	67.3%	13.35		36.7%

● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

② 学習環境 (学びの土壌：非明示的なカリキュラム)



	生徒の認識 (A)							大人の認識 (大人全体の評価) (B)				生徒と大人の認識の差 (A-B)		
	全体 割合(%)	昨年年度との差		全体 回答上昇者	学年別			全体 割合(%)	昨年年度との差		うち教職員 割合(%)	昨年年度との差	生徒と大人(全体) 差(pt)	生徒と教職員 差(pt)
		差(pt)	他地域との差 差(pt)		1年生	2年生	3年生		差(pt)	差(pt)				
主体性に関わる学習環境	83.3%	● 8.14	● 8.20	■ 29.3%	85.7%	73.9%	91.8%	89.2%	● 7.77	92.0%	● 6.74	-2.3pt	-5.0pt	
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	84.1%	● 9.73	● 6.36	■ 36.4%	89.5%	72.4%	91.8%	88.5%	● 7.97	93.3%	● 9.12	-4.3pt	-9.2pt	
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	95.1%	● 9.08	● 6.30	■ 20.6%	98.2%	87.9%	100.0%	92.3%	● 4.50	93.3%	● -1.40	2.8pt	1.8pt	
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	89.0%	● 8.79	● 9.95	■ 25.2%	93.0%	82.8%	91.8%	92.3%	● 9.38	100.0%	● 15.79	-3.3pt	-11.0pt	
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	65.2%	● 4.78	● 9.87	■ 37.4%	64.9%	50.0%	83.7%	-	-	-	-	-	-	
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	74.4%	● 6.95	● 11.47	■ 27.1%	75.4%	62.1%	87.8%	80.8%	● 10.04	80.0%	● 6.32	-6.4pt	-5.6pt	
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	92.1%	● 9.52	● 5.23	■ 29.0%	93.0%	87.9%	95.9%	92.3%	● 6.94	93.3%	● 3.86	-0.2pt	-1.3pt	
協働性に関わる学習環境	84.1%	● 9.00	● 7.03	■ 29.9%	85.1%	75.4%	93.4%	89.4%	● 3.45	98.3%	● 8.86	-5.3pt	-14.2pt	
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	84.1%	● 12.05	● 8.54	■ 35.5%	84.2%	75.9%	93.9%	88.5%	● 10.41	100.0%	● 10.53	-4.3pt	-15.9pt	
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	83.5%	● 7.96	● 4.53	■ 29.0%	84.2%	74.1%	93.9%	84.6%	● -0.75	93.3%	● 3.86	-1.1pt	-9.8pt	
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	88.4%	● 8.18	● 6.45	■ 22.4%	87.7%	82.8%	95.9%	92.3%	● 2.06	100.0%	● 10.53	-3.9pt	-11.6pt	
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	80.5%	● 7.81	● 8.61	■ 32.7%	84.2%	69.0%	89.8%	92.3%	● 2.06	100.0%	● 10.53	-11.8pt	-19.5pt	
探究性に関わる学習環境	83.8%	● 8.41	● 3.40	■ 32.7%	82.5%	75.4%	95.4%	89.4%	● 8.94	93.3%	● 9.12	-5.6pt	-9.5pt	
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	84.8%	● 10.92	● 2.37	■ 38.3%	78.9%	81.0%	95.9%	88.5%	● 20.17	93.3%	● 24.91	-3.7pt	-8.6pt	
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	84.1%	● 5.66	● 2.85	■ 27.1%	82.5%	74.1%	98.0%	92.3%	● 4.50	93.3%	● 9.12	-8.2pt	-9.2pt	
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	86.6%	● 8.10	● 2.17	■ 31.8%	84.2%	79.3%	98.0%	88.5%	● 0.66	93.3%	● -1.40	-1.9pt	-6.7pt	
31 お互いに問いかけあう機会がある	79.9%	● 8.95	● 6.20	■ 33.6%	84.2%	67.2%	89.8%	88.5%	● 10.41	93.3%	● 3.86	-8.6pt	-13.5pt	
社会性に関わる学習環境	84.1%	● 8.42	● 14.73	■ 31.8%	82.0%	79.3%	92.3%	89.4%	● 1.01	95.0%	● 0.26	-5.3pt	-10.9pt	
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	87.2%	● 3.47	● 9.08	■ 25.2%	87.7%	84.5%	89.8%	96.2%	● 3.47	100.0%	● 5.26	-9.0pt	-12.8pt	
25 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	85.4%	● 13.85	● 11.57	■ 39.3%	82.5%	82.8%	91.8%	80.8%	● -11.91	80.0%	● -20.00	4.6pt	5.4pt	
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	84.8%	● 5.10	● 18.85	■ 26.2%	84.2%	77.6%	93.9%	92.3%	● -2.81	100.0%	● 5.26	-7.6pt	-15.2pt	
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	79.3%	● 11.25	● 19.44	■ 36.4%	73.7%	72.4%	93.9%	88.5%	● 15.29	100.0%	● 10.53	-9.2pt	-20.7pt	

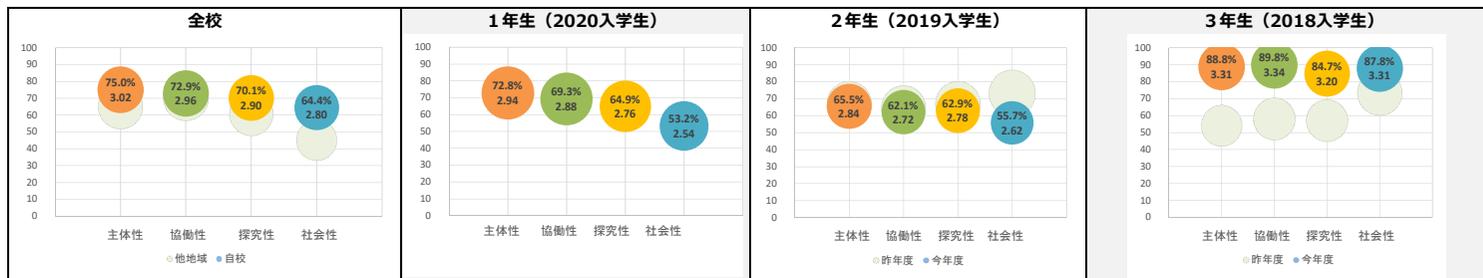
※大人の自己評価は、「20_大人用」シートでご確認いただけます。

③ 生徒の自己認識 (資質・能力の主観的認識)

● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

	全校			1年生 (2020入学生)			2年生 (2019入学生)			3年生 (2018入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年~3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	推移	割合(%)
主体性に関わる自己認識	70.7%												
【自己肯定感・自己有用感】	62.2%												
49 自分にはよいところがあると思う	70.7%	● 3.87	● 1.50	63.2%	● 13.96	-	55.2%	● 5.98	24.1%	69.4%	● 16.39		35.7%
50 私は、自分自身に満足している	53.7%	● 8.89	● 3.21	52.6%	● 10.70	-	46.6%	● 4.62	24.1%	63.3%	● 23.27		40.8%
【課題設定力】	74.4%												
37 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	74.4%	● 10.44	● 5.34	71.9%	● 2.57	-	65.5%	● -3.84	19.0%	87.8%	● 25.76		42.9%
【行動力】	68.9%												
38 目標を設定し、確実に行動することができる	70.1%	● 8.49	● 7.21	66.7%	● 13.44	-	60.3%	● 7.12	31.0%	85.7%	● 15.71		38.8%
51 自分で計画を立てて活動することができる	67.7%	● 3.73	● 4.19	57.9%	● -0.17	-	56.9%	● -1.17	22.4%	91.8%	● 19.84		36.7%
【粘り強さ】	77.1%												
35 うまくいか分からないことにも意欲的に取り組む	80.5%	● 0.26	● 2.52	75.4%	● -8.43	-	79.3%	● -4.56	17.2%	87.8%	● 5.76		28.6%
45 忍耐強く物事に取り組むことができる	73.8%	● 3.43	● 2.24	70.2%	● 7.27	-	65.5%	● 2.61	34.5%	87.8%	● 17.76		30.6%
協働性に関わる自己認識	76.8%												
【受容力】	87.2%												
41 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	87.2%	● 1.73	● -3.28	80.7%	● -8.01	-	87.9%	● -0.78	15.5%	93.9%	● 7.88		30.6%
【対話力】	86.0%												
40 相手の意見を丁寧に聞くことができる	86.0%	● 1.09	● -2.52	82.5%	● -3.03	-	82.8%	● -2.73	15.5%	93.9%	● 9.88		24.5%
【表現力】	62.5%												
47 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	68.9%	● 7.27	● 2.03	61.4%	● 4.95	-	65.5%	● 9.07	32.8%	81.6%	● 13.63		36.7%
48 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	56.1%	● 4.93	● -0.74	47.4%	● 8.66	-	50.0%	● 11.29	37.9%	73.5%	● 23.47		49.0%
【共創力】	71.3%												
42 共同作業だと、自分の力が発揮できる	71.3%	● 6.81	● 2.25	73.7%	● 15.62	-	60.3%	● 2.28	24.1%	81.6%	● 5.63		20.4%
探究性に関わる自己認識	68.9%												
【学びの意欲】	75.6%												
36 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	76.2%	● 11.68	● 10.73	70.2%	● 7.27	-	70.7%	● 7.79	34.5%	89.8%	● 27.80		46.9%
58 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	66.5%	● 8.32	● 10.98	61.4%	● 9.79	-	58.6%	● 7.01	29.3%	81.6%	● 21.63		42.9%
64 学習を通じて、自分がしたいことが増えている	84.1%	● 11.47	● 8.06	87.7%	● 15.14	-	74.1%	● 1.56	22.4%	91.8%	● 21.84		46.9%
【情報活用能力】	75.0%												
43 情報を、勉強したごとに関連づけて理解できる	77.4%	● 8.83	● 1.98	78.9%	● 16.04	-	67.2%	● 4.34	27.6%	87.8%	● 19.76		38.8%
44 勉強したものを実際に応用してみる	72.6%	● 9.19	● 9.83	71.9%	● 20.32	-	58.6%	● 7.01	34.5%	89.8%	● 23.80		38.8%
【批判的思考力】	53.0%												
39 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	53.0%	● 9.44	● 7.94	40.4%	● 9.71	-	44.8%	● 14.18	32.8%	77.6%	● 29.55		42.9%
【省察力】	72.0%												
46 自分を客観的に理解することができる	72.0%	● 3.93	● -1.36	71.9%	● 5.80	-	58.6%	● -7.51	20.7%	87.8%	● 23.76		42.9%
社会性に関わる自己認識	70.3%												
【地域貢献意識】	69.1%												
62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	55.5%	● 3.16	● 11.64	47.4%	● 8.66	-	43.1%	● 4.39	32.8%	79.6%	● 27.59		49.0%
53 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	75.0%	● 5.81	● 15.42	63.2%	● -7.81	-	72.4%	● 1.45	19.0%	91.8%	● 21.84		42.9%
55 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	76.8%	● -3.98	● 10.73	77.2%	● -5.07	-	67.2%	● -15.02	8.6%	87.8%	● 7.76		30.6%
【社会参画意識】	68.1%												
54 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	53.0%	● 2.78	● 4.25	65.5%	● 4.21	-	58.6%	● -2.67	20.7%	82.3%	● 13.65		39.5%
59 地域や社会での問題やできごとに関心がある	73.8%	● -1.22	● 4.97	66.7%	● -7.53	-	70.7%	● -3.50	22.4%	85.7%	● 7.71		38.8%
52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行こうと思う	77.4%	● 3.60	● 1.54	75.4%	● 1.25	-	69.0%	● -5.23	17.2%	89.8%	● 15.80		34.7%
【グローバル意識】	68.7%												
56 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	71.3%	● 3.32	● 3.32	71.9%	● 10.64	-	58.6%	● -2.67	22.4%	85.7%	● 13.71		42.9%
61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	78.7%	● 15.29	● 9.70	82.5%	● 14.71	-	70.7%	● 2.95	20.7%	83.7%	● 17.67		46.9%
60 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	56.1%	● 6.68	● 9.18	50.9%	● 13.78	-	48.3%	● 11.18	34.5%	71.4%	● 25.43		40.8%
【持続可能意識】	75.3%												
57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	68.9%	● 5.53	● 13.26	64.9%	● 6.85	-	62.1%	● 4.00	25.9%	81.6%	● 15.63		34.7%
自分の将来について明るい希望を持っている	81.7%	● 14.85	● 10.27	84.2%	● 21.31	-	69.0%	● 6.06	27.6%	93.9%	● 25.88		36.7%

④ 生徒の行動実績 (資質・能力の発揮)



● 10pt以上の増加 ● 0~10ptの増加 ● 減少

	全校			1年生 (2020入学生)			2年生 (2019入学生)			3年生 (2018入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年~3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	推移	割合(%)
主体性に関わる行動	75.0%	● 13.64	● 9.95	● 72.8%	● 5.87	-	● 65.5%	● -1.42	■ 27.6%	● 88.8%	● 34.78	▲	■ 54.1%
68 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	84.1%	● 15.06	● 9.25	86.0%	● 8.55	-	74.1%	● -3.28	■ 22.4%	93.9%	● 31.88	▲	■ 49.0%
71 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	65.9%	● 12.22	● 10.64	59.6%	● 3.20	-	56.9%	● 0.44	■ 32.8%	83.7%	● 37.67	▲	■ 59.2%
協働性に関わる行動	72.9%	● 6.96	● 2.74	● 69.3%	● 4.78	-	● 62.1%	● -2.45	■ 18.1%	● 89.8%	● 31.80	▲	■ 56.1%
69 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	71.3%	● 2.25	● 2.17	64.9%	● 0.40	-	62.1%	● -2.45	■ 19.0%	89.8%	● 27.80	▲	■ 55.1%
70 友人などから、意見やアドバイスを求められた	74.4%	● 11.66	● 3.31	73.7%	● 9.17	-	62.1%	● -2.45	■ 17.2%	89.8%	● 35.80	▲	■ 57.1%
探究性に関わる行動	70.1%	● 5.12	● 9.33	● 64.9%	● -2.02	-	● 62.9%	● -4.00	■ 19.0%	● 84.7%	● 27.69	▲	■ 48.0%
72 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	72.0%	● 5.59	● 9.41	64.9%	● -2.83	-	67.2%	● -0.50	■ 19.0%	85.7%	● 29.71	▲	■ 53.1%
73 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	68.3%	● 4.66	● 9.26	64.9%	● -1.22	-	58.6%	● -7.51	■ 19.0%	83.7%	● 25.67	▲	■ 42.9%
社会性に関わる行動	64.4%	● -11.02	● 19.34	● 53.2%	● -19.90	-	● 55.7%	● -17.37	■ 19.0%	● 87.8%	● 14.42	▲	■ 26.5%
66 いま住んでいる地域の行事に参加した	61.0%	● -13.57	● 24.67	47.4%	● -30.05	-	51.7%	● -25.70	■ 19.0%	87.8%	● 9.76	▲	■ 20.4%
67 地域社会などでボランティア活動に参加した	54.9%	● -21.49	● 20.23	38.6%	● -38.82	-	46.6%	● -30.87	■ 15.5%	83.7%	● 9.67	▲	■ 24.5%
74 先生、保護者以外の地域の大人と、なげない会話を交わした	77.4%	● 1.98	● 13.13	73.7%	● 9.17	-	69.0%	● 4.45	■ 22.4%	91.8%	● 23.84	▲	■ 34.7%

⑤ 総合的な生徒の満足度

	全校			1年生 (2020入学生)			2年生 (2019入学生)			3年生 (2018入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年~3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	推移	割合(%)
75 今の生活全般に対する満足度	75.0%	● 18.60	● 11.83	80.7%	● 33.93	-	69.0%	● 22.19	■ 50.0%	75.5%	● 11.51	▲	■ 40.8%
63 この学校に入ってよかったと思う	96.3%	● 16.69	● 12.11	96.5%	● 7.78	-	94.8%	● 6.12	■ 17.2%	98.0%	● 19.96	▲	■ 34.7%

2020_新設問 (パイロット実施)

	全校			1年生 (2020入学生)			2年生 (2019入学生)			3年生 (2018入学生)			
	全体	昨年度との差	他地域との差	学年	19入学生との差	18入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年~3年	回答上昇者
	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	割合(%)	差(pt)	推移	割合(%)
76 国際社会の課題解決に貢献したい	57.9%	-	● 5.72	49.1%	-	-	48.3%	-	-	79.6%	-	▲	-
77 まだ世の中のない新しい技術やサービスを生み出してみたい	53.0%	-	● -1.34	52.6%	-	-	43.1%	-	-	65.3%	-	▲	-
78 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることできる	51.8%	-	● 8.39	50.9%	-	-	39.7%	-	-	67.3%	-	▲	-

令和2年度実施教育課程

	1 年		2 年			3 年			
	地域アウトドア スポーツ類型	アウトドア スポーツ系	地域創造系		アウトドア スポーツ系	地域創造系			
			人文科学類型	自然科学類型		人文科学類型	自然科学類型		
1	国語総合(4)		現代文B(2)			現代文B(2)			
2	(うち現代文)(2)								
3	(うち古典)(2)		古典B(2)			古典B(2)			
4									
5	現代社会(2)		日本史B(4)			世界史A(2)			
6			地 理B(4)						
7	数学 I (3)					日本史B(3)			
8						地 理B(3)			
9			体育(3)						
10	数学A(2)					体 育(2)			
11									
12	化学基礎(2)		保健(1)			コ ミュ ニ ケー ション 英 語 Ⅱ (4)	コ ミュ ニ ケー ション 英 語 Ⅱ (4)		
13									
14	生物基礎(2)		化学(3)						
15									
16	体育(3)		コミュニケーション英語Ⅱ(3)			英語表現Ⅱ(2)	英語表現Ⅱ(2)		
17									
18	保健(1)		英語表現Ⅱ(2)			【グラフィック デザイン】(3)	【時事現代社会】(3)	【化学探究B】 (3)	
19	音楽Ⅰ(2)								生物(3)
20	書道Ⅰ(2)								
21	コミュニケーション英語Ⅰ(3)		数学Ⅱ(2)	数学Ⅱ(4)	数学Ⅱ(4)	科学と人間生活(2)	国語表現(2)	物理(4)	
22			【スポーツ実践Ⅰ】(1)				【化学探究A】(2)		
23			【生涯スポーツ探究Ⅰ】(1)				【冒険教育Ⅱ】(2)		【基礎英語】(2)
24									
25	英語表現Ⅰ(2)		【国語探究】(2) フードデザイン(2-4)	数学B(2)	数学B(2)	【スポーツ実践Ⅱ】(1) 【生涯スポーツ探究Ⅱ】(1)	【英語探究】(2)	【基礎からの 数学】(4)	
26									
27	家庭基礎(2)		【冒険教育Ⅰ】(2)	【基礎英語入門】(2)	生物(2)	前期:物 理基礎 (2) 後期:物 理(2)	数学Ⅱ(2)	【古典文学 講読】(2)	数学Ⅲ(6)
28									
29	社会と情報(2)		科学と人間生活(2)	物理基礎(2)			【ファンダメンタルスピーチ】(2) 子どもの発達と保育(2)【日本史探究】(2) 【地理探究】(2)【スピーチ】(2)		
30									
31	【協働のまちづくり】(1)		総合的な探究の時間(1)			総合的な学習の時間(1)			
32	ホームルーム(1)		ホームルーム(1)			ホームルーム(1)			
33	【地域学入門】		【地域スポーツⅠ】(1)	【地域探求Ⅰ】(1)(地域創造系)		【地域スポーツⅡ】(1)	【地域探求Ⅱ】(1)(地域創造系)		
		地域アウトドア スポーツ類型	アウトドア スポーツ系	人文科学類型	自然科学類型	アウトドア スポーツ系	人文科学類型	自然科学類型	

()内の数字は、週あたりの時間数
【 】は、学校設定科目



水に浮く射添和紙 「和雲」

兵庫県立村岡高等学校

普通科（地域アウトドアスポーツ類型）

〒 669 - 01311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2931

[TEL] 0796-94-0201 [FAX] 0796-94-0203

[E-mail] Muraoka_hs@pref.hyogo.lg.jp

